

「サイクル機構モニターいばらき」モニターから
寄せられた意見について

第1期(平成11年度)～第3期(平成13年度)分



2002年6月

核燃料サイクル開発機構
大洗工学センター

本資料の全部または一部を複写・複製・転載する場合は、下記にお問い合わせください。

〒319-1184 茨城県那珂郡東海村村松4番地49

核燃料サイクル開発機構

技術展開部 技術協力課

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:
Technical Cooperation Section,
Technology Management Division,
Japan Nuclear Cycle Development Institute
4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki, 319-1184,
Japan

© 核燃料サイクル開発機構 (Japan Nuclear Cycle Development Institute)
2002

「サイクル機構モニターいばらき」モニターから寄せられた意見について

第1期（平成11年度）～第3期（平成13年度）分

宮地 紀子*, 千田 正樹**, 関野 英夫***

要 旨

地域住民の声を直接聴き、その声をサイクル機構の業務運営に反映させることを目的に、サイクル機構の所在市町村（茨城地区）を中心とする隣々接市町村までに在住する地域の方を、1年間を任期に「サイクル機構モニターいばらき」モニターとして委嘱し、会合等をこれまでに3期（平成11年度～平成13年度）開催した。

モニターからの意見及び意識変化の概略について以下に示す。

《サイクル機構について》

- (1) 多くのモニターが、安全を全てに優先させることを望んでいる。
- (2) 多くのモニターが、広報において専門用語は使わず、よりわかりやすい説明を望んでいる。
- (3) サイクル機構職員には、事故等を自分のものとして受け止める姿勢並びに、情報を公開しようとする姿勢が欠けている、と感じるモニターが多い傾向にある。
- (4) 多くのモニターが、モニター制度は地域住民と職員が交流できる良い制度であることから、継続を望んでいる。

《モニターの意識変化について》

- (1) モニターを経験することにより、サイクル機構に対する印象は改善される傾向にある。
- (2) モニター経験前後で、大部分の方が変わらず原子力発電を必要と考えているが、モニター経験後もその約8割が、安全性に対して多少なりとも不安を感じる傾向にある。

以上の結果から、モニター制度の開設により、地域住民の生の意見を直接把握できるとともに、サイクル機構の印象を改善できる効果が認められた。

* 管理部 地域交流課

現・照射施設運転管理センター 燃料材料試験部 照射燃料集合体試験室

** 管理部 地域交流課

*** 東海事業所 運営管理部 地域交流課

目 次

1	はじめに	1
2	「サイクル機構モニターいばらき」について	2
2.1	目的	2
2.2	モニターの選任	2
2.3	モニターの役割	3
2.4	モニター委嘱期間及び会合の開催時期	3
2.5	モニター委嘱	3
2.6	モニター会合内容	3
2.7	モニターの事務局	4
3	「サイクル機構モニターいばらき」会合の概要	5
3.1	第1期	5
1)	概要	5
2)	モニターの構成	6
3)	主な意見	6
3.2	第2期	6
1)	概要	6
2)	モニターの構成	7
3)	主な意見	7
3.3	第3期	8
1)	概要	8
2)	モニターの構成	10
3)	主な意見	10
4	モニターから寄せられた主な意見	11
4.1	概要	11
4.2	モニターからの意見	11
1)	サイクル機構が改善すべき点	11
2)	サイクル機構の良い点	12
5	JCO 事故に関する意識調査	13
5.1	概要	13
5.2	アンケート結果	13
5.3	考察	14
6	モニター経験前後の意識調査	16
6.1	概要	16

6.2	アンケート結果	16
1)	現在の「サイクル機構」に対する印象について	16
2)	「サイクル機構」に対するイメージについて	16
3)	サイクル機構職員に欠けているものについて	17
4)	「サイクル機構」の地域への溶けこみについて	18
5)	原子力発電の必要性及びそれへの不安について	18
6)	原子力発電に不安を感じる理由について	19
7)	今後期待するエネルギーについて	19
6.3	各設問に対する考察	20
1)	現在の「サイクル機構」に対する印象について	20
2)	「サイクル機構」に対するイメージについて	20
3)	サイクル機構職員に欠けているものについて	20
4)	「サイクル機構」の地域への溶けこみについて	21
5)	原子力発電の必要性及びそれへの不安について	21
6)	原子力発電に不安を感じる理由について	21
7)	今後期待するエネルギーについて	22
6.4	全体のまとめ	22
6.5	今後の課題	23
7	サイクル機構の取組み	24
7.1	概要	24
7.2	業務運営に関することについて	24
7.3	広報に関することについて	24
7.4	「サイクル機構モニターいばらき」に関することについて	25
8	まとめ	26
9	謝辞	27
10	データ集	43
	(付録1)【事務局名簿】	45
	(付録2)【(株)東京電力原子力発電所見学後アンケート結果】	46
	(付録3)【モニターからの意見】	57
	(付録4)【JCO 事故に関するアンケート結果】	65
	(付録5)【アンケート】	83
	(付録6)【第1期アンケート結果】	86
	(付録7)【第2期アンケート結果】	97
	(付録8)【第3期アンケート結果】	105
	(付録9)【「サイクル機構モニターいばらき」の概要】	117

図表リスト

表 1	「サイクル機構モニターいばらき」名簿（東海対象分）	28
表 2	「サイクル機構モニターいばらき」名簿（大洗対象分）	29
表 3-1	モニターから頂いた意見に対するサイクル機構の取組みについて （業務運営に関すること）	30
表 3-2	モニターから頂いた意見に対するサイクル機構の取組みについて （広報に関すること）	31
表 3-3	モニターから頂いた意見に対するサイクル機構の取組みについて （「サイクル機構モニターいばらき」に関すること）	32
図 1	モニターの性別及び年齢構成	33
図 2-1	現在の「サイクル機構」に対する印象 ～初回と最終回の比較～	34
図 2-2	現在の「サイクル機構」に対する印象 ～%の比較～	34
図 3-1	「サイクル機構」に対するイメージ ～初回と最終回の比較～	35
図 3-2	「サイクル機構」に対するイメージ ～%の比較～	35
図 4-1	「サイクル機構」に欠けているもの ～初回と最終回の比較～	36
図 4-2	「サイクル機構」に欠けているもの ～%の比較～	36
図 5-1	「サイクル機構」の地域への溶けこみ ～初回と最終回の比較～	37
図 5-2	「サイクル機構」の地域への溶けこみ ～%の比較～	37
図 6-1	原子力発電の必要性 ～初回と最終回の比較～	38
図 6-2	原子力発電の必要性 ～%の比較～	38
図 7-1	原子力発電への不安 ～初回と最終回の比較～	39
図 7-2	原子力発電への不安 ～%の比較～	39
図 8-1	原子力発電への不安の理由 ～初回と最終回の比較～	40
図 8-2	原子力発電への不安の理由 ～%の比較～	40
図 9-1	今後期待するエネルギー ～初回と最終回の比較～	41
図 9-2	今後期待するエネルギー ～%の比較～	41

1 はじめに

平成 11 年 3 月に茨城地区にて発足したモニター制度、「サイクル機構モニターいばらき」は平成 14 年 3 月末までに延べ 99 名をモニターとして委嘱し、主に「サイクル機構モニターいばらき」会合（以下、モニター会合という）を通じて意見を頂くと共に、アンケートを適宜実施した。

モニターは、東海事業所、大洗工学センターが所在する東海村、大洗町及び旭村を中心とした隣々接市町村までに在住する地域の方々であり、本報告書に記述の意見はこれら住民の生の声である。

本報告書は、モニター会合の内容及び頂いた意見について記し、併せて会合にて実施したアンケート結果についてまとめ、モニターの『サイクル機構』や、『原子力』に対する意識の変化等について分析したものである。

2 「サイクル機構モニターいばらき」について

2.1 目的

業務の透明性を図り、社会に開かれた体制を構築することを目的として、「サイクル機構モニターいばらき」の制度（以下、モニター制度という）を導入した。具体的には、サイクル機構の技術的及び社会的信頼を確立し、それを維持するために、地域の方々を対象として、サイクル機構の業務内容や原子力の基本知識を広く紹介すると共に、直接その声を聴き、サイクル機構の業務運営に資する双方向の制度として、モニター制度を導入した。

2.2 モニターの選任

第1期のモニターは、東海村、大洗町の立地、隣接、隣々接市町村役場から各市町村在住の方を1～3名推薦頂き、その方をモニターとして委嘱した。具体的には、立地町村は3名、隣接市町村は2名、隣々接市町村は1名をモニターとして委嘱することとした。また第2期以降のモニターは前期モニターからの紹介とし、同一市町村在住の友人、知人を紹介して頂き、その方を次期モニターとして委嘱した。紹介が困難であった市町村については第1期モニターと同様に、市町村役場から推薦して頂いた方をモニターとして委嘱した。

(1) モニターの構成

東海事業所の対象となる地域は以下の通りである。

- ・ 所在地（立地）：東海村
- ・ 隣接市町村：日上市、那珂町、ひたちなか市、常陸太田市
- ・ 隣々接市町村：十王町、水府村、金砂郷町、大宮町、瓜連町、桂村、常北町

大洗工学センターの対象となる地域は以下の通りである。

- ・ 所在地（立地）：大洗町、旭村
- ・ 隣接市町村：水戸市、茨城町、鉾田町
- ・ 隣々接市町村：笠間市、友部町、内原町、岩間町、美野里町、小川町

(2) モニターの任期

モニターの任期は1年間とし、再任は行わないこととした。

(3) モニターの資格

モニターは満20歳以上であることを条件とし、性別、職業は問わないこととした。但し、サイクル機構関係者はモニターの対象外とした。

2. 3 モニターの役割

モニターの役割は、大洗工学センターおよび東海事業所にて開催する会合や原子力施設見学会に参加するとともに、アンケートへの協力や懇談会、説明会を通じてサイクル機構の業務や原子力全般について率直な意見を述べることを主な役割とした。この他、サイクル機構が発行する各種刊行物も適宜配布し、一読を願った。

2. 4 モニター委嘱期間および会合の開催時期

モニターは各年度を区切りとして委嘱期間とした。具体的には、第1期は、平成11年3月23日～平成12年3月31日まで、第2期は平成12年5月22日～平成13年3月31日まで、第3期は平成13年6月13日～平成14年3月31日までをそれぞれのモニター委嘱期間とした。

各期の初回会合開催時期及び年間会合開催回数は以下の通りである。

○第1期：平成11年3月23日初回開催。合計4回開催。

○第2期：平成12年5月22日初回開催。合計4回開催。

○第3期：平成13年6月13日初回開催。合計6回開催。

2. 5 モニター委嘱

第1期は合計32名(女性10名含む)、第2期は合計33名(女性14名含む)、第3期は合計34名(女性16名含む)をモニターとして委嘱し、第1期～第3期までに男性59名、女性40名、合計99名の方々をモニターとして委嘱した。委嘱したモニターの名簿を表1及び表2に、モニターの性別及び年齢構成を図1に示す。

2. 6 モニター会合内容

各期とも会合は基本的に概ね午前10時から午後3時半までの時間帯で、大洗工学センターと東海事業所にて交互に会合を開催した。会合内容については各期とも、初回、第2回会合において、東海事業所、大洗工学センターの概要説明及び施設見学を実施した。また各期を通じて基本的には初回を除く会合において7～9名程度のグループにわかれてのディスカッションを実施した。各期を通じて最終会合におけるグループディスカッションのテーマは『サイクル機構へのアドバイス』とした。

各期の特徴としては、第1期はモニター制度が始めての試みであったことから、会合を実施することを目的の一つとし、モニター会合そのものの運営スタイルについて検討した。第2期はサイクル機構と機構外の原子力施設を比較し、その観点から意見を頂く目的で、(株)東京電力福島第一発電所の見学

を実施した。第 3 期はサイクル機構外原子力施設の見学（株東京電力福島第二発電所を見学）を継続したほか、モニターからの意見、要望から、第 1 期～第 3 期までのモニターが集う合同会合を開催した。

その他、初回と最終会合において各期共通のアンケート（サイクル機構や原子力について問うもの）を実施した。このアンケートは原子力全般やサイクル機構に対するモニターの意識変化を調査するために、初回及び最終会合で同じものとした。アンケート結果は「6 アンケート結果」に示す。

2.7 モニターの事務局

モニターの事務局は、東海事業所、大洗工学センターのそれぞれの地域交流課においた。それぞれの事務局は、各対象地域のモニターへの対応を担当することとした。

各期の事務局を、「10 データ集」（付録 1）に示す。

3 「サイクル機構モニターいばらき」会合の概要

3.1 第1期

1) 概要

会合は合計4回開催し、第1回及び第3回は東海事業所で、第2回、第4回は大洗工学センターで開催した。また、平成11年9月30日に発生した(株)ジェー・シー・オー東海事業所内ウラン加工施設における放射能漏れ事故を受けて、事故時に不足していた情報等を問うアンケートを実施した。その結果を元に、第4回会合にて事故に関する説明を実施した。JCO事故アンケート結果については、「5 JCO事故アンケート結果」に示す。

以下に各回会合の開催日及び主な内容を示す。

○第1回会合

- ・開催日 : 平成11年3月23日
- ・見学施設: 再処理工場、アトムワールド(東海展示館)
- ・主な内容: サイクル機構の事業の説明

○第2回会合

- ・開催日 : 平成11年6月25日
- ・見学施設: 高速実験炉「常陽」
- ・主な内容: 東海再処理工場の安全への取組みについての説明

○第3回会合

- ・開催日 : 平成11年9月28日
- ・見学施設: 緊急時対策所、アスファルト固化処理施設
- ・主な内容: 4グループに分かれての意見交換
《テーマ》エネルギー政策(1Gr.)、新エネルギー(2Gr.)、
安全防災(3Gr.)、サイクル機構(4Gr.)

○第4回会合

- ・開催日 : 平成12年2月29日
- ・見学施設: なし
- ・主な内容: JCO事故(平成11年9月30日発生)に関する説明
4グループに分かれての意見交換
《テーマ》サイクル機構へのアドバイス

※ 平成11年9月30日:

(株)ジェー・シー・オー東海事業所内ウラン加工施設において
放射能漏れ事故発生

2) モニターの構成

大洗工学センター対象のモニター15名、東海事業所対象のモニター17名の合計32名を第1期「サイクル機構モニターいばらき」モニターとして委嘱した。モニター32名中女性は10名であり、モニター全体の年齢層は20代～60代であった。またモニターの方の職業は、会社員、公務員、農業、自営業、主婦、定年退職された方、と多岐にわたっていたが、学生はいなかった。

3) 主な意見

《施設見学関係》

- ・施設内で何度もサーベイを行っているところを見て、「大丈夫か」と不安になった。
- ・初めて施設を見学して、ものものしく感じ、非常に怖く感じた。今まで以上に恐怖を感じた。
- ・施設見学の際、安全性について説明すべきである。

《安全関係》

- ・住民の本当の気持ちは安全の一言に尽きる。職員の安全教育と研究の向上がどうか、PRよりも新聞種にならないことを住民は望んでいる。
- ・報道で知る危険は安全の裏側であって、それ以上の安全確保がされていることがよくわかった。
- ・国民の信頼回復のために、安全面など精一杯努力して欲しい。

《広報関係》

- ・安全に留意し、もう少し地域の方々の意見も聞いて欲しい。
- ・定期的な地域への情報公開の実施など、安全についての取り組みについてもっとPRして欲しい。

《説明方法関係》

- ・専門用語が多く出てくる。工夫が必要。

3.2 第2期

1) 概要

会合は合計4回開催し、第1回を東海事業所にて、第2回、第4回を大洗工学センターにて開催した。第3回会合では、(株)東京電力福島第一原子力発電所を視察した。視察後実施したアンケート結果は「10 データ集」(付録2)に示す。

以下に各会合開催日及び主な内容について示す。

○第1回会合

- ・開催日 : 平成12年5月22日
- ・見学施設: 再処理施設、アトムワールド (東海展示館)
- ・主な内容: 4グループにわかれての意見交換
《テーマ》原子力の基礎についての意見交換

○第2回会合

- ・開催日 : 平成12年9月13日
- ・見学施設: 防災管理棟、安全管理棟、放射線管理棟、高速実験炉「常陽」
- ・主な内容: 大洗工学センターの概況説明
4グループにわかれての意見交換
《テーマ》放射線、防災

○第3回会合

- ・開催日 : 平成12年11月29日
- ・見学施設: (株)東京電力福島第一原子力発電所、Jヴィレッジ、栽培漁業施設、エネルギー館 (東京電力展示館)
- ・主な内容: 視察後アンケートを実施

○第4回会合

- ・開催日 : 平成13年2月26日
- ・見学施設: ナトリウム処理施設
- ・主な内容: 4グループに分かれての意見交換
《テーマ》サイクル機構へのアドバイス

※平成12年11月20日 :

サイクル機構 東海事業所 再処理工場運転再開

2) モニターの構成

大洗工学センター対象のモニター15名、東海事業所対象のモニター18名の合計33名を第2期「サイクル機構モニターいばらき」モニターとして委嘱した。モニター33名中女性は14名であり、モニター全体の年齢層は20代～60代であった。またモニターの方の職業は、会社員、農業、自営業、主婦、定年退職された方、と多岐にわたっていたが、第1期と同様に学生はいなかった。

3) 主な意見

《JCO事故関係》

- ・ JCO 事故があり、原子力に従事している人を信頼していたのに、裏切られた思いがする。
- ・ JCO 事故の教訓として、初心を忘れず仕事をするのが重要。

《防災関係》

- ・ 東海村には既に緊急時のマニュアルが配布されているが、「原子力は安全だ」という意識が強く、住民はよく読もうとしなかった。マニュアルは見やすく、分かりやすく、どこか家の中に貼っておけるようなものであると良い。
- ・ 家庭、地域住民の安全を確保するため、何かあったときにどのように行動すればよいのかを知りたい。

《教育関係》

- ・ 下請け会社の安全管理が心配。知識の無い人に原子力施設の運転をして欲しくない。
- ・ 社員教育は重要。上司から命令されたことしか出来ないのは良くない。一つの操作がどのような結果をもたらすか、根本的なところがわかるようにしなければならない。
- ・ 「人間は間違える」、「機械は故障する」という精神を持つことが大切。

3.3 第3期

1) 概要

会合は合計 6 回開催し、その内第 3 回目の会合は東海事業所、大洗工学センターそれぞれの事業所に分かれて開催した。この事業所別会合を除く残り 5 回のうち、第 1 回と第 6 回目の会合は大洗工学センターにて、第 2 回と第 5 回目の会合は東海事業所にて実施した。第 4 回会合は、(株)東京電力福島第二原子力発電所を視察した。視察後行ったアンケートの結果は、第 2 期視察後アンケートと共に、「10 データ集」(付録 2) に示す。

第 5 回会合は午前と午後の二部構成とし、午前の部は第 1 期～第 3 期までのモニターの合同会合、午後は第 3 期のみの会合とした。また第 3 回と第 4 回会合の間にあたる平成 13 年 10 月 25 日には、大洗工学センター対象のモニターのみへ、大洗工学センターの実施する総合防災訓練の見学について案内した。

また平成 13 年 10 月 31 日に発生した、高速実験炉「常陽」メンテナンス建屋における火災については、第 4 回会合にてその内容について説明を実施した。

○第 1 回会合

- ・開催日 : 平成 13 年 6 月 13 日
 - ・見学施設 : 高速実験炉「常陽」(炉心改造工事のため、格内見学無し)、
大洗わくわく科学館
 - ・主な内容 : 大洗工学センター概況説明、大洗わくわく科学館概況説明
- 第 2 回会合
- ・開催日 : 平成 13 年 7 月 31 日
 - ・見学施設 : 防災管理棟、プルトニウム燃料第三開発施設、
アトムワールド
 - ・主な内容 : 東海事業所概況説明
4 グループにわかれての意見交換
《テーマ》燃料を中心に原子力全般
- 第 3 回会合 (大洗工学センター開催について)
- ・開催日 : 平成 13 年 9 月 18 日
 - ・見学施設 : 安全管理棟、放射線管理棟
 - ・主な内容 : 2 グループにわかれての意見交換
《テーマ》放射線
- 防災訓練見学 (大洗工学センター対象のモニターへ案内)
- ・開催日 : 平成 13 年 10 月 25 日
 - ・見学施設 : 防災管理棟内の災害対策本部、「常陽」現場指揮所
 - ・主な内容 : 意見交換
- 第 4 回会合
- ・開催日 : 平成 13 年 11 月 12 日
 - ・見学施設 : (株)東京電力福島第二原子力発電所、J ヴィレッジ、
エネルギー館 (東京電力展示館)
 - ・主な内容 : 高速実験炉「常陽」メンテナンス建屋における火災につ
いての説明
- 第 5 回会合 (第 1 期～第 3 期合同会合)
- ・開催日 : 平成 14 年 1 月 25 日
 - ・見学施設 : 地層処分基盤研究施設 (第 3 期のみ)
 - ・主な内容 :
 - ・サイクル機構の近況報告
 - ・「地球環境とエネルギー」講演会
《講師》元読売新聞論説委員・中村正雄氏
 - ・頂いたアドバイスに対するサイクル機構の取組についての説明
- 第 6 回会合
- ・開催日 : 平成 14 年 2 月 27 日

- ・見学施設：FBR サイクル国際研究開発センター
- ・主な内容：4グループにわかれての意見交換
《テーマ》サイクル機構へのアドバイス

2) モニターの構成

大洗工学センター対象のモニター16名、東海事業所対象のモニター18名の合計34名を第3期「サイクル機構モニターいばらき」モニターとして委嘱した。モニター34名中女性は16名であり、モニター全体の年齢層は30代～70代であった。またモニターの方の職業は、会社員、公務員、農業、自営業、主婦、定年退職された方、と多岐にわたっていたが、1期、2期同様学生はいなかった。

3) 主な意見

《原子力全般》

- ・原子力の概況説明では、種々の発電の中で原子力は最も良いということになるが、良いところばかりでないことも真である。安全対策は万全と説明されても、個人的にはどうしても大丈夫と思切れない。
- ・一般住民は原子力に関する知識が乏しく、理解するには難しい面が多々ある。
- ・放射線は眼に見えないのが怖い。世代的に原子力というと原子爆弾のイメージがあり、怖いと思ってしまう。

《放射線安全関係》

- ・安全に関して、ただ大丈夫と話すだけでは駄目。数値を公表し、その上で安全をうたった方が効果がある。但し、紙面に数値が並んでいるものを手渡されるだけでは一般人は理解できない。対面で数値を用いて説明することで理解が得られる。

《広報関係》

- ・一般住民は原子力と聞くと「怖い」というイメージがあり、まだまだ原子力のPRが不足しているように思う。
- ・広報の範囲を拡大した方が良い。

《事故対応関係》

- ・事故時の情報公開が重要。公にスピーディーに情報を発信すること。
- ・事故発生は技術的ではなく、人の問題である。上に立つ人の認識が重要である。

4 モニターから寄せられた主な意見

4.1 概要

第1期～第3期のモニターから寄せられた意見について、サイクル機構が改善すべき点、サイクル機構の良い点に分類し、まとめた。以下に寄せられた主な意見を各項目に分類して示す。なお意見の詳細は「10 データ集」(付録3)に示す。

4.2 モニターからの意見

1) サイクル機構が改善すべき点

(1) 業務運営について

《職員の教育関係》

- ・従業員への教育の充実と、ミスを出さないシステム作りを行って欲しい(技術的ではなく、人為的な問題で事故が発生している)。

《安全関係》

- ・安全を全ての優先に。
- ・慣れで、扱っている物の危険性が薄れないようにして欲しい。

(2) 広報について

《サイクル機構からの説明関係》

- ・専門用語を使わず、身近な内容で写真等を多用し、分かりやすく説明して欲しい。

《広報の方法関係》

- ・学校、地域用貸し出しビデオ等、あればよい。
- ・広報誌を読むだけでは理解することは難しい。学校、市町村において講演会等々、実施すると良い。
- ・パソコンを通じて原子力の勉強が出来ると良い。

《教育関係》

- ・小中学生に原子力施設の見学の機会を与える等、原子力エネルギーについて知識を広げる努力をした方が良い。
- ・もっと気軽に意見を言う場や、勉強できる場があると良い。

《広報内容関係》

- ・普段からの業務内容のわかりやすいPRが必要。
- ・将来のエネルギー確保の点で、原子力が住民生活とかけ離れた分野ではないことを強調すべきである。

《地域交流関係》

- ・さらに広範囲での交流活動を望む。

《情報公開関係》

- ・情報の透明性。
- ・事故時に住民の不安を取り除く努力が必要。

2) サイクル機構の良い点

《機構職員の印象関係》

- ・職員のみじめな仕事への取組みが感じられる。
- ・モニターに対する対応が、親切かつ友好的で良い。

《モニター制度関係》

- ・モニター会合において、知識を深めることができた。
- ・モニター制度を通して職員が地域住民と交流を図ることは大変良い。

《施設設備関係》

- ・設備が充実し、安全面でもよくやっている。
- ・構内の整備、施設の管理が整っていて見学者として感じがよい。

《広報関係》

- ・広報に力を入れていることが伺われる。広報誌読者、施設見学者からの反応に対する機構の取組みがどのようになっているか、知りたい。
- ・一般住民の理解を深めようと努力している姿勢がうかがえる。

5 JCO 事故に関する意識調査

5.1 概要

平成 11 年 9 月 30 日発生した JCO 事故に関して、事故直後にアンケートによる意識調査を実施した。回答者数は 30 名であった。以下に設問ごとの主な意見を示す。なお詳細な意見については、「10 データ集」(付録 4)に示す。

5.2 アンケート結果

(1) 事故が起こったことを何で知りましたか。〔設問 1〕

テレビで事故を知った回答者が最も多く、回答者の半数以上にあたる 17 名を占めていた。市町村放送で事故を知った回答者は全回答者数の 1/10 にあたる 3 名であった。

(2) 臨界事故と聞いてどのような事故と考えましたか。〔設問 2〕

- ・放射能に関する大きな事故であることは想像できたが、「臨界」という言葉の意味が理解できなかった。
- ・在住場所に放射能の影響は無いか、と心配した。

(3) 事故発生を知って、初めに考えたことはどのようなことですか。〔設問 3〕

- ・環境への影響は無いか、心配した。
- ・怖い。
- ・住民がとるべき行動の問合せ先はどこか、と考えた。
- ・他人事のように感じられた。

(4) 事故発生を知って、どんな行動を一番にとりましたか。〔設問 4〕

- ・事故に関する情報を収集した。
- ・具体的対応策がわからなかったので、普段どおりすごした。
- ・親類等に連絡をとった。

(5) 事故時に不足していた情報は何ですか。〔設問 5〕

- ・住民がとるべき行動の情報が不足していた。
- ・情報が難しく理解できなかった。
- ・外出時に異常がわからない。外出時にも異常がわかるサイレン等が欲しい。

(6) 事故に関連して今一番知りたいことは何ですか。〔設問 6〕

- ・人体、環境、農畜産物に対する、今後の放射線による影響と安全性について知りたい。
- ・茨城県内の原子力関係の事業所とその業務内容について知りたい。
- ・事故を起こしたウラン加工工場に対して、役所が検査を実施していなかった理由について知りたい。

- ・事故を起こした JCO の今後の事故防止策と、それを守らせる方法。
- (7) モニターをされていて、何か役に立ったことはありますか。〔設問 7〕
- ・テレビ等のニュースを理解するのに役に立った。
 - ・役に立ったことは無い。
- (8) 原子力事業者に望むことは何ですか。〔設問 8〕
- ・とにかく安全を望む。
 - ・仕事に対する危機感と責任（プロ意識、知識）。
 - ・一部の事故のために原子力が同一視され、今後の原子力開発に支障をきたすことになる、ということへの認識を持って欲しい。
 - ・風評被害が出ないような PR を望む。
- (9) その他、ご自由にお書きください。〔設問 9〕
- ・住民が放射線を防ぐ方法を掲載した事故対応策のマニュアル化と、住民を交えた防災訓練を望む。
 - ・科学技術庁と JCO への発注者の管理責任は大きい。
 - ・原子力に関する業務は知識のある人（有資格者等）にさせるべきである。
 - ・被ばく者専門病院が東海村に無い理由は何か。また事故での被ばく者が、千葉の専門病院から東京の病院へ転院した理由は何か。
 - ・原子力を使わなくても良いように、現在の生活を見直すことも一方法である。

5.3 考察

JCO 事故に関するアンケートは、原子力事故時に住民がどのような情報を得ることを最優先に考えるか、また原子力事業者には何を望むのか、また住民への情報伝達手段は何が有効であるかを調査するために実施したものである。

調査の結果は大きく①事故時に関する意見、②事故後に関する意見、に分類でき、それぞれの意見は以下に集約できる。

①事故時に関する意見

- ・情報が難しく、理解できない。
- ・住民がとるべき行動の情報が不足している（情報が遅い）。

②事故後に関する意見

- ・放射線による人体、環境、農畜水産物への影響とその安全性について知りたい（風評被害が出ないような PR が必要）。
- ・県内原子力事業所の所在と業務内容について知りたい。
- ・原子力事業者へは『安全』を望む。

①については、主にモニター会合において、施設見学等を実施し、原子力に関するパンフレット等を適宜配布していたにもかかわらず、情報が難しい、との回答が多い結果であった。またモニターをしていることで今回の事故に対して役に立ったことは無い、との回答も見られ、これらを総合すると、モニターをすることで得た情報はJCO事故に関する情報を理解する上では役に立たなかった、と推測できる。この結果から、回答者には原子力の基本的な知識が不足していると考えられる。また情報が理解できない、とるべき行動の情報が不足している、と回答していたにもかかわらず、モニター事務局へのJCO事故に関する問合せは一件も無かった。モニターに対しては、JCO事故とは別に日頃から、問合せ窓口としてのモニター事務局の連絡先を周知している。モニター事務局は地域住民を代表すると言えるモニターと最も近い存在であるにもかかわらず、JCO事故に関する問合せが無かったことは、サイクル機構は地域へ溶けこんでいる、と地域住民は感じていないことにつながると考えられる。

次に②では、意見の背景には、原子力は他人事ではなく、地域住民の生活に密着したものであるという回答者の考えが伺える。住民が知りたい情報については特に重点的に提供していく必要があるが、その際に資料を配布するのみではなく、配布資料を専門家が説明することが重要と考えられる。

6 モニター経験前後の意識調査

6.1 概要

第1期～第3期まで、初回及び最終会合にて同じ内容のアンケートを実施し、モニター経験前後の意識を調査した。アンケート内容を「10 データ集」(付録5)に示す。アンケートの各設問に対する回答は選択形式としたが、回答選択理由については記述形式とした。なお、アンケート設問4「サイクル機構は地域に溶けこんでいると思いますか」については第1期、第3期のみの回答結果である。また、設問7「今後期待するエネルギーは何ですか」については、第2期のアンケートの回答選択肢のみ、“燃料電池”、“地熱”を入れており、これらは“その他”として結果をまとめた。

各期のアンケートの回答をまとめた結果、すべての設問を通して第1期～第3期において初回と最終回の回答傾向は同様であることがわかった。この結果から、第1期～第3期まで回答結果をまとめることとした。その結果を図2-1～図9-2に示す。また「10 データ集」(付録6)～(付録8)に各期の結果とモニターからの意見を掲載した。

なお、初回の回答者数合計は93名、最終回の回答者数合計は78名であった。以下に各設問の結果を示す。

6.2 アンケート結果

1) 現在の「サイクル機構」に対する印象について〔設問1〕

結果を図2-1、図2-2に示す。初回と最終回の結果を比較して、最終回ではサイクル機構に対する印象は良い、と回答したモニターが増加し、その数は全体の90%を超える結果となった。また、どちらとも言えない、との回答が最終回で減少し、初回では回答者全体の30%を超えたのに対し、最終回では全体のわずか4%を下回る結果となった。また初回に悪い印象をもったモニターが回答者全体の10%を超えていたのに対し、最終回では悪い印象を持つモニターはいない結果となった。

最終回で印象が良くなった理由としては、内容を知ることができたこと、直接接した職員の印象が良かったこと、等が挙げられた。また初回にどちらとも言えないと回答した理由については、サイクル機構を良く知らないことが理由に挙げられた。

2) 「サイクル機構」に対するイメージについて〔設問2〕

結果を図3-1、図3-2に示す。本設問に対しては、複数回答可能とした。初回と最終回の結果を比較すると、最終回で官僚的イメージを持つモニターが

初回の約 1/4、閉鎖的イメージを持つモニターが約 1/6、わからない、と回答したモニターが約 1/13 にそれぞれ減少し、開かれたと感じるモニターが約 1.5 倍となった。親しみやすい、明るい、まじめ、といったイメージを持つモニターは、初回より最終回で若干増加した。回答者数別に見ると、最終回で最も多かった「サイクル機構の」印象は、開かれたイメージで、回答者の約半数を占める結果となった。次いで、まじめ、親しみやすい、明るい、の順に最終回における回答者数が多い結果であったが、その数は殆ど変わらず、それぞれ回答者全体の約 19% を占める結果であった。

最終回で、開かれた、まじめ、親しみやすい、明るい、と感じた理由には、最初は閉鎖的なイメージであったがモニターとして会合に参加し、職員と接する間にそう思うようになった、等が挙げられた。また、最終回において官僚的、閉鎖的と回答した理由には、モニターとしてはサイクル機構を身近に感じるが、第三者的にはまだまだ近寄りがない、という点が挙げられた。

3) サイクル機構職員に欠けているものについて〔設問 3〕

結果を図 4-1、図 4-2 に示す。本設問に対しては、複数回答可能とした。初回と最終回の結果を比較すると最終回結果では、責任感、情報を公開しようとする姿勢、安全意識が欠けている、と感じているモニターは、それぞれ初回回答者数の約 2/3 に減少した。一方、事故等を自分のものとして受け止める姿勢については、若干ではあるが、最終回で増加する結果となった。一方回答者数別に見ると、最も多かった回答は、事故等を自分のものとして受け止める姿勢であり、回答者全体の約 26% を占める結果となった。次いで多かったのが順に情報を公開しようとする姿勢、安全意識で、最終回でそれぞれ回答者全体の約 23%、約 18% を占める結果となった。また少数意見ではあるが、闘争心が欠けると感じるモニターが、初回の 1 名から最終回では 6 名に増加していた。

次にそれぞれの回答理由について示す。まず、事故等を自分のものとして受け止める姿勢を選択した理由には、欠けているとは思わないが持ち続けて欲しい、ということが挙げられた。情報を公開しようとする姿勢、安全意識を選択した意見としては、一人ひとりが自分の仕事に自覚と責任をもって取り組み、安全面だけを強調するのではなく、リスク面も明らかにしてそれに対する対応も明らかにして欲しい、ということが挙げられた。また、その他を選択した理由には、数回の会合で職員を判断することは難しい、という点が挙げられたが、それと同時に、トラブル時の新聞報道において批判記事を眼にすると「そう思わせてしまう何かがあった」と感じる、との意見も挙げられた。

4) 「サイクル機構」の地域への溶けこみについて〔設問4〕

結果を図5-1、5-2に示す。初回、最終回共に、どちらかといえば地域へ溶けこんでいると思う、の回答が最多であり、次いで、どちらともいえない、との回答が多い結果となった。これらの両回答ともその数は初回と最終回で殆ど変化は無かった。初回と最終回の結果を比較して変化があったのは、そう思う、そう思わない、わからない、の回答で、そう思う、の回答では、最終回で初回の約2倍に回答モニター数が増加し、そう思わない、は約半分に減少した。この結果、初回ではサイクル機構が地域に溶けこんでいると思うモニターが、溶け込んでいないと思うモニターの数を下回っていたのに対し、最終回ではこの結果が逆転し、サイクル機構が地域に溶けこんでいると思うモニターが、溶け込んでいないと思うモニターの数を上回る結果となった。一方、わからない、の回答は、初回9名の回答があったのに対し、最終回ではわからないと回答したモニターいなかった。

次にそれぞれの回答理由について示す。地域に溶けこんでいると感じる理由としては、「サイクル機構モニターいばらき」を開催していること、各地域にでかけての広報活動や展示館等で交流活動があること等が挙げられた。どちらとも言えない理由には、隣々接市町村においてはあまり関りが無いこと等が挙げられた。溶けこんでいないと感じる理由には、まだまだ何をしているか周知していないこと、住民側から見れば十分とは思わないこと等が挙げられた。

5) 原子力発電の必要性及びそれへの不安について〔設問5〕〔設問6-1〕

ここでは、原子力発電の必要性を問う設問と、原子力発電への不安を問う設問をまとめて結果を述べる。結果を図6-1~図7-2に示す。原子力発電の必要性については、初回、最終回ともに、回答の傾向は変わらず、原子力発電を必要と考えるモニターが大多数を占め、その割合は初回で全体の約59%、最終回では全体の約70%を超え、どちらかといえば必要、の回答を加えると初回で全体の約70%、最終回で全体の約90%を超える結果となった。また、原子力発電への不安についても、初回と最終回で回答の傾向は変わらず、原子力発電に不安を感じる回答者が多数を占める結果となり、その数は少し不安を感じる、を含めると、全体の約80%を超える結果となった。ここで、「不安を感じる」回答者が減少したように見えるが、これは回答者数が初回より最終回で少なかったことによるものである。

次に設問に対する回答の理由を示す。原子力発電の必要性について、必要な理由には、日本は資源の乏しい国であること、日本の現在のエネルギー必要量

が原子力発電なくしてはまかないきれない状態であること等が上げられた。どちらかといえば必要との回答理由には、色々なエネルギーの組み合わせで利用するのが良いこと、原子力に変わる、安全で人にも環境にも優しいものが出てくると良いが、エネルギーの安定供給を考慮すると今は頼らざるを得ないこと等が挙げられた。またどちらとも言えない、の回答に対する理由には、目先の利便性だけを追求することなく、本当の豊かさとは何かを考えると生活の仕方も変わることが挙げられた。

6) 原子力発電に不安を感じる理由について〔設問 6-2〕

結果を図 8-1、図 8-2 に示す。本設問に対しては、複数回答可能とした。原子力発電に不安を感じる理由で最も多かったもの、次いで多かったものの回答は、初回と最終回で変わらず、それぞれ、運転員の操作ミスの可能性のあるから、放射性廃棄物の処理・処分方法が確立されていないから、という結果となった。その他初回と最終回の結果を比較すると、全体として理由の選択肢に対して、概ね回答者数が減少する傾向を示し、中でも JCO 事故のような臨界事故の可能性のあるから、と回答したモニターが初回と比較して最終回では半分以下に減少する結果となった。また不安の理由に老朽化による施設破損の可能性のあるから、を挙げるモニターが、若干ではあるが初回と比較して最終回で増加し、回答者は全体の約 35% を占める結果となった。その他の回答内容には、漠然とした不安を挙げる回答者が多数を占め、具体的意見としては、不安材料は一つではなく「大丈夫」と 100% 信じていることができないこと、危険ではあると思うことから、特に下請け業者等の教育が不安であること、等が挙げられた。

7) 今後期待するエネルギーについて〔設問 7〕

結果を図 9-1、図 9-2 に示す。本設問に対しては、複数回答可能とした。初回と最終回の結果を比較して、風力発電、太陽光、原子力発電、核融合エネルギー、水力発電で最終回の回答数が増加した。これらは初回と比較して、それぞれ回答者が約 1.5 倍となった。その他の回答も最終回で増加しているが、これは第 2 期のアンケートの回答選択肢のみ、“燃料電池”、“地熱”を入れており、これらは“その他”として結果をまとめたことによる。また回答者数別に結果を見ると、初回、最終回で回答の傾向は変わらず、今後期待するエネルギーとして太陽光を選択したモニターが最も多く、回答者全体の約 75% を占める結果となった。次いで原子力発電、風力発電の順に回答者が多く、原子力発電は全体の約 60%、風力発電は全体の約 45% を占めることがわかった。また原子力発電を選択した多くのモニターが同時に太陽光も選択していた。

原子力発電、太陽光を選択した理由には、地球温暖化につながらないエネルギーであること、今すぐに使用できる原子力発電と共に将来的にはより安全な太陽光が実用化されればさらに良いこと、等が挙げられた。

6.3 各設問に対する考察

1) 現在の「サイクル機構」に対する印象について〔設問1〕

第1回では、サイクル機構についてよく知らないことを理由に、“どちらとも言えない”と回答した回答者が全体の約1/3を占めたのに対し、最終回ではほぼ全員がサイクル機構に対する印象は“良い”と回答した。これはモニターが会合に参加して原子力に関する説明を聞き、施設を見学したことによって、原子力やサイクル機構の業務について少しでも理解していただいたこと、施設見学やグループディスカッションを通じてサイクル機構職員と直接話したことにより、サイクル機構に良い印象を持っていただいたと考えられる。

2) 「サイクル機構」に対するイメージについて〔設問2〕

モニターとしての1年間の活動により、サイクル機構を身近に感じ、機構に好感を持ったと考えられる。しかしながらモニターとしてはサイクル機構を身近に感じるが、第三者としては近寄りがたく、閉鎖的、官僚的なイメージがある、との意見もあった。この意見は、初回アンケート結果からも読み取ることができる。具体的には第三者的要素に近い状態である初回の結果ではサイクル機構のイメージは、官僚的、閉鎖的と感じるモニターが親しみやすい、明るい、開かれた、と感じるモニターとほぼ同数であり、一般大衆の多くがサイクル機構に対して閉鎖的、官僚的と感じていると考えられる。一方、最終回における結果から、閉鎖的、官僚的と感じるモニターが激減したことから、これらのイメージを払拭するためには、サイクル機構に足を運んでいただき、直接職員と話す機会を持つこと、が有効な手段であると考えられる。

3) サイクル機構職員に欠けているものについて〔設問3〕

回答の選択肢を分析すると、事故等を自分のものとして受けとめる姿勢、安全意識、責任感、はそれぞれ、責任感の欠如から事故等を自分のものとして受けとめる姿勢が欠如することに繋がり、また安全意識の欠如は業務を安全に遂行する責任感の欠如に繋がり、これらを併せて考えると、事故等を自分のものとして受けとめる姿勢、安全意識、責任感が欠如していると感じる根本原因は同じところにあると考えられる。また地域活動、地元意識につい

ても、地元意識が無いことから地域活動が不足し、さらには、地元意識の欠如から安全意識が低いとも考えられる。

これらを総合すると、最終回で回答者数が最多となった事故等を自分のものとして受けとめる姿勢が欠けている、との回答の裏には安全意識、責任感、地域活動、地元意識の欠如が潜んでいると考えられ、事故等を自分のものとして受けとめる姿勢を改善するためには地域活動等、多方面から取組んでいく必要がある。

次に最終回で回答者数の多かった、情報を公開しようとする姿勢の欠如について述べる。特にモニターへは逐次サイクル機構が刊行するパンフレットやその他情報を提供してきたにも関わらず、情報を公開しようとする姿勢が欠けている、と感じる回答者が最終回結果においても多数を占める結果となった。これは、サイクル機構の発する情報が理解困難であったこと、モニターの要求する情報と、サイクル機構の提供する情報にズレがあったこと等が可能性として挙げられる。今後これらの可能性について分析していく必要がある。

4) 「サイクル機構」の地域への受けこみについて〔設問4〕

この設問では、設問中の「地域」をそれぞれの回答者が在住している市町村と捉えたことにより、どちらかと言えばそう思う、どちらとも言えない、の順に回答が初回、最終回共に多くなったと考えられる。これは、回答者が在住する市町村にサイクル機構が外向いていないことを回答理由に挙げていることから推測できる。この結果からサイクル機構の所在町村である大洗町、東海村から遠方に在住していればしているほど、地域に受けこんでいないと感じるモニターが多くなったと考えられる。一方この結果は、〔設問3〕における機構職員に欠けるもので、「地域活動」の回答結果と関係していると考えられるが、今回の設問では、設問の「地域」を限定しなかったことから、正確な分析を行うことはできなかった。

5) 原子力発電の必要性及びそれへの不安について〔設問5〕〔設問6-1〕

アンケート結果から、殆どのモニターが原子力発電を必要だと感じている一方、その多くが原子力発電に何らかの不安を感じていることがわかった。この結果は、初回と最終回で同じ傾向を示したことから、モニター会合で実際に施設を見学し、原子力に関する知識を得、さらにはサイクル機構に対して良い印象を持った後にも、原子力発電に対する不安は拭えないことがわかった。

6) 原子力発電に不安を感じる理由について〔設問6-2〕

初回と最終回の結果の比較から、施設を見学すること及び原子力に関する知

識を得ることによって、発電技術や放射線被ばくに関すること、事故時の通報連絡、臨界事故に関する不安については理解を得られ、ある程度それを取り除くことができるが、人的ミス、施設の老朽化による不安はぬぐえないことがわかった。またその他の回答として漠然とした不安を挙げるモニターが多く、原子力について知識を深めても、漠然とした不安は消えないことがわかった。これは原子力といえば原子爆弾を連想し、放射能、放射線をあびた大地には今後50年は草木が生えないと教育を受け、それを正しいと信じて来た、という世代と深く関係していると考えられ、漠然とした不安は、原子力は恐ろしい、という固定観念によるものだと考えられる。従って漠然とした不安を取り除くにはこの固定観念を払拭することがカギとなると考えられるが、それは年間数回の会合にて施設を見学し、及び原子力に関する知識を得ることでは払拭できないことがわかった。今後はこの固定観念の払拭のために何らかの方策を講じる必要がある。

7) 今後期待するエネルギーについて〔設問7〕

原子力発電の必要性を問う設問において原子力発電は必要であると殆どのモニターが回答していたが、今後期待するエネルギーで最も回答が多くなったのは、太陽光であった。また原子力発電を選択した多くが太陽光も同時に選択していたことから、全てのエネルギー源を原子力発電に頼るのではなく、原子力発電を加えたベストミックスを望んでいると考えられる。一方原子力発電を必要に感じながらもその殆どが何らかの不安を感じていること、及び今すぐに使用できる原子力発電と共に将来的にはより安全な太陽光が実用化されればさらに良い、という意見から、やむなく原子力を選択しているモニターもいることが考えられる。

また最終回において原子力発電に期待するモニターが増加したのは、実際にモニターとして原子力に関する知見及び、日本のエネルギー事情について知見が深まった結果であると思われる。

6.4 全体のまとめ

アンケートでは、大きく分けて①サイクル機構について、②原子力発電について、の二つについて尋ねており、〔設問1〕の現在の「サイクル機構」の印象について問う設問から、〔設問4〕の「サイクル機構」地域への溶けこみを問う設問までは前者①について、〔設問5〕の原子力の必要性を問う設問から、〔設問7〕の今後期待するエネルギーを問う設問までは、後者②について、尋ねている。

サイクル機構については、1年間で機構について知り、親近感を持ったことで、1年前と比較して印象等は好転した。

原子力発電については1年前から必要性を認めながらも、その不安は1年間で拭えなかったが、不安の理由が1年前と1年後で変化している。具体的には臨界事故発生の可能性を理由とする回答者が減少し、運転員の操作ミス、施設の老朽化を理由とする回答者が増加している。また原子力発電を将来のエネルギー源として期待する回答者が増加している。

一般大衆には第一に、日本のエネルギー事情を理解すること、第二に、原子力の正しい知識を持つこと、その上で、原子力発電の必要性について考えてもらうこと、が重要である。サイクル機構については、原子力について研究、開発を実施している機関であることから、まず原子力に対する不安感を軽減することが重要である。不安感を軽減する方法として、第一に、サイクル機構の業務内容について知って頂くこと、第二に、サイクル機構が地域及び社会に対して常に開かれた存在であること（地域に存在を認めてもらうこと）、その上でサイクル機構を信頼して頂くこと、が重要と思われる。

これらを併せて考えると、「サイクル機構モニターいばらき」を実施することで、サイクル機構に対しては親近感を持ち、開かれた存在であると認知され、さらに、原子力発電の必要性の認知度も向上するが、その不安は払拭できず、不安の理由の多くを占める“運転員の操作ミス”、からも伺えるように、サイクル機構を信頼して頂くにはいたらないことがわかる。

6.5 今後の課題

以上の結果から、今後の課題として以下の二点が挙げられる。

- ・原子力に対する不安を、不安に感じる理由と共に払拭すること。
- ・サイクル機構の信頼を確保すること。

前者の解決のためには、人的ミスによる不安及び、原子力は危険である、という固定観念を払拭するための方策を講じる必要がある。人的ミスによる不安については、原子力関係の事故原因を突き詰めると、技術的な問題ではなく、人的ミスが原因していることが多く、これが不安の原因になっていると考えられる。特に人的ミスによる事故を未然に防ぐためにとっている方策等について、広報の方法を工夫することが必要である。次に原子力は危険である、という固定観念の払拭については、相手が納得いくまで繰り返し何度も説明をすることが必要であり、さらに同じ一つの事象を多方面から説明することが必要であると考えられ、このような場を設定する必要があると考えられる。

後者の課題については、サイクル機構の職員一人ひとりが信頼されることであり、前者の人的ミスによる不安が払拭されれば、それは原子力に従事する作業員が信頼されたことに繋がると考えられ、従って、人的ミスによる不安が払拭されると同時に解決できると考えられる。

7 サイクル機構の取組み

7.1 概要

モニター制度の導入の大きな目的の一つは、モニターからサイクル機構や原子力に対して直接聴いた意見をサイクル機構の業務運営に資することである。モニターから直接意見を聴く機会には、モニター会合やアンケートがあり、1期～3期を通じて多くの意見が集まった。これらの意見に対してサイクル機構では様々な取組みを行ってきた。その取組み状況を、表 3-1～表 3-3 に示す。モニターからの意見は大きく、業務運営に関すること、広報に関すること、モニター制度に関すること、に分類でき、表には分類ごとの意見及び取組みについて記した。またモニターから寄せられた意見を、サイクル機構の取組みに反映可能なアドバイスと、意見として賜る感想に分類した。以下に個々の取組みについて記す。

なお、これらのサイクル機構の取組みについては、平成 13 年に実施した 1 期～3 期までの合同会合にて発表した。

7.2 業務運営に関することについて

業務運営に関するアドバイスとサイクル機構の取組みについてまとめたものを、表 3-1 に示す。アドバイスは作業安全に関すること、従業員の意識に関すること、地域住民との交流に関すること、学校教育への参画に関すること、の 4 つに分類できる。

作業安全に関しては、全作業員に対する教育・訓練の強化や教育内容の見直しを今後も継続的に適宜実施していくこととした。従業員の意識に関しては、動燃からサイクル機構への移行と同時に、他企業へ出向いての社外研修等を実施してきた。今後もこれらを通じての意識改革を継続的に実施していくこととした。地域の方々との交流については、平成 13 年 7 月にオープンした「大洗わくわく科学館」を交流の拠点として今後も継続的に活用していくと共に、地域行事や清掃活動等のボランティア活動へ積極的に参加していくこととした。学校教育への参画に関しては、これまでに女性 PA チーム等による地元学校への出張授業を実施しているが、今後もこれを継続して実施していくこと、また地元学校の施設見学も積極的に受け入れていくこととした。

7.3 広報に関することについて

広報に関するアドバイスとサイクル機構の取組みについてまとめたものを表 3-2 に示す。広報に関するアドバイスは、広報の方法に関すること、広報の内容に関すること、の 2 つに分類できる。

広報の方法に関しては、国の研究機関としての色々な制約があるが、可能な範囲でマスメディア、広報誌、インターネットを用いて広報を強化していくと共に、説明会等を実施することとした。広報内容に関しては、より分かりやすいものとなるよう絵を多用するなど、説明内容及び資料について継続的に見直しを実施していくこととした。

7.4 「サイクル機構モニターいばらき」に関することについて

モニター制度に関するアドバイスとサイクル機構の取組みについて、表 3-3 に示す。モニター制度に関するアドバイスは、会合に関すること、モニターを選任の方法に関すること、の 2 つのアドバイスに分類できる。

モニター制度に関しては意見として寄せられた、OB 会の開催希望、モニターからの意見に対する反映結果の報告希望を第 3 期会合の中で実現した。また会合実施回数についても 1 期、2 期の年間 4 回では少ないとの意見を反映して、3 期では年間 6 回の会合を開催した。モニター選任の方法に関しては、3 期までのモニター制度のありかたを総括後、新たな制度を検討することとした。

8 まとめ

「サイクル機構モニターいばらき」会合等をこれまでに3期（平成11年度～平成13年度）開催し、モニターから多くの意見が寄せられると共に、アンケートによるモニター経験前後の意識調査を実施した。それらについて以下に示す。

《サイクル機構について》

- (1) 多くのモニターが、安全を最優先に作業を進めることを望んでいる。
- (2) 多くのモニターが、広報の方法及び内容の改善、学校教育への原子力の導入の検討を望んでいる。広報の内容については、専門用語は使わず、図や写真を多用した説明を望んでいる。
- (3) サイクル機構職員に欠けると感じる事柄は、事故等を自分のものとして受け止める姿勢、情報を公開しようとする姿勢、であると感じるモニターが多い傾向にある。
- (4) 多くのモニターが、地域住民と直接交流を図れるモニター制度は、非常に良い制度であり、継続を望んでいる。

《モニターの意識変化について》

- (1) 1年を通じてサイクル機構に足を運び、機構職員と直接話す機会を得たことで、モニターが機構に対して親近感を持ち、その結果、機構に対する印象を改善できる傾向にある。
- (2) モニターを経験する前後において、多くのモニターが原子力発電の必要性を感じていたが、その約8割が、基本的な原子力の知識を得、サイクル機構に対して親近感を持った後においても、原子力の安全性に対して少なからず不安を感じており、モニター経験後も原子力に対する不安は払拭できない傾向にある。

以上から、モニター制度を導入したことにより、地域住民の生の意見を聴くことができ、また、業務運営に対する理解を得るために必要不可欠であるサイクル機構に対する印象が改善できる傾向にあった。

今後とも、サイクル機構の業務運営に対する地域の方々の理解がより促進され、それが維持されるよう、モニター制度を活用していく必要がある。

9 謝辞

本報告書を作成するにあたり、ご協力を頂きました、第1期～第3期までの東海事業所及び大洗工学センターのモニター事務局の方々、並びに、助川正人前大洗工学センター地域交流課長に厚く感謝の意を表します。

また本報告書作成にあたり、有益なご助言を頂きました、大洗工学センター地域交流課水田俊治氏に厚く感謝の意を表します。

表1 第1期～第3期「サイクル機構モニターいばらき」名簿(東海対象分)

在住市町村	性別	職業	年齢	モニター委嘱	
東海村	男性	不明	60代	第1期	
	男性	不明	60代		
	男性	不明	60代		
	東海村	男性	不明	60代	第2期
		女性	不明	60代	
		男性	無職	70代	第3期
		男性	無職	60代	
女性	主婦	70代			
日立市	男性	不明	60代	第1期	
	男性	不明	60代		
	男性	不明	60代		
	日立市	男性	不明	60代	第2期
		男性	不明	60代	
		男性	無職	60代	第3期
那珂町	男性	不明	60代	第1期	
	男性	不明	60代		
	男性	不明	60代	第2期	
	男性	不明	40代		
	男性	無職	60代	第3期	
男性	会社員	50代			
ひたちなか市	男性	不明	60代		第1期
	女性	不明	50代		
	女性	不明	40代	第2期	
	女性	不明	40代		
	ひたちなか市	女性	主婦	40代	第3期
		女性	主婦	50代	
女性		不明	50代		
常陸太田市		女性	不明	30代	第1期
	女性	不明	40代		
	女性	不明	40代	第2期	
	女性	不明	40代		
	女性	パート	不明		
常陸太田市	女性	主婦	40代	第3期	
	女性	不明	40代		
	十王町	女性	不明	40代	第1期
		男性	不明	50代	第2期
		男性	無職	60代	第3期
水府村	女性	不明	40代	第1期	
	女性	不明	40代	第2期	
	男性	自営業	40代	第3期	
金砂郷町	男性	不明	50代	第1期	
	男性	不明	60代	第2期	
	男性	不明	60代	第3期	
大宮町	男性	不明	40代	第1期	
	男性	公務員	20代	第2期	
	男性	公務員	40代	第3期	
瓜連町	男性	不明	60代	第1期	
	男性	不明	60代	第2期	
	男性	会社員	60代	第3期	
桂村	女性	不明	50代	第1期	
	女性	不明	50代	第2期	
	女性	主婦	60代	第3期	
常北町	男性	不明	40代	第1期	
	女性	不明	40代	第2期	
	女性	主婦	40代	第3期	

表2 第1期～第3期「サイクル機構モニターいばらき」名簿(大洗対象分)

在住市町村	性別	職業	年齢	モニター委嘱
大洗町	男性	団体職員	60代	第1期
	男性	自営業	60代	
	男性	農業	50代	
	男性	自営業	60代	第2期
	男性	不明	60代	第3期
	男性	無職	60代	
	女性	主婦	50代	
旭村	男性	農業	60代	第1期
	男性	公務員	20代	第2期
	男性	アルバイト	60代	
	男性	農業	60代	
水戸市	男性	無職	60代	第1期
	男性	無職	60代	第2期
	男性	無職	70代	第3期
茨城町	女性	パート	50代	第1期
	女性	パート	40代	
	女性	不明	不明	第2期
	女性	不明	60代	
	女性	パート	50代	第3期
	女性	主婦	50代	
鉾田町	女性	主婦	30代	第1期
	女性	主婦	30代	第2期
	女性	主婦	30代	
	女性	主婦	30代	第3期
	女性	主婦	30代	
笠間市	男性	会社員	40代	第1期
	男性	会社員	40代	第2期
	女性	主婦	40代	第3期
友部町	男性	公務員	30代	第1期
	男性	会社員	40代	第2期
	男性	自営業	40代	第3期
	男性	会社員	30代	
内原町	男性	公務員	50代	第1期
	女性	不明	40代	第2期
	男性	不明	60代	
	男性	無職	60代	第3期
	女性	無職	60代	
岩間町	男性	公務員	50代	第1期
	男性	無職	60代	第2期
	男性	無職	60代	第3期
美野里町	女性	主婦	60代	第1期
	女性	主婦	60代	第2期
	女性	主婦	50代	
	女性	主婦	60代	第3期
	女性	主婦	60代	
小川町	男性	農業	60代	第1期

表3-1 業務運営に関すること

アドバイス	取組み
○ 作業者に対する十分な教育を行うこと。	職員はもとより、関連企業従業員や作業員も含めた教育・訓練の強化、教育内容の見直しを適宜実施。
○ 慣れに注意すること。	作業前にその日の作業内容・手順を確認することの他、現場での危険予知や、危険のポイントの復唱等を実施。
○ 民間会社との従業員の意識のズレがある。	“動燃” ⇒ “サイクル機構” への移行と同時に、社外研修等を通して意識改革を継続的に実施。
○ 地域住民との交流の場を持つこと。	「大洗わくわく科学館」を地域住民の方との交流の拠点の1つとして活用。また、立地及び周辺市町村行事や清掃活動等のボランティア活動等に積極的に参加。
○ 住民との話し合いの場を多く持つこと。	フォーラムなどの住民説明会や事業所周辺宅への戸別訪問を実施。
○ 学校教育へ参画すること。	女性PAチーム等による地元学校への出張授業を実施。また地元学校の施設見学の受入れを実施。

ご意見・ご感想

○ 何事にも自信を持つこと。
○ 仕事にプロ意識をもつこと。
○ 茨城の原子力事業者が連携をとった東海NOAH協定は良い。

表3-2 広報に関すること

	アドバイス	取組み
○	サイクル機構のPRをもっとした方が良い。	国の研究機関としての各種制約はあるものの、マスメディア、広報誌、インターネットなどあらゆる機会を通じて、PRの強化を継続していく。
○	マスコミを有効に活用した方が良い。	再処理施設の運転状況については毎日、その他の事業については毎週、報道機関にプレス発表を実施。また、記者に対し、勉強会、施設見学会などを適宜開催。
○	説明に、専門用語が多く、難解である。説明に工夫を。具体的には文字より写真、絵を活用すること。	皆さまに分かりやすく我々の業務についてご理解いただけるよう、説明内容および資料について継続的に見直しを実施。
○	展示館の展示物の内容が難しい。	展示物の更新の際、見直しを図る。
○	主婦対象の説明会を開催して欲しい。	地域説明会「フレンドリートーク」の中で試行中。
	ご意見・ご感想	
○	PRの第一は事故をおこさないことである。	
○	“茨城の原子力” “サイクルポケットブック” は役に立った。	

表3-3 「サイクル機構モニターいばらき」に関すること

	アドバイス	取組み
○	OB会を開催して欲しい。	第1回OB会を本日開催。
○	モニター任期満了後も種々の案内等連絡が欲しい。	主に郵送による連絡を実施。またモニターカード（仮称）を発行することを計画中。
○	結果の報告をして欲しい。	いただいたご意見についてのサイクル機構の取組みについてご報告。
○	開催案内は余裕をもって通知して欲しい。	できるかぎり早くご連絡を行う。具体的には、会合開催1ヶ月前のご連絡をができるよう、努力する。
○	会合当日に配付される資料を事前に配布して欲しい。	会合の内容の決定が直前となってしまうため、現状では難しいが、実現できるよう努力する。
○	会合の開催回数の増加を検討して欲しい。	第3期は年6回の会合を開催予定（1期、2期は年4回の開催）。
○	モニターに対して、1年間の任期の中で行う命題を決めた方が良い。	第3期では第1回会合にてモニター会合の年間計画についてご説明。
○	施設見学前に施設についての説明を予めして欲しい。	第2期より施設見学前の施設の説明を実施。
○	現場の技術者や、女性のみ意見交換の場があれば良い。	グループディスカッションにて実現。
○	サイクル機構主催のイベントへ参加できるよう検討して欲しい。	サイクル機構主催のイベントは郵送にて案内。
○	全県レベルでの幅広い人選をした方が良い。	第4期モニターについては、現在までの3年間の活動を総括し、新たな制度を検討中。
○	年齢や性別など、モニター選定の方法について検討した方が良い。	
○	モニター同士の自己紹介、情報交換が出来ると良い。	グループディスカッションやOB会などを通じてより友好的な形ができるよう今後とも力を入れていく。
	ご意見・ご感想	
○	モニターとなったことで、原子力に対する関心が深まった。	
○	全原子力事業者に対するモニター制度の設置を検討した方が良い。	
○	会合において、いたれりつくせりでなくて良い。	

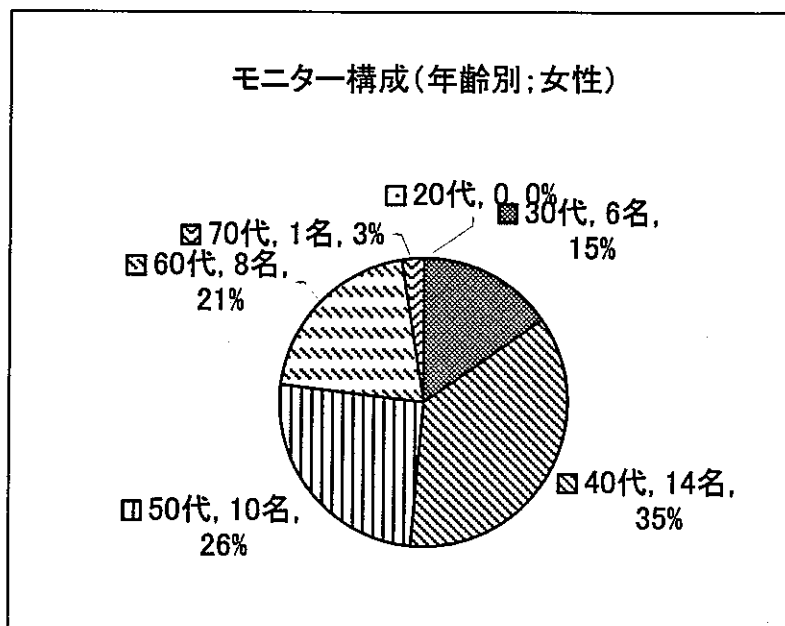
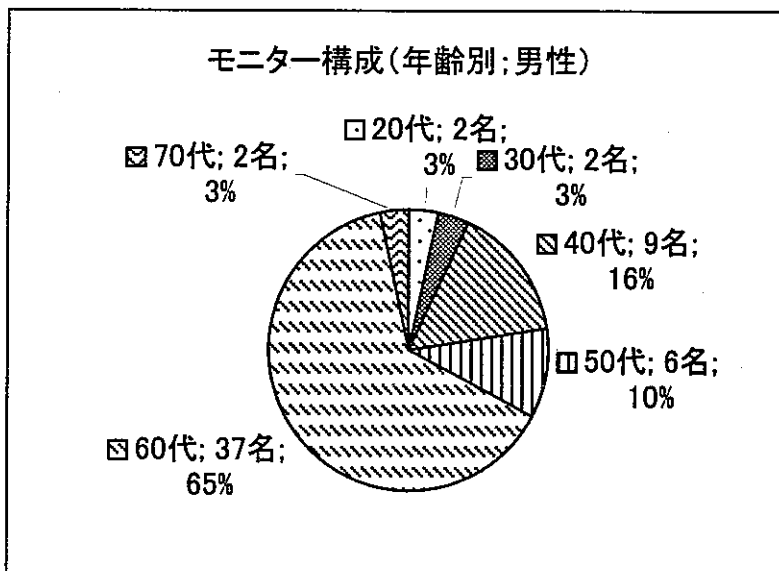
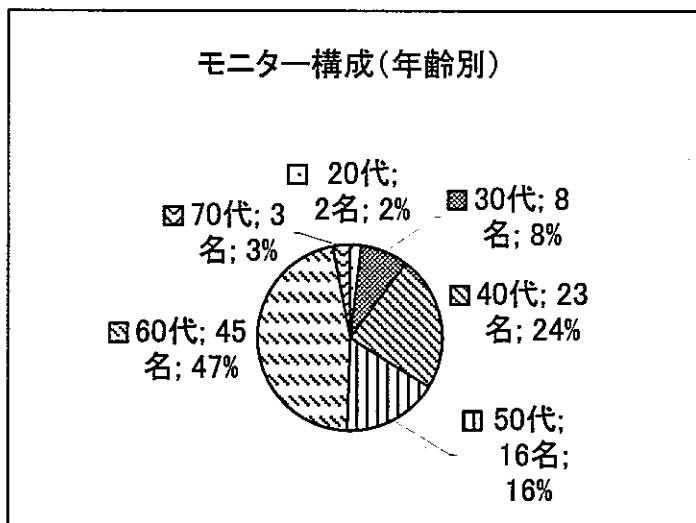
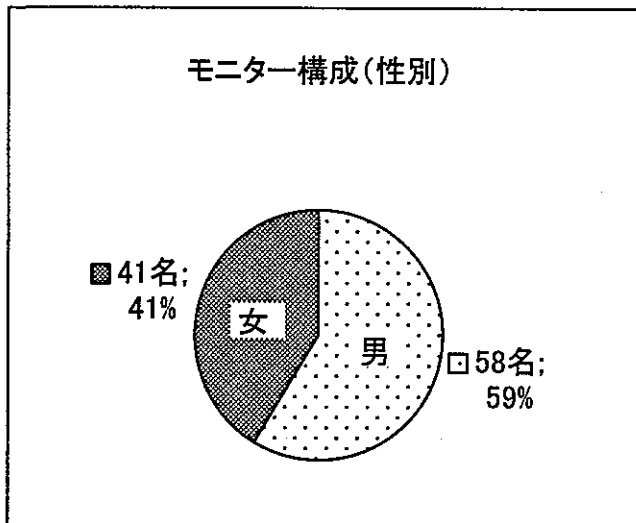


図1 モニターの性別及び年齢構成

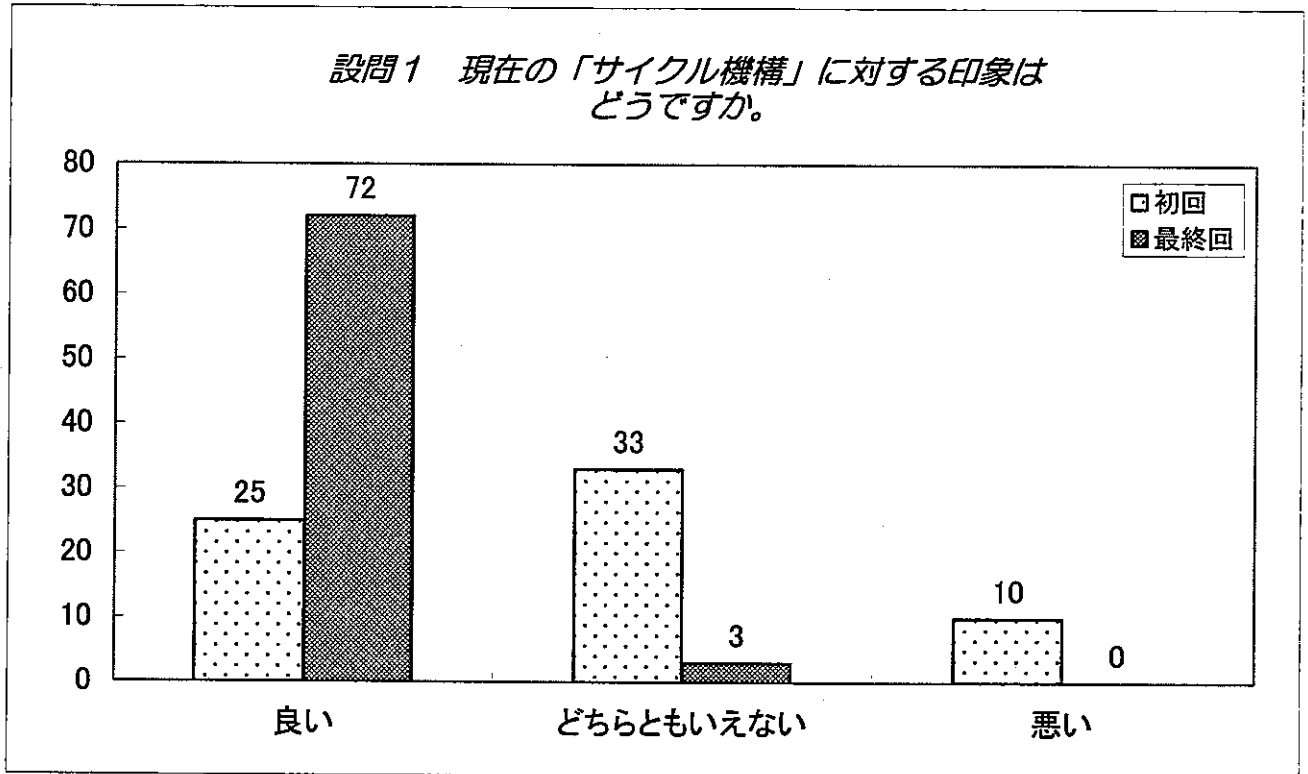


図2-1 現在の「サイクル機構」に対する印象 ～初回と最終回の比較～

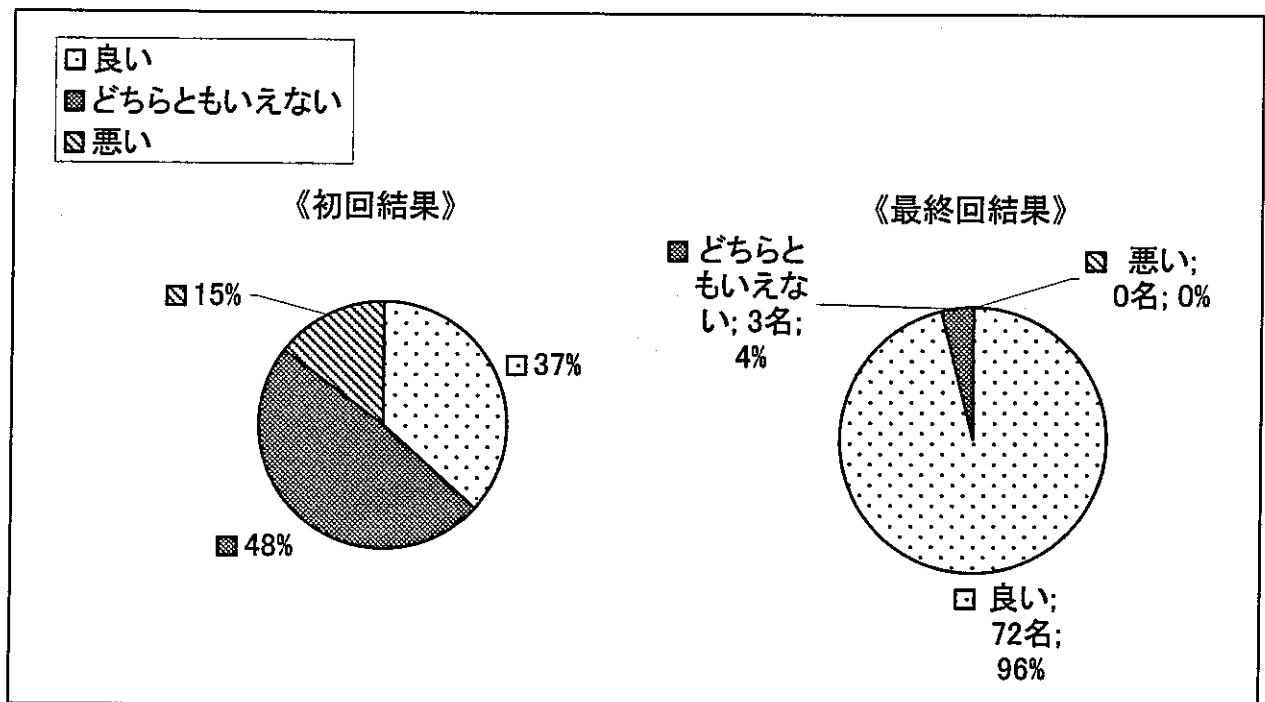


図2-2 現在の「サイクル機構」に対する印象 ～%による比較～

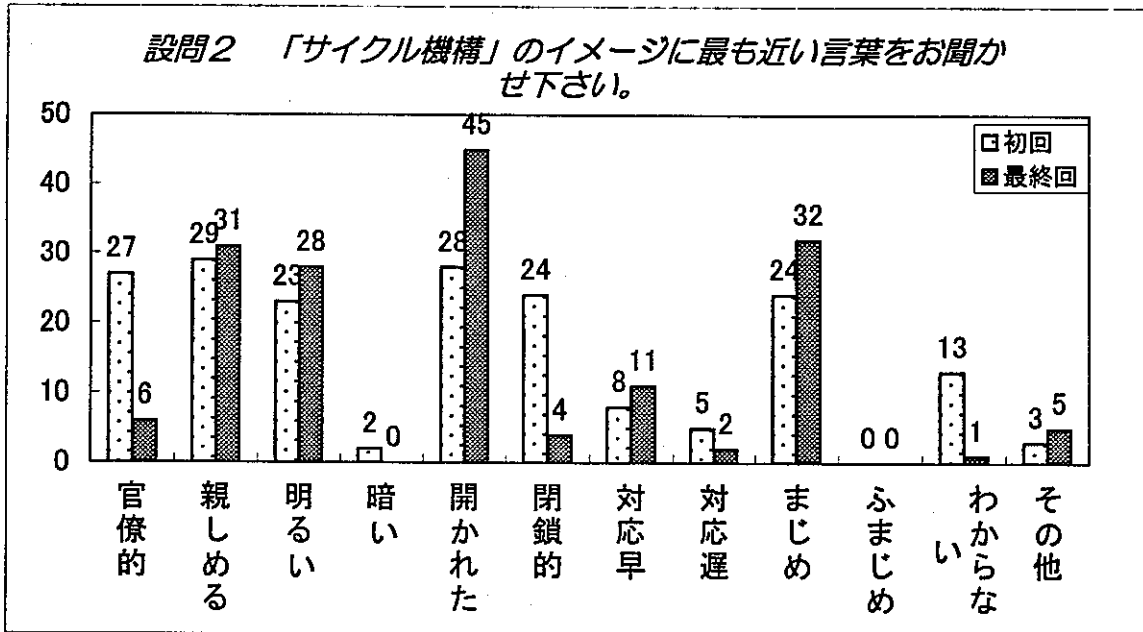


図3-1 「サイクル機構」に対するイメージについて ～初回と最終回の比較～

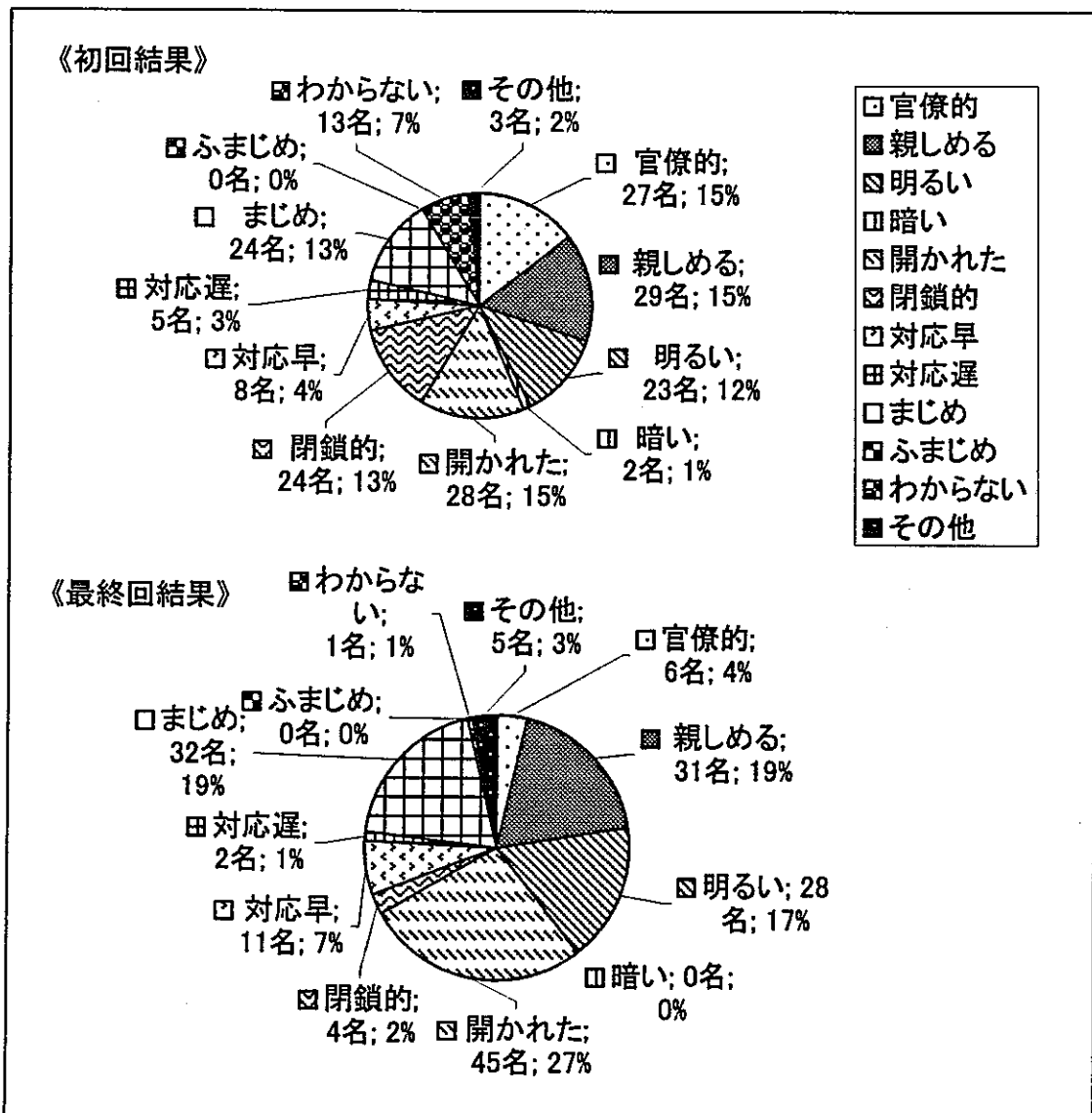


図3-2 「サイクル機構」に対するイメージについて ～%による比較～

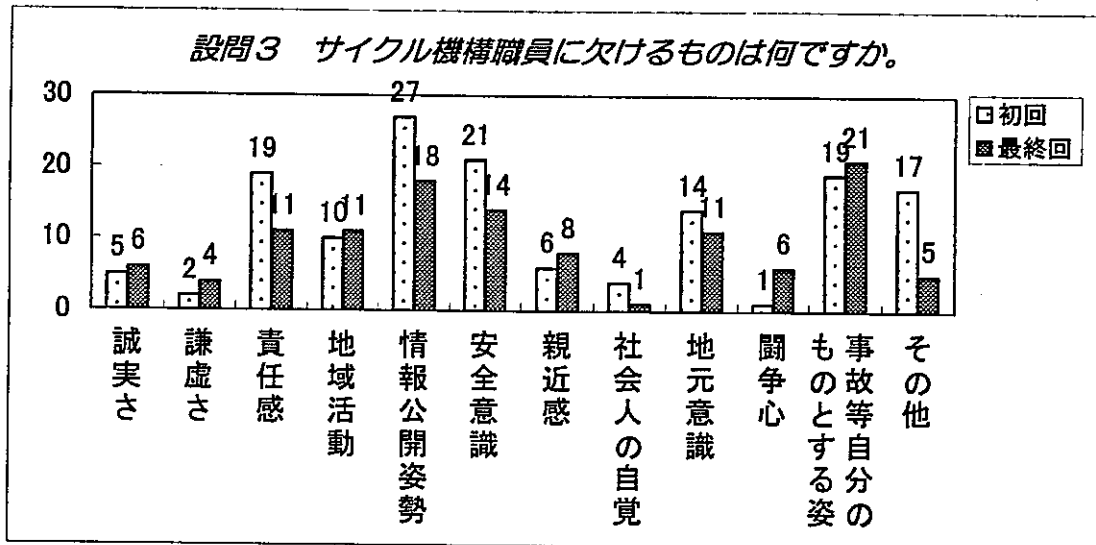


図4-1 サイクル機構職員に欠けているもの ～初回と最終回の比較～

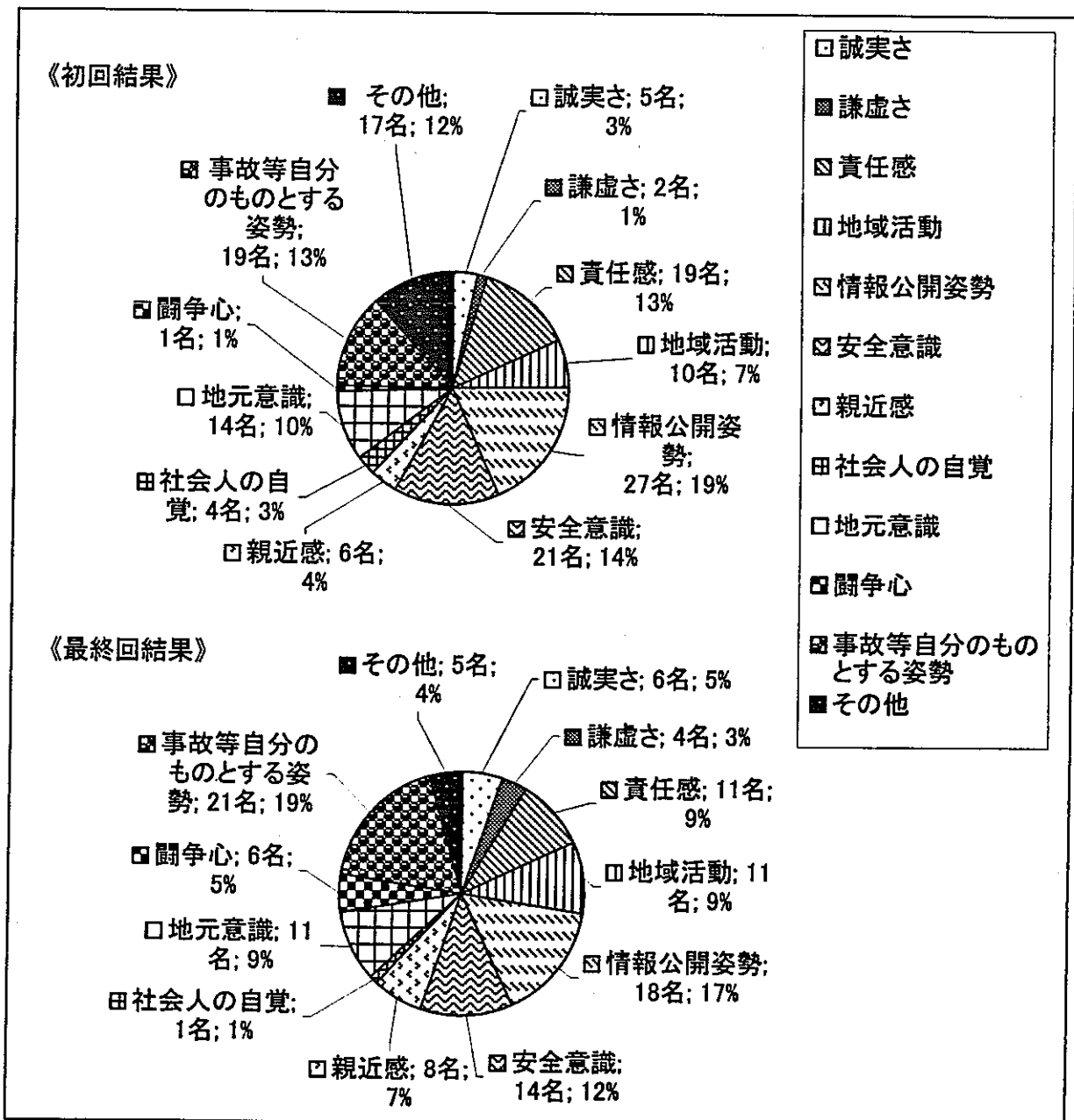


図4-2 サイクル機構職員に欠けているもの ～%の比較～

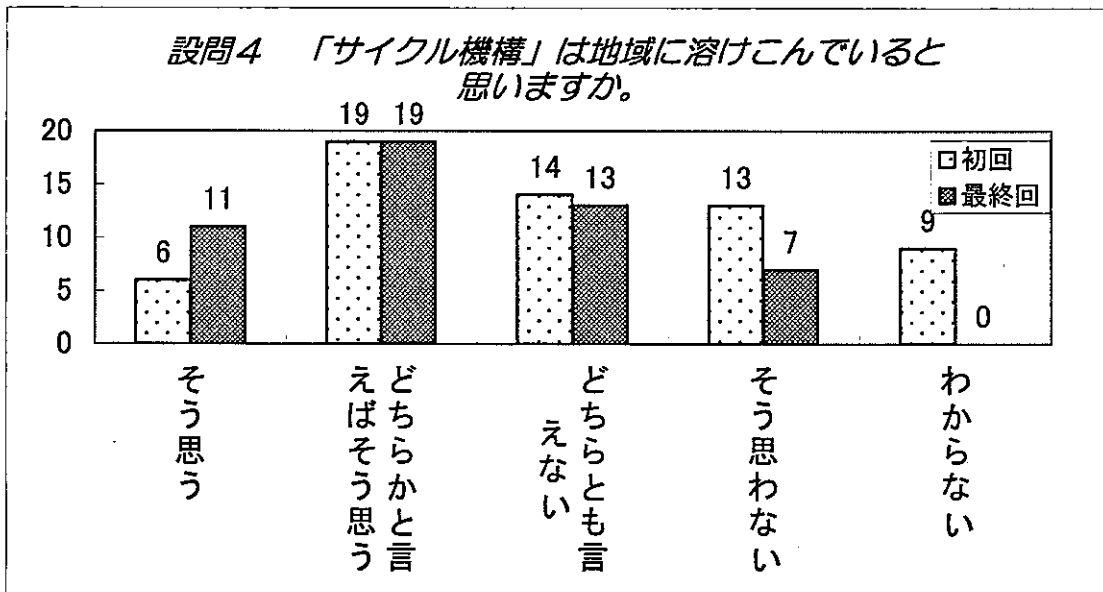


図5-1 「サイクル機構職員」の地域への溶けこみ ～初回と最終回の比較～

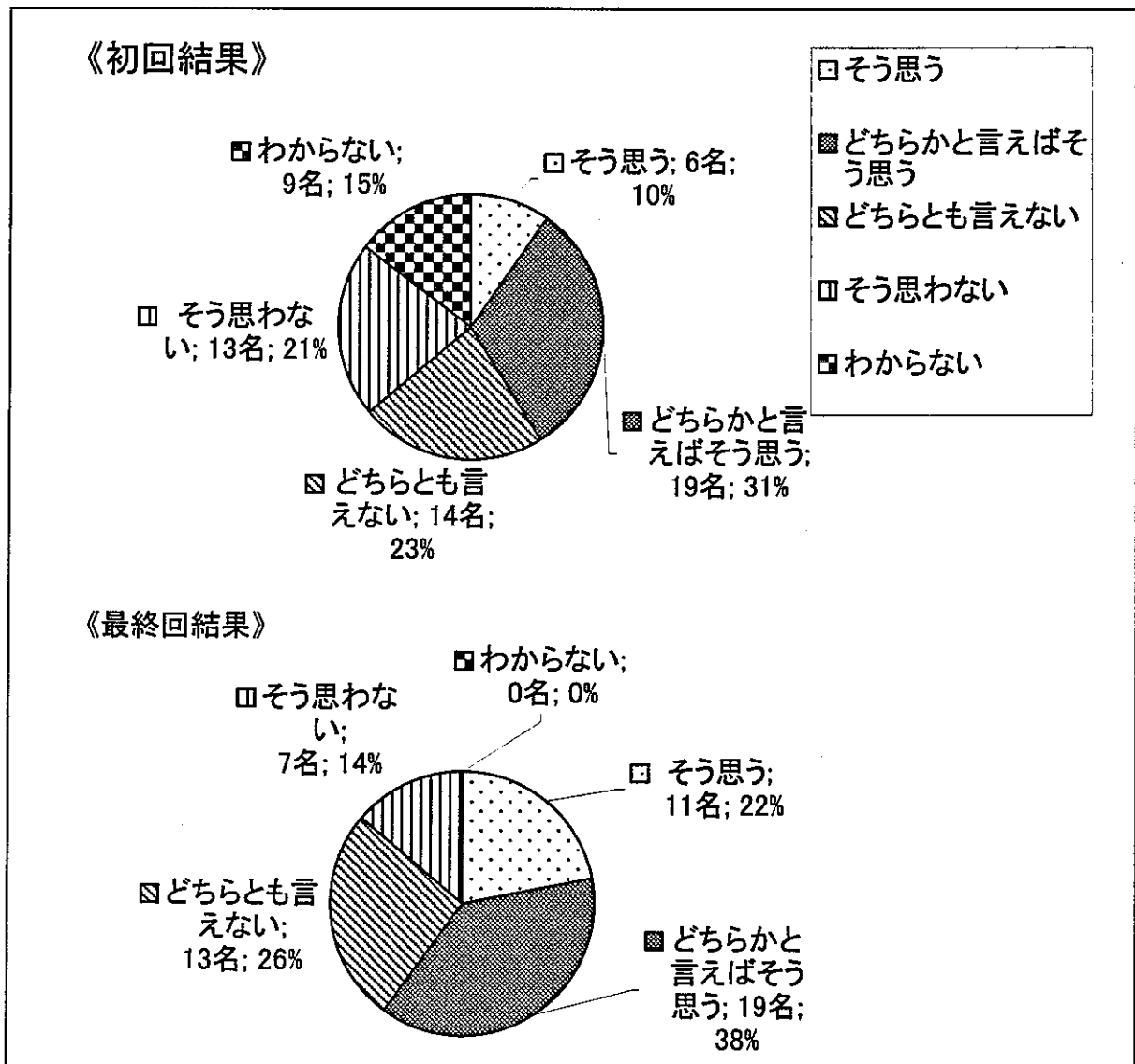


図5-2 「サイクル機構職員」の地域への溶けこみ ～%の比較～

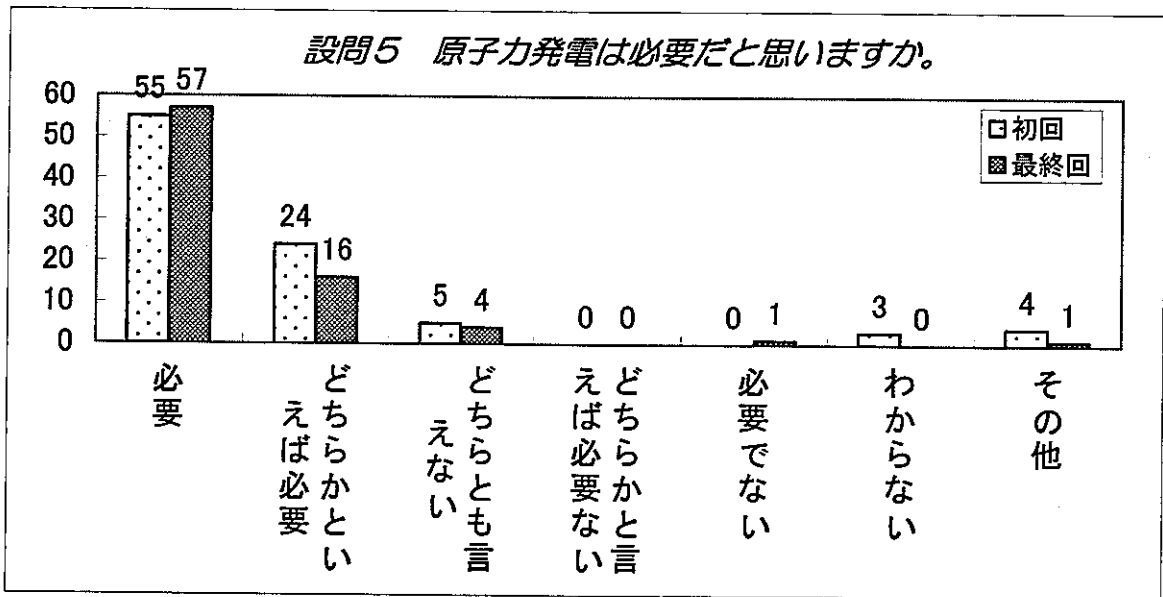


図6-1 原子力発電の必要性 ～初回と最終回の比較～

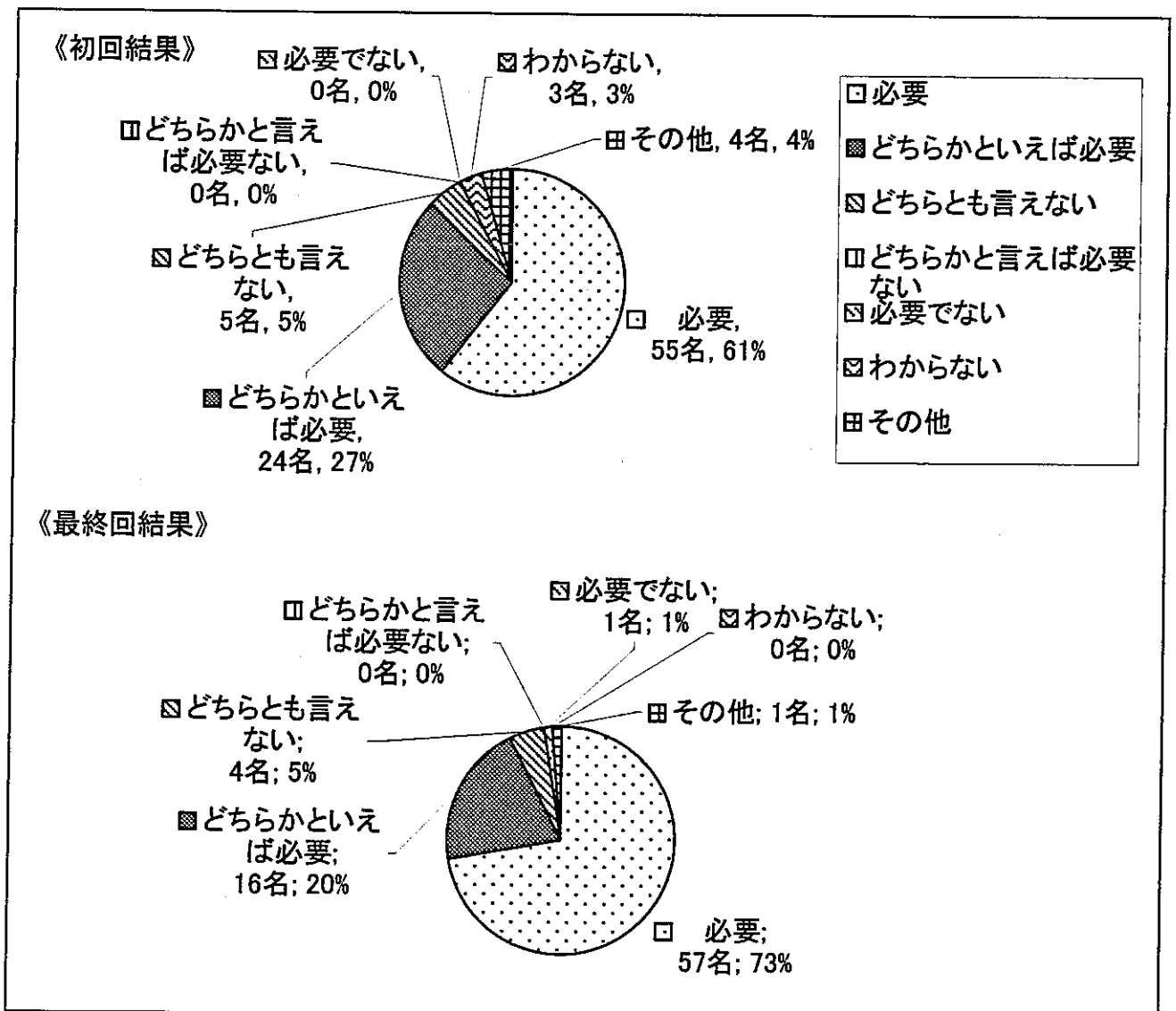


図6-2 原子力発電の必要性 ～%の比較～

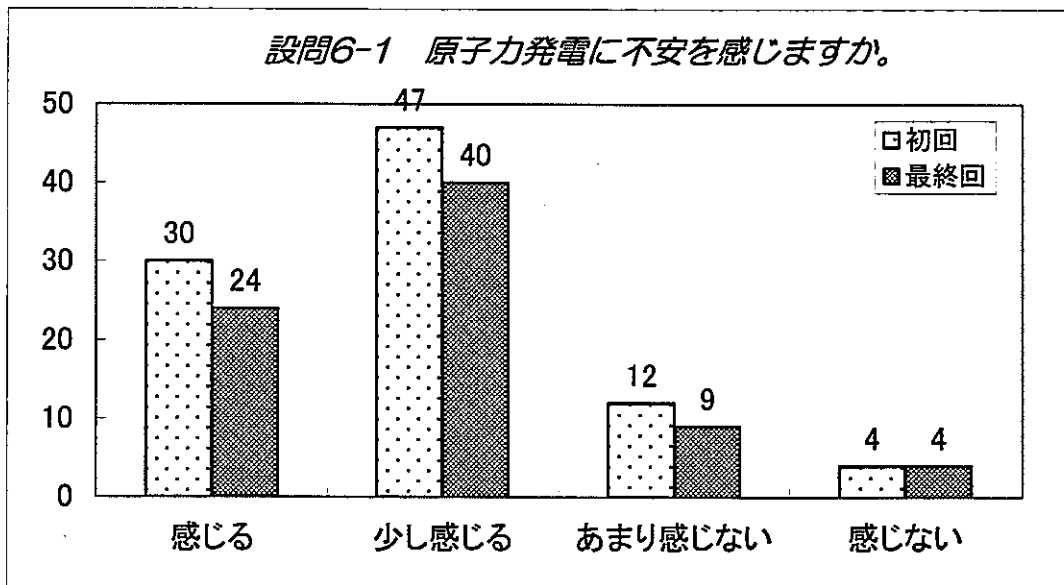


図7-1 原子力発電への不安 ～初回と最終回の比較～

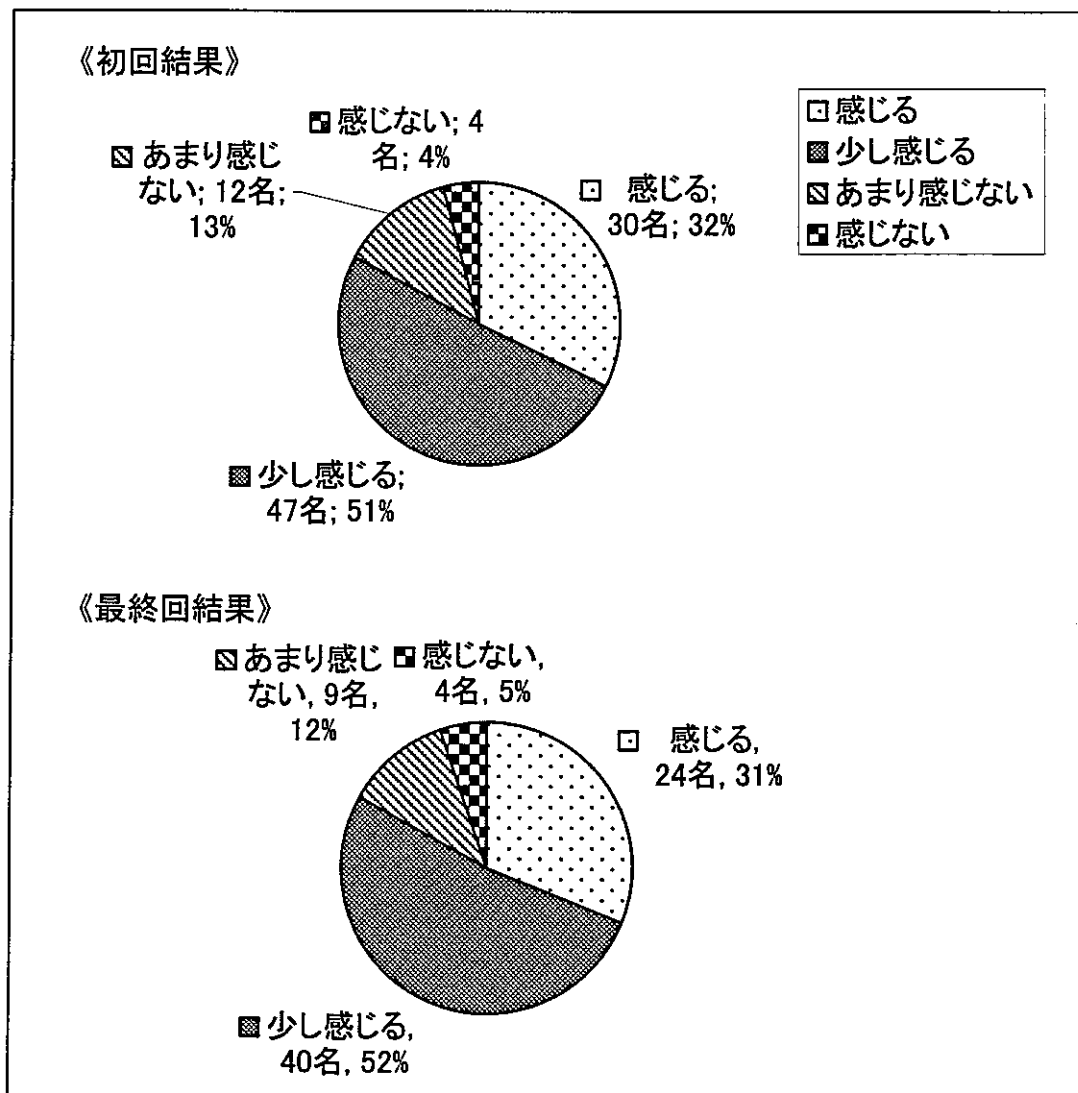


図7-2 原子力発電への不安 ～%の比較～

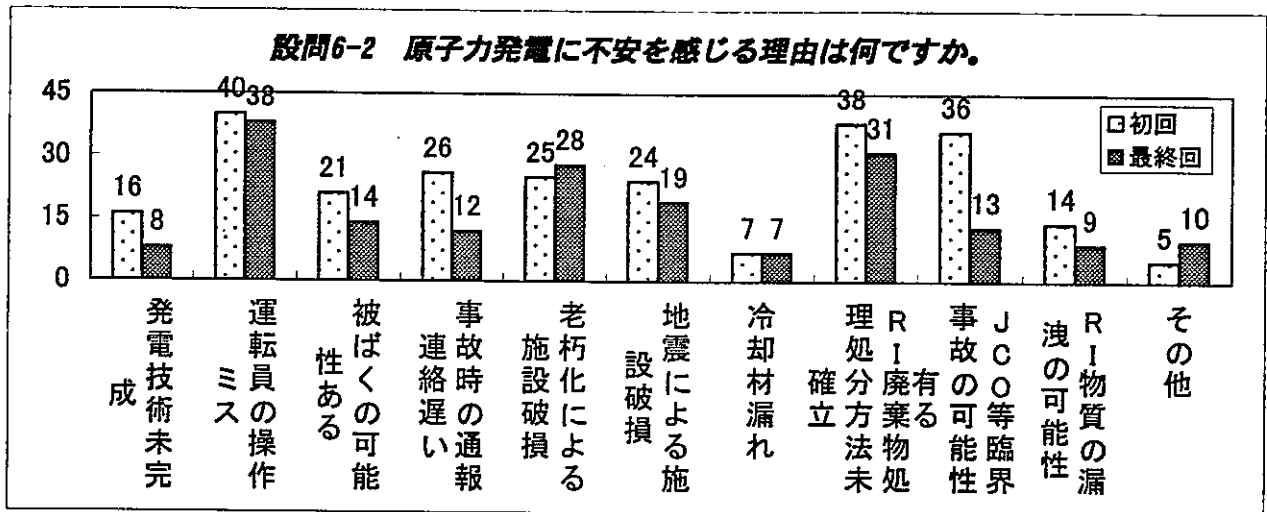


図8-1 原子力発電に不安を感じる理由 ～初回と最終回の比較～

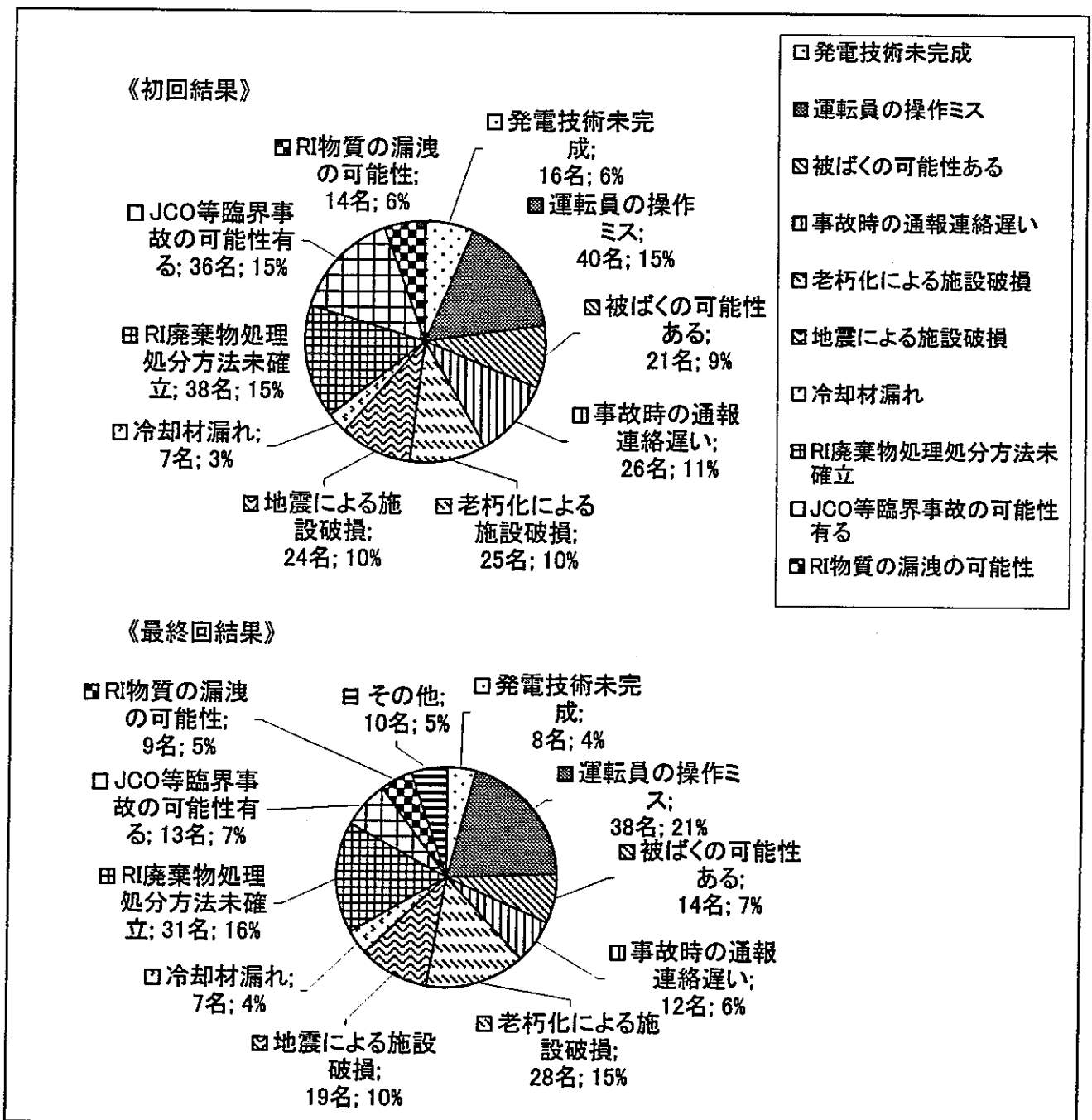


図8-2 原子力発電に不安を感じる理由 ～%の比較～

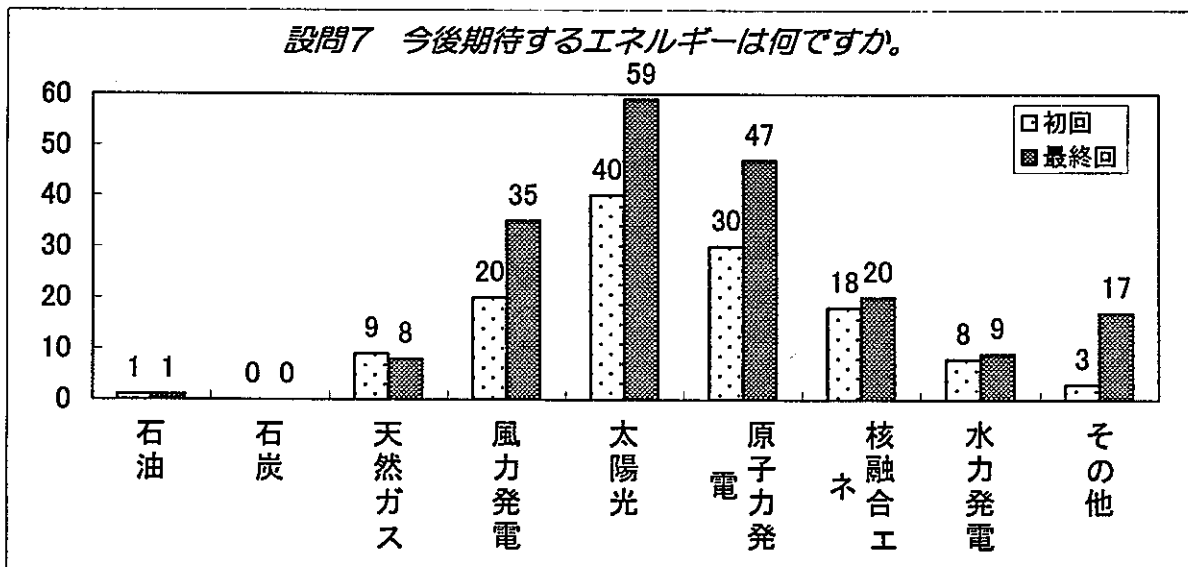


図9-1 将来期待するエネルギー ～初回と最終回の比較～

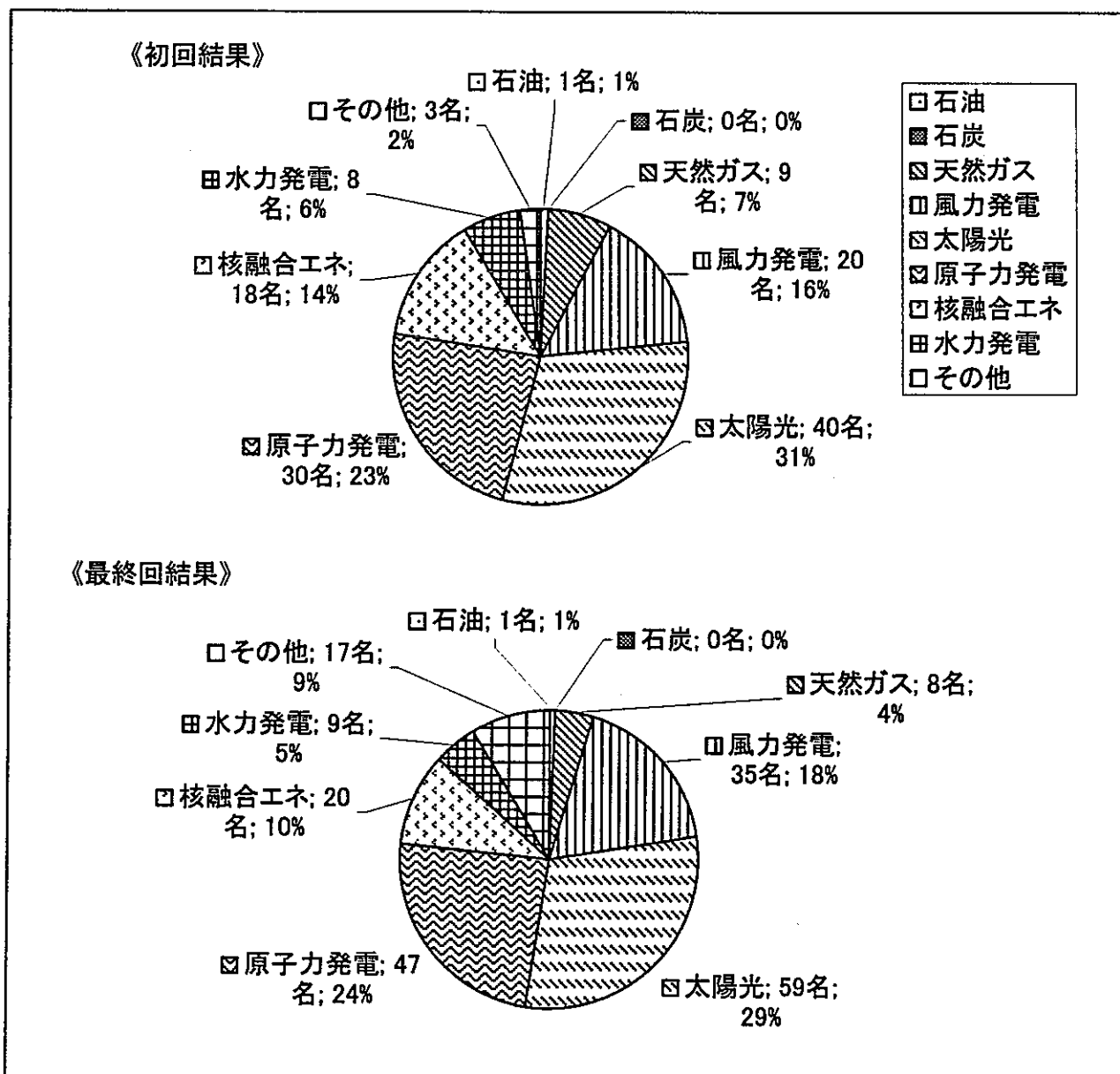


図9-2 将来期待するエネルギー ～%の比較～

10 データ集

(付録 1)

【事務局名簿】

1期～3期の東海事業所、大洗工学センターのモニター事務局は以下の通りである。

	東海事業所	大洗工学センター
第1期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出沢 孝久 (第1回会合) ○ 田中 志好 (第1回～第2回会合) ○ 久賀 勝利 (第2回～第4回会合) ○ 持田 和美 (第2回～第4回会合) ○ 阿部 定好 (第3回～第4回会合) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大平 博昭 (第1回～第4回) ○ 宮地 紀子 (第1回～第4回)
第2期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿部 定好 (第1回～第2回会合) ○ 持田 和美 (第1回～第4回会合) ○ 杉本 直行 (第1回～第4回会合) ○ 鈴木 実 (第3回～第4回会合) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大平 博昭 (第1回～第4回) ○ 宮地 紀子 (第1回～第4回)
第3期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 持田 和美 (第1回会合) ○ 鈴木 実 (第1回～第6回会合) ○ 関 成一 (第1回～第6回会合) ○ 大川あおい (第2回～第6回会合) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宮地 紀子 (第1回～第6回)

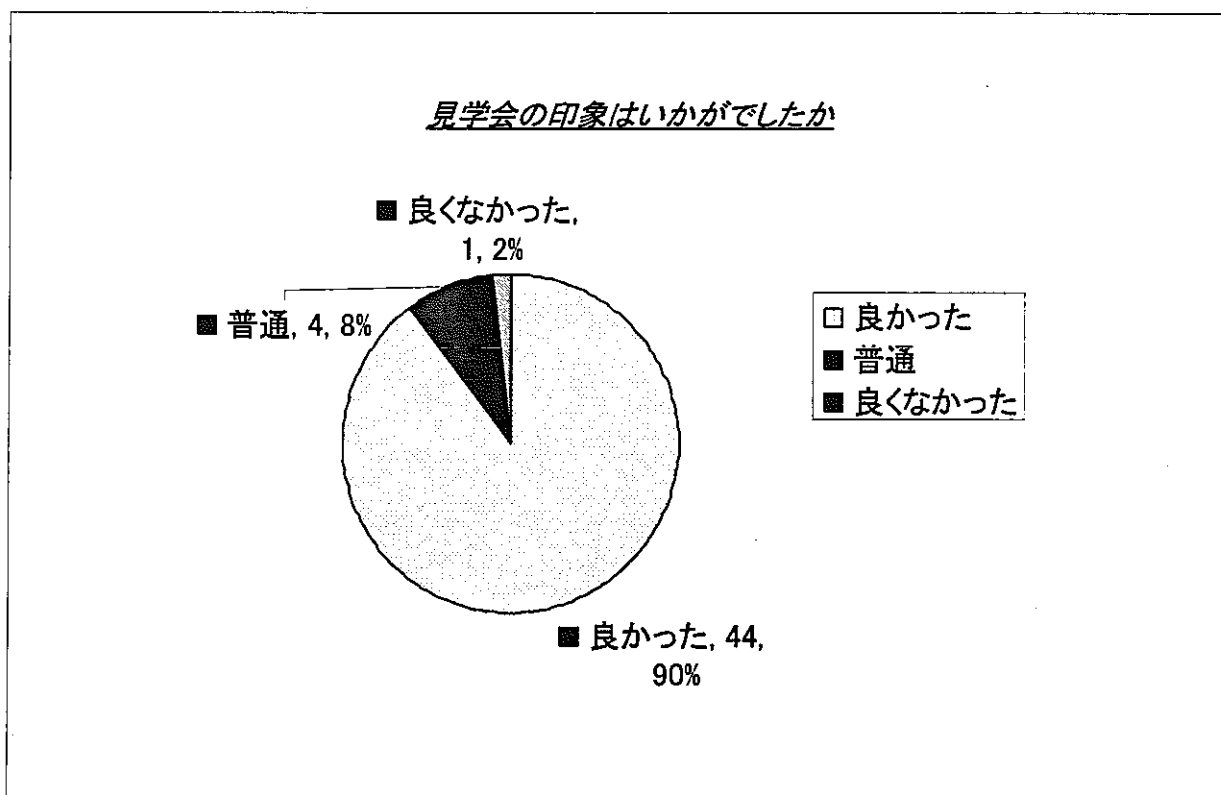
(付録 2)

【(株)東京電力福島原子力発電所見学後アンケート結果】

第 2 期では、東京電力福島第二原子力発電所等、第 3 期では同第一原子力発電所等の見学を実施した。両期において、見学後、見学場所等の印象を問うアンケートを実施した。以下に、2 期、3 期のアンケート結果をまとめて示す。

なお、回答者数は 2 期が 23 名、3 期は 26 名、合計 49 名であった。

〔設問 1〕 見学会全体の印象はいかがでしたか。



【良かった理由】

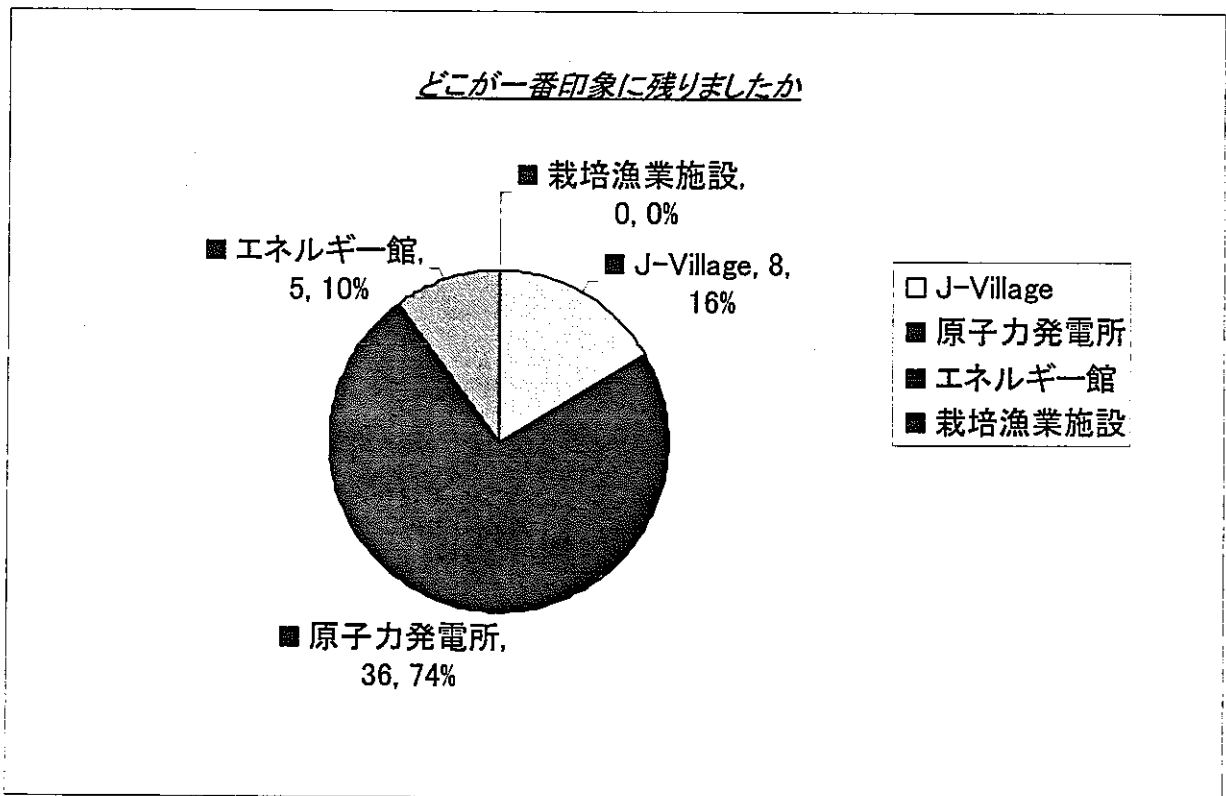
- 原子力発電所を直に見学できて良かった。
- 丁寧な案内と説明で良かった。
- 浜岡原子力発電所の事故等で心配だったが、見学して理解を深めることができて良かった。
- サイクル機構より原子力発電所の警備の方が嚴重だと思った。
- 原子力について危険といったイメージを持っていたが、原子炉を見て、正

- しく操作すれば安全であることがわかった。
- 各施設ともきちんと管理されていて、説明もわかりやすく良かった。
- 内容が充実していた。

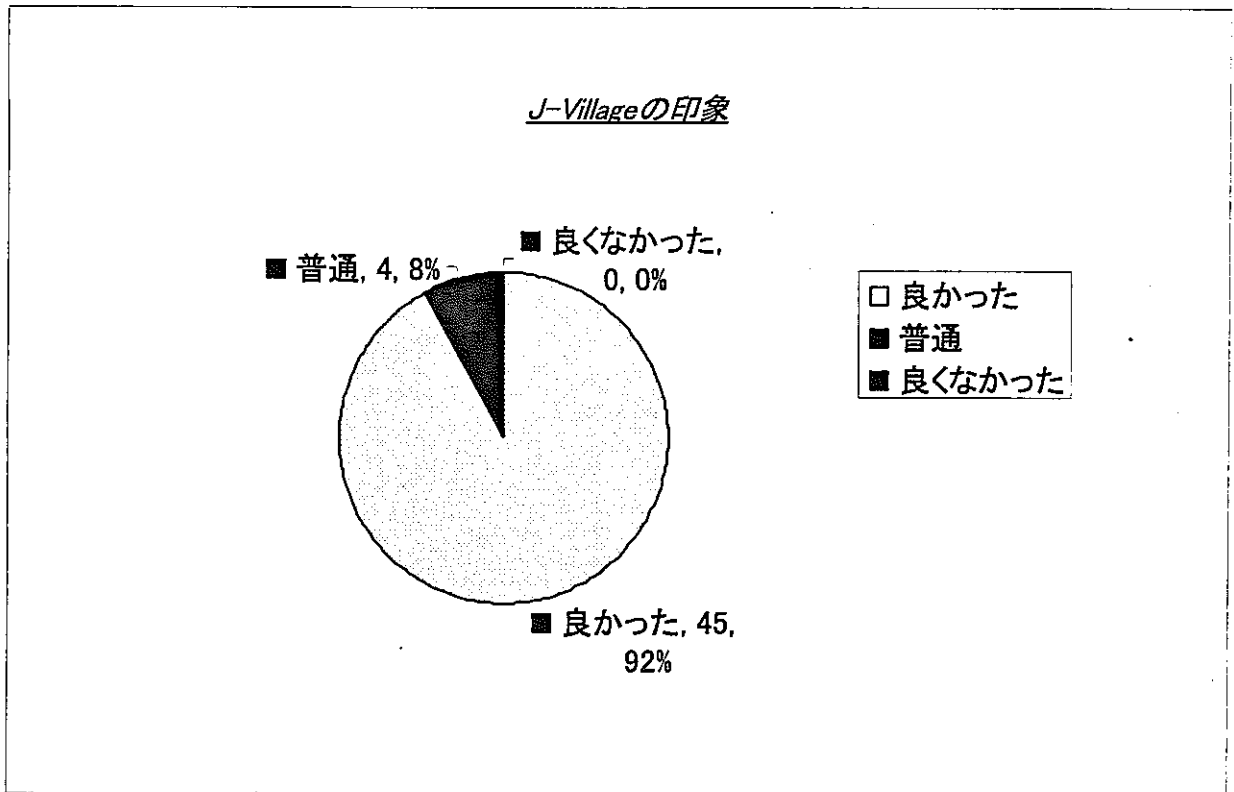
【その他】

- 時間が足りなかった。
- 天候が悪く、全体的に暗いイメージだった。
- 意見を交換する時間が欲しかった。

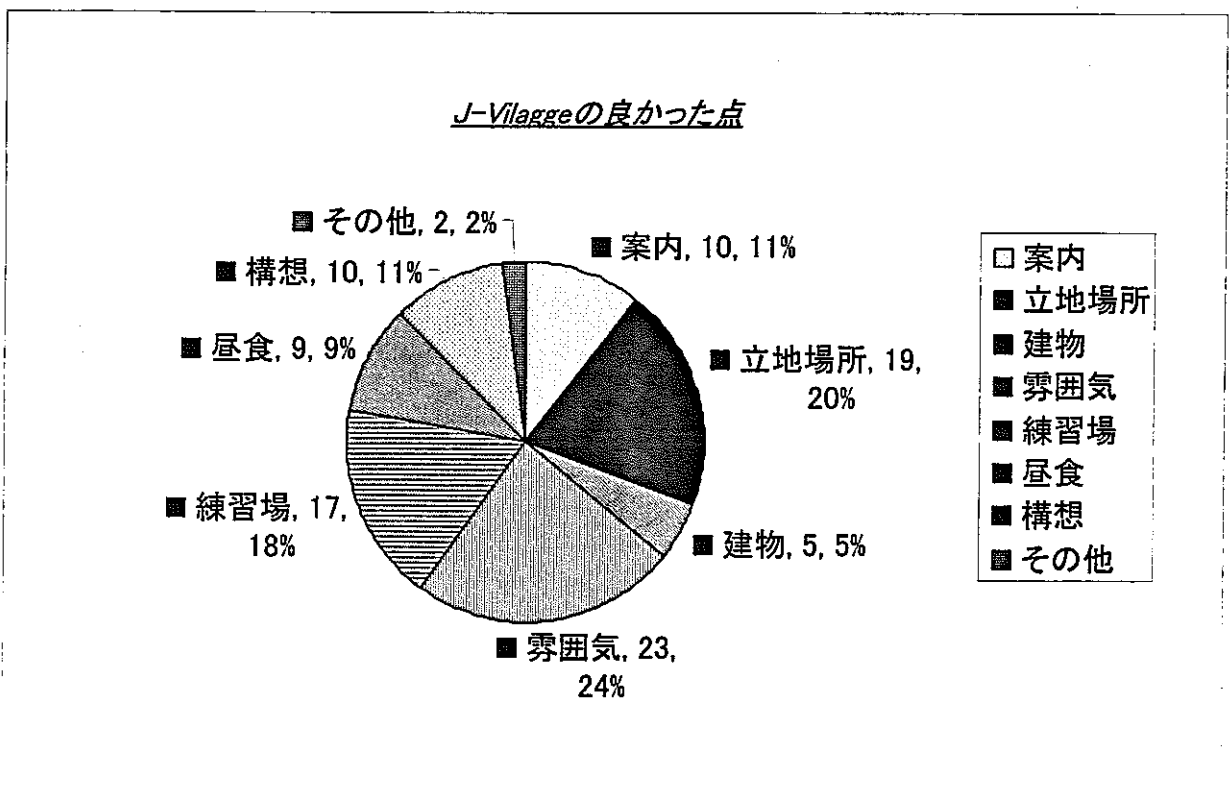
〔設問2〕 どこが一番印象に残りましたか。



〔設問 2-1-1〕 J-Village の印象はいかがでしたか。



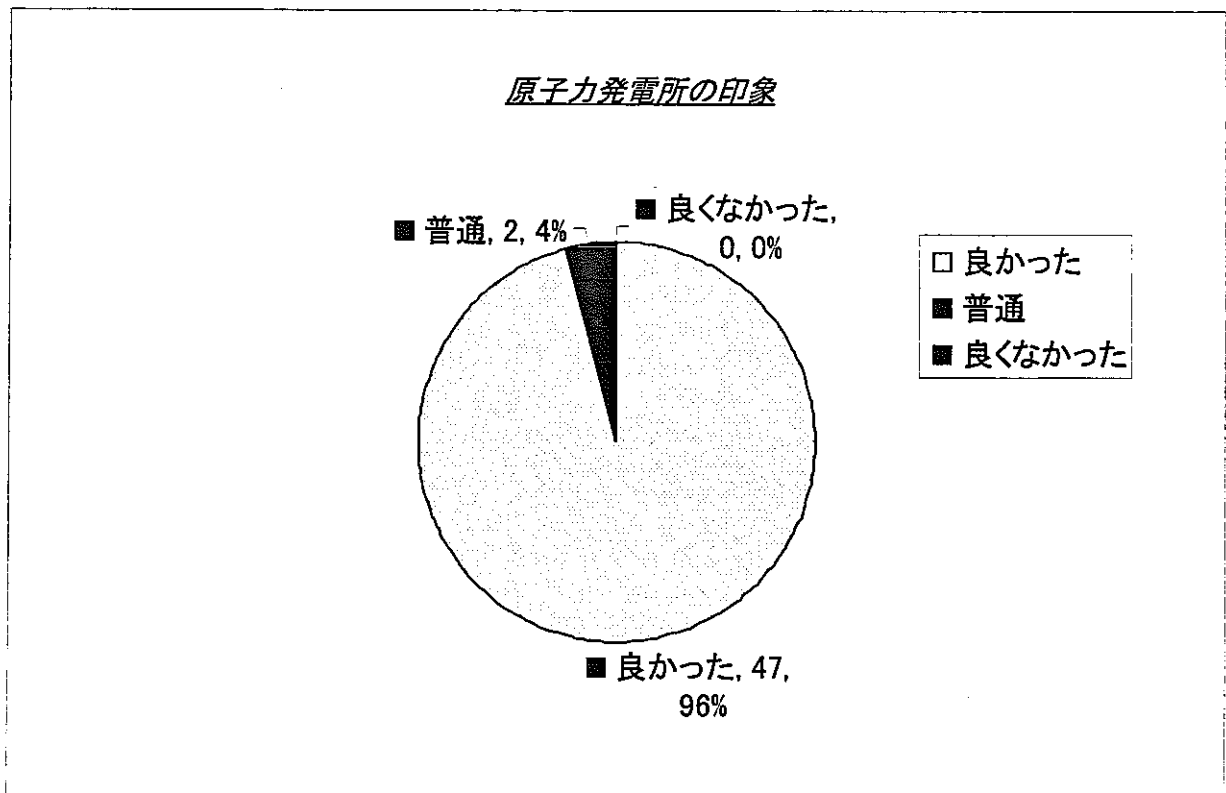
〔設問 2-1-2〕 J-Village の良かった点はどこでしょうか。



【良かった理由】

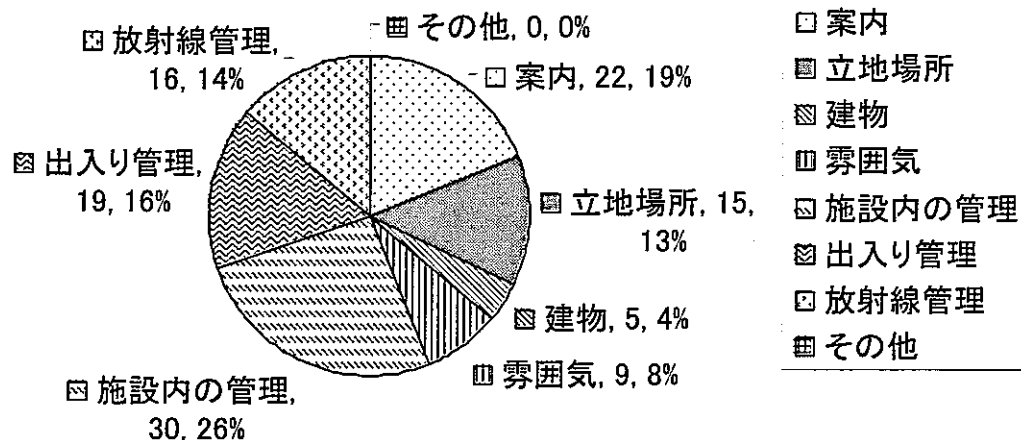
- 案内が良かった。
- 練習場は子供からプロまで楽しめそうで良かった。
- 広々とした練習場で、芝が青々としていて良かった。
- 食事がおいしかった。
- 地域の活性化になっていて良かった。
- 施設はきれいで、照明なども良かった。
- 限られた人たちだけでなく、誰でも利用できるということが良かった。
- 躍動感のある施設で良かった。
- 申し分なく素晴らしい施設だった。

〔設問 2-2-1〕 原子力発電所の印象はいかがでしたか。



〔設問 2-2-2〕 原子力発電所の良かった点はどこでしょうか。

原子力発電所の良かった点



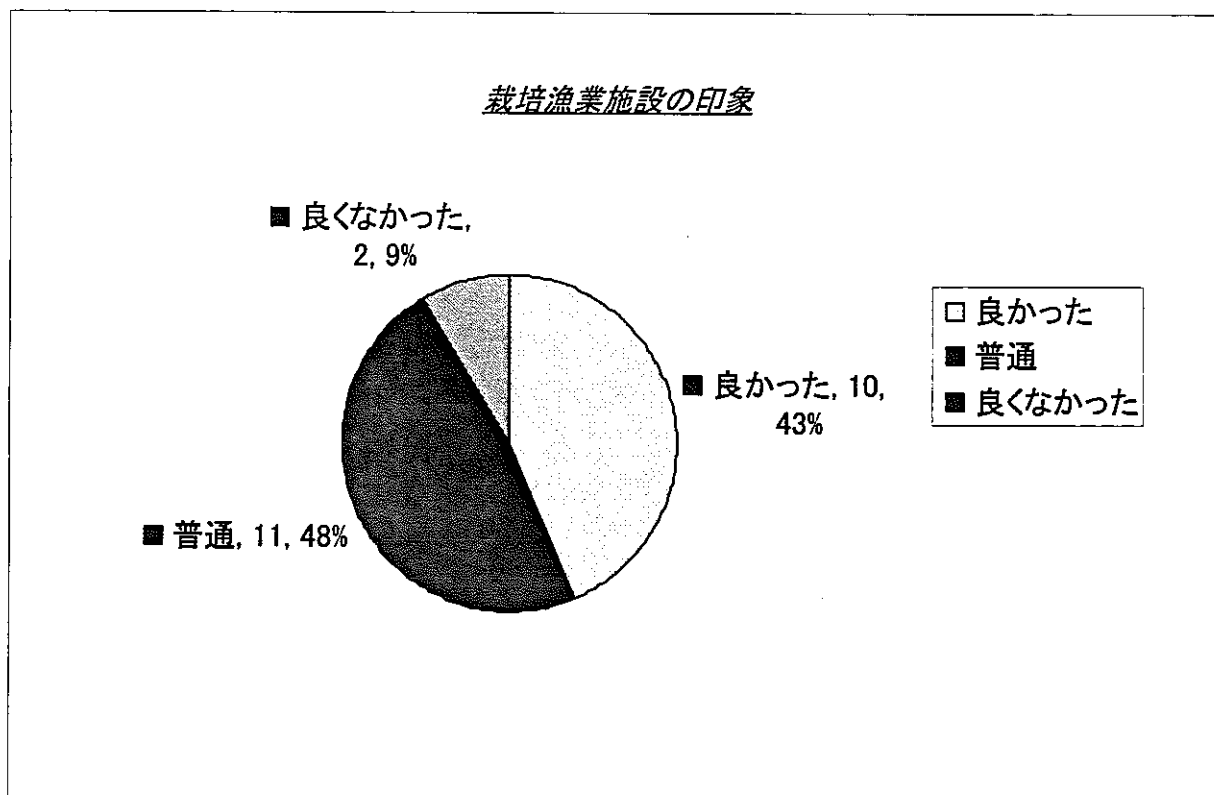
【良かった理由】

- 施設内は整理整頓が行き届いて、清潔でよかった。
- 案内の方々の対応も良く、良かった。
- 見学の班分け人数がちょうど良く、ゆっくり見ることができた。
- 施設の外には、草花が植わっていて良かった。
- 施設内の管理がきちんとされていて良かった。
- 広い敷地の中、整った環境で仕事をしていることがわかった。
- 出入り管理が厳しく行われていることがわかった。
- エネルギーを作り出す発電所を見学でき、感動した。

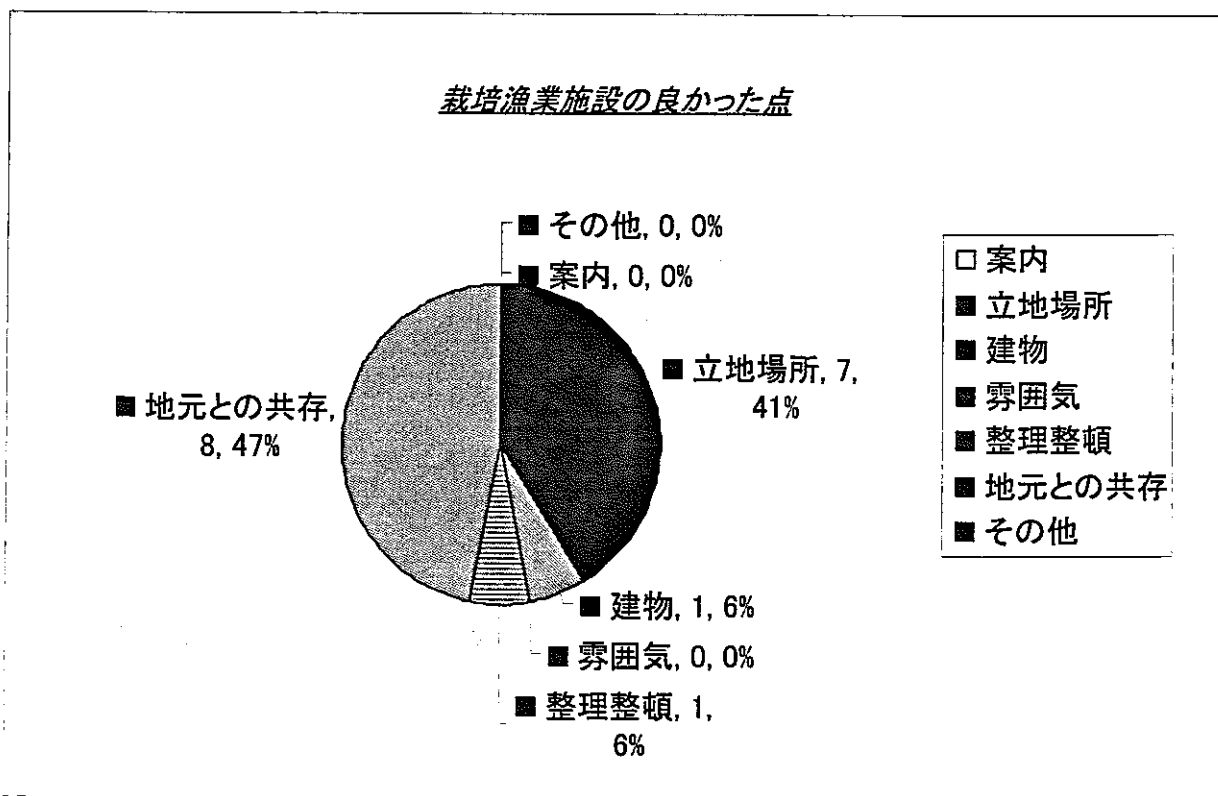
【その他】

- テロなどもあり、より一層の安全対策をお願いしたい。
- 構造上仕方が無いが、窓が少なく暗く感じた。

〔設問 2-3-1〕 栽培漁業施設の印象はどうでしたか。



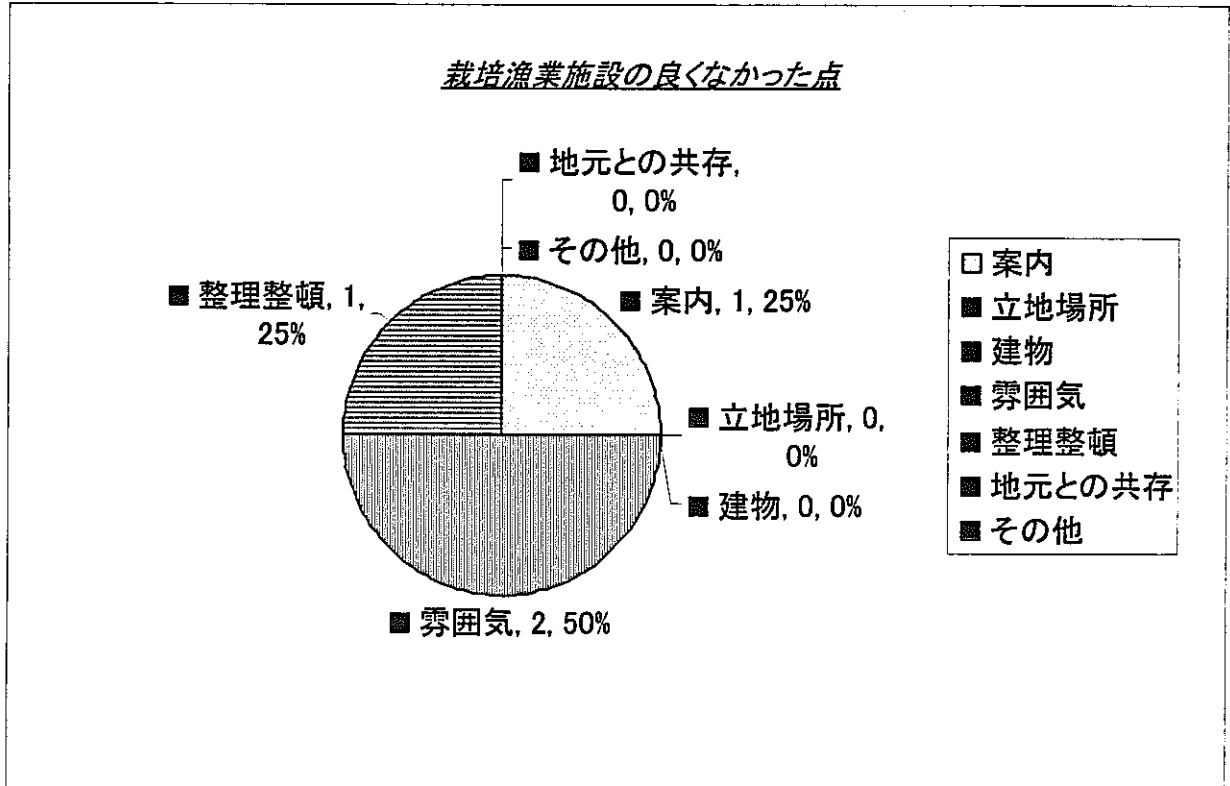
〔設問 2-3-2〕 栽培漁業施設の良かった点はどこでしょうか。



【良かった理由】

○原子力発電の温海水（排水）を利用して栽培漁業施設を設置し、地元へ貢献している点は良い。

〔設問 2-3-3〕 栽培漁業施設の良くなかった点はどこでしょうか。

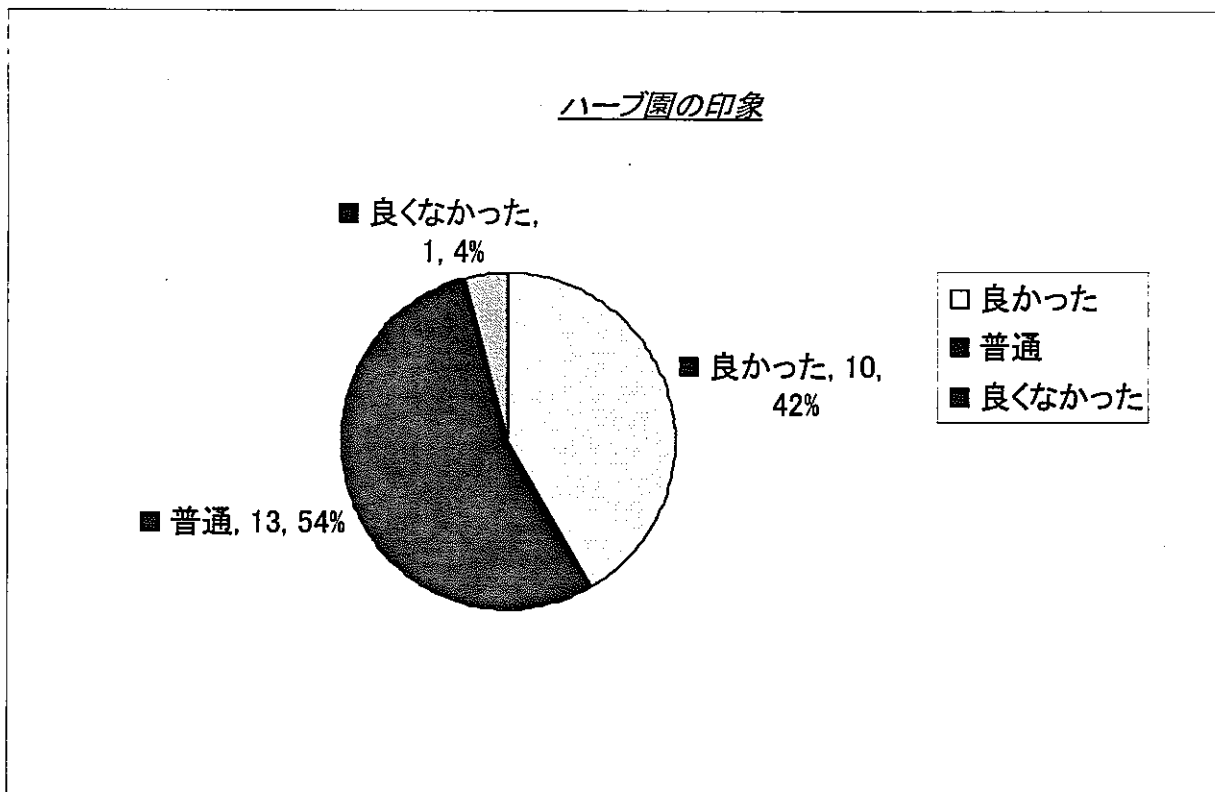


【良くなかった理由】

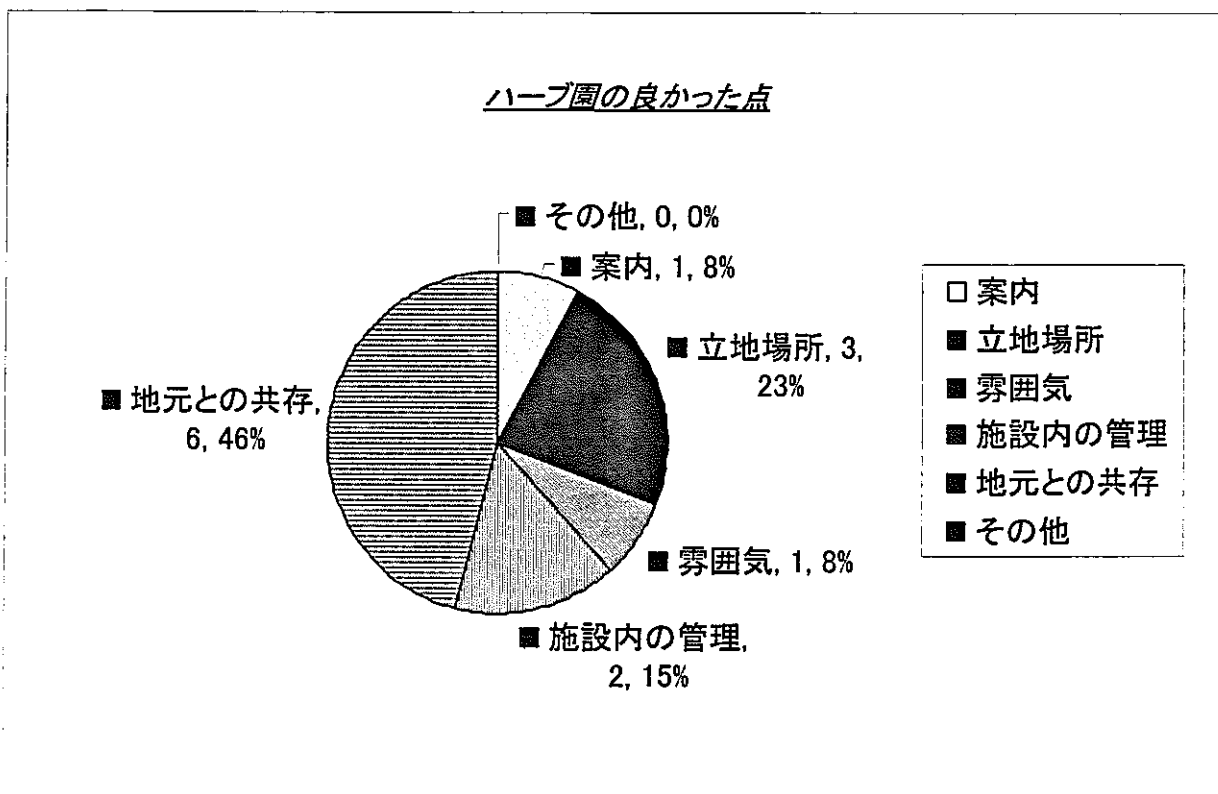
- 施設の説明が無く、良くなかった。
- 施設が閑散としていた。

※栽培漁業施設は、第2期のみ見学した。

〔設問 2-4-1〕 ハーブ園の印象はどうでしたか。



〔設問 2-4-2〕 ハーブ園の良かった点はどこでしょうか。



【良かった理由】

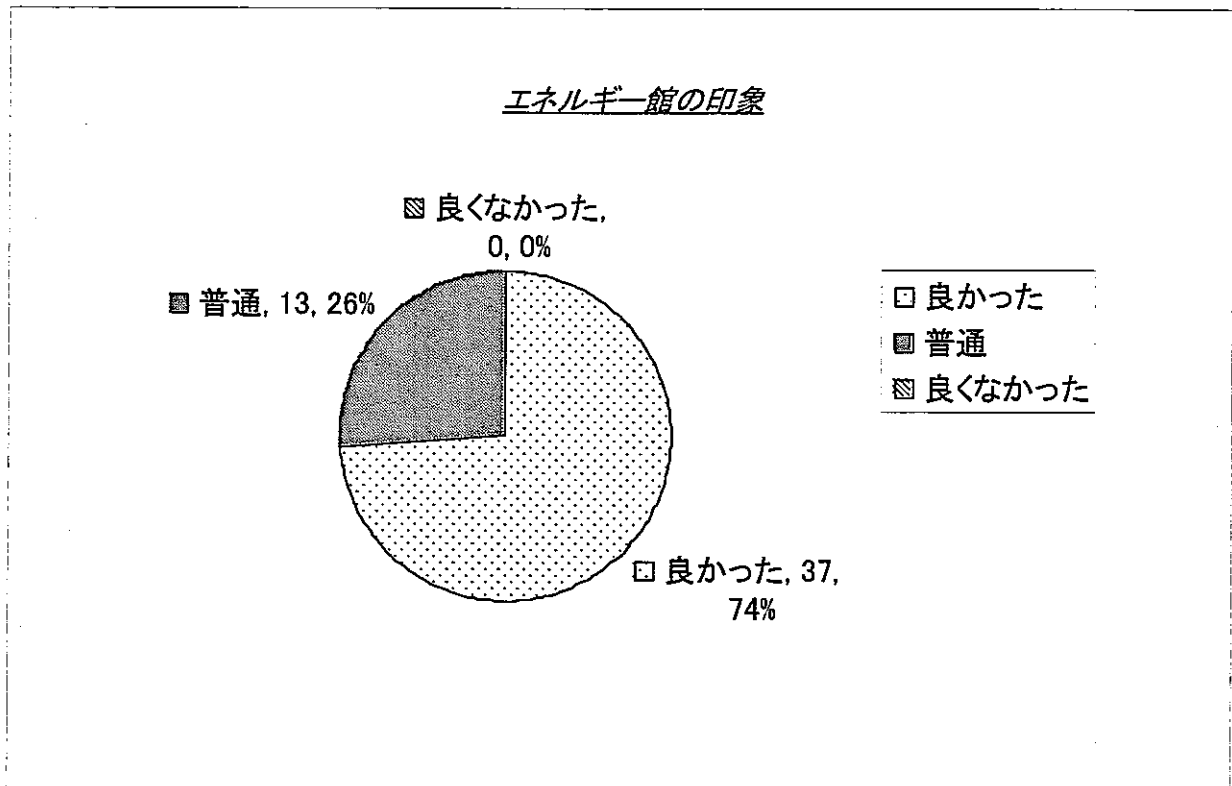
- ケナフを植えてもらった生徒に卒業証書として返すシステムはとても良いと思った。
- 高台にあり、ラベンダーの時期は素晴らしい景色だと思う。
- 発電所の中にハーブ園があるのは、なかなか良いと思った。
- 地元の小学校とタイアップした自然観察会など、良いと思った。

【その他】

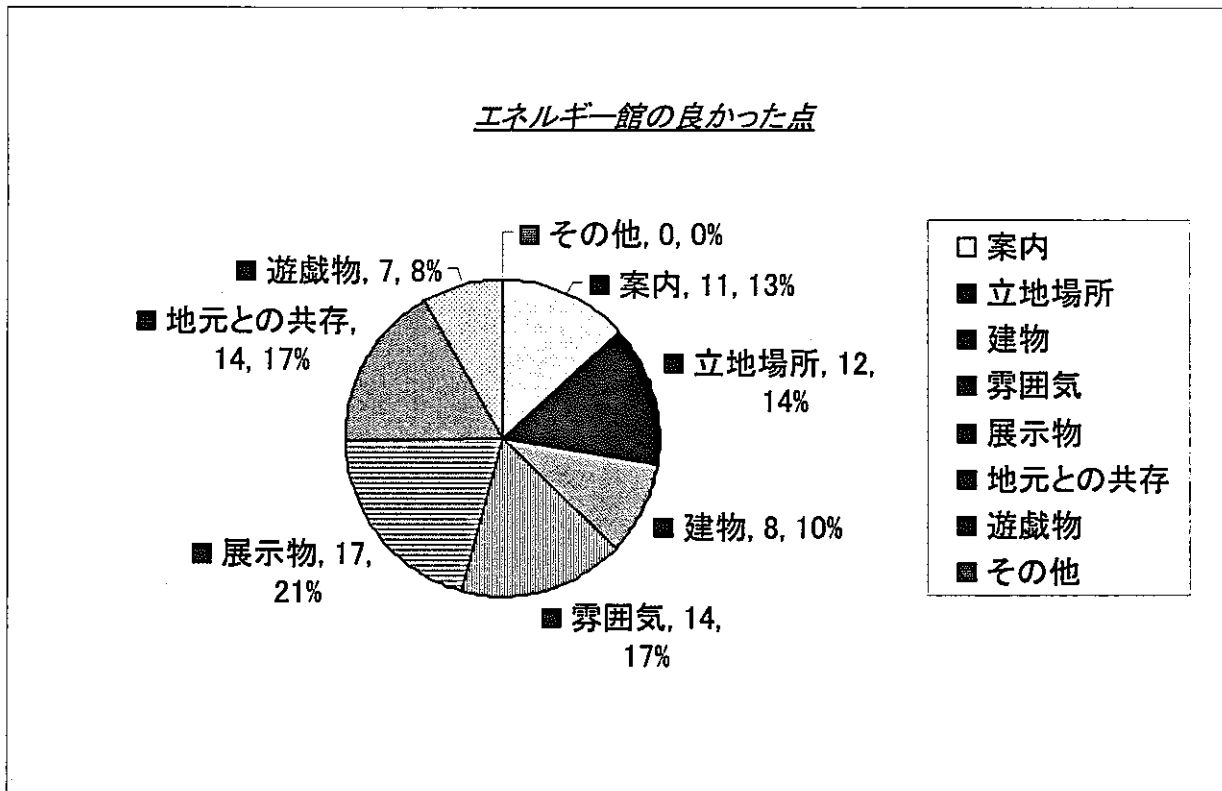
- ハーブ、ケナフに限らず、共生できるものを増やしていくと良いと思う。
- ハーブの時期が過ぎており、また天候も悪くよく見られなかった。
- バスの中から見ただけなので、よくわからなかった。

※ハーブ園は第3期のみ見学した。

〔設問 2-5-1〕 エネルギー館の印象はどうでしたか。



〔設問 2-5-2〕 エネルギー館の良かった点はどこでしょうか。



【良かった理由】

- 原子炉の模型などがあり、わかりやすかった。
- 地域住民が見学しやすい場所なので、良いと思った。
- 洋館風の外観も良かった。
- 展示物などが充実していて良かった。
- 買い物帰りにふらりと寄ることができる場所にあるので、原子力について身近に学んでもらえると思った。
- 見学者に対し、わかりやすく展示されていて良かった。
- 館のコンセプトが良かった。
- 町の中にあり、展示物も工夫してあり良かった。

〔設問 3〕 施設見学の感想等、ご自由にお書きください。

《地域との共存に関する意見》

- 安全最優先で住民との信頼関係を確保して欲しい。
- どんなに地域貢献をしても、事故を起こしてしまうと信頼関係は一挙に崩れ

てしまうので、無事故を心がけて欲しい。

《安全に関する意見》

- 今後も安全な運転をお願いしたい。
- 運転員の安全に対する意識向上もお願いしたい。
- 原子炉格納容器、制御棒などに使用されている部品の材質等は、安全上問題がないのか、もう一度確認して対処してほしい。
- 浜岡原子力発電所の配管破断事故では、定期検査を実施していたにもかかわらず、老朽化を見つけることができなかと報道されている。もっと充実した検査を実施して欲しい。
- 過去の事故を教訓に仕事に取り組んで欲しい。

《原子力エネルギーに関する意見》

- 原子力関係の施設をいくつか見てきて、安全管理がきちんに行われていることはわかったが、原子力施設に関するニュースを見ると、現状のエネルギー対策でいいものか考えてしまう。
- 原子力発電所の事故は怖いと思う反面、日本にとって無くてはならないエネルギー源であることを実感した。

《原子力発電の理解に関する意見》

- 原子力発電所の構造、安全性、燃料サイクル等について理解を深めることができた。
- 原子力発電所における放射線管理がきちんに行われていることがわかった。
- 一度で理解するのはなかなか難しいので時間をかけて見学したい。
- 時間が足りなかった。
- 申し込めば誰でも見学することができるとのことなので、より多くの人が原子力を理解することが出来るように、施設見学等を行うべきだと思った。そういったことが、原子力への不安の軽減、関心の喚起につながると思った。

《その他》

- 原子力発電所を直に見て、規模の大きさに驚いた。
- 個人ではなかなか見学の機会が取れないので、良い機会だった。
- 排気用のモータの音が大きく、説明者が大変そうだった。
- 海水を取り入れて冷却するのは良いと思った。

(付録 3)

【モニターからの意見】

モニターからの意見を各項目に分類して以下に示す。

1. サイクル機構が改善すべき点

1.1 業務運営について

《教育に関する意見》

- 構造改革に反対する労組新聞を眼にしたが、体質改善の意識付けを職員に徹底するべきである。(岩間町、60代、男性)
- 使用する人たちをよく教育し、ミスを出さないようなシステム作りをして欲しい。(金砂郷町、60代、男性)

《安全に関する意見》

- 技術的ではなく、人為的な問題で事故が起きている点(不注意、規則通りに行わなかった)。(日立市、60代、男性)
- 安全については、今後とも初心に戻って安全実行して、常に報告、連絡、相談をして全員が団結して欲しい。(瓜連町、60代、男性)
- 安全を全ての優先に！(那珂町、60代、男性)
- 安全性の徹底。(内原町、60代、男性)
- 仕事の慣れで、扱っている物の危険性が薄れないようにすること。(茨城町、50代、女性)
- 慣れがあってはいけないと思う。(不明)
- 今以上に仕事に関わる人々が自覚と責任をもってこれからの未来へ向けて仕事をしていって欲しい。一番に安全ということを考えて欲しい。(常北町、40代、女性)
- とにかく「事故は無し」にしてほしい。(鉾田町、30代、女性)
- 思い込みをなくす。(常陸太田市、40代、女性)
- 放射線安全と原子力防災が一番の関心ごとであり、住民が安心して生活できるよう改善すべき点があれば、より良い方向に努力して頂きたい(今のところはないと思うが)。(桂村、60代、主婦)
- 平和産業として、世界に発展を認められるサイクルを望む。(東海村、70代、女性)

《その他意見》

- 研究者たちがすすんで次の段階へいけるような体制にして欲しい。遅々として進捗しないような印象を受ける。(大洗町、60代、男性)
- 研究と製品(ビジネス)の区分が分かりづらい。(十王町、50代、男性)
- 福島第一原子力発電所については、多くのモニターが好印象を持った。サイクル機構とは、官と民の差があるように思う。(東海村、60代、男性)
- 施設も人的な資質も充実していると思うが、国の経済低迷を考えると今後の運営には更に経済性を重視すべきである。(岩間町、60代、男性)
- 大洗・東海とも同じような原子力の施設があるが、お互いの知識の交流等を行ったほうが良い。(常陸太田市、年齢不明、女性)

1.2 広報について

《サイクル機構からの説明に関する意見》

- 専門用語をもっと分かりやすくして欲しい。(鉾田町、30代、女性)
- 説明は専門用語ではなく、理解しやすく説明して欲しい。(瓜連町、60代、男性)
- 内容を一般の人でも分かるように説明すること。(日立市、60代、男性)
- 一般住民(素人)に専門的な説明は分かりにくい。身近な内容、写真等を多く使用し、分かりやすい説明をして欲しい。(那珂町、60代、男性)
- 誰にでも分かる広報誌の作成を望む。(美野里町、60代、女性)
- サイクル機構のPRは難しく感じる。(東海村、70代、女性)

《広報の方法に関する意見》

- 県を通してだけでなく、関係市町村への直接的PRや、情報提供手段を考えるべきである。(内原町、60代、男性)
- HP、E-mailなど、パソコンを通じて原子力について勉強できると良い。(大洗町、60代、男性)
- もっと広い範囲で広報に力を入れ、より一般に理解をしてもらう。これによって、より原子力の必要性、安全性を知ってもらえればと思う。(美野里町、60代、女性)
- ビデオ等を配布してはどうか。(友部町、40代、男性)
- 各市町村役場を通しての地域住民へのPR及び有志等による実地見学(石油、石炭等と原子力エネルギーの比較)。(内原町、60代、男性)
- 原研・サイクル機構周辺の方々への原子力関係説明会があればよい。(大洗町、60代、男性)
- 学校、地域用の貸し出しビデオ、スライド等あれば身近に原子力に興味を持てると思う。(美野里町、60代、女性)

- 広報誌の録音版、点字版があってもよい。(笠間市、40代、女性)
- 広報誌を読むだけではなかなか理解することは難しく、もっと学校や市町村などでより多くの人々に理解を求めるための講演会等々を実施すると良い。(常北町、40代、女性；茨城町、50代、女性)
- 既存の分かりやすい解説書の利用促進を図ったほうが良い。(常陸太田市、40代、女性)
- 1回だけではなく、何回か遊び(アトムワールド、わくわく科学館等)も含めた説明会(勉強会)が出来ると良い。(常陸太田市、40代、女性)
- もう少し幅広く地域の人々にPRした方が良い。(桂村、60代、女性)

《教育等に関する意見》

- 一般の人(特に、小、中学生等の学生)が簡単に見学できるようにして欲しい。(笠間市、40代、男性；鉾田町、30代、女性)
- 地域住民と積極的に交流を図って欲しい。小中学生に見学の機会を与える、授業に説明に出向く等して、原子力エネルギーをよく知って頂く努力をして欲しい。(那珂町、60代、男性)
- 市町村に呼びかけて学校行事の中にサイクル機構の見学を入れてもらう。これからの子供たちには原子力に対する理解も必要。(内原町、60代、男性)
- 周辺地域への理解を深めるためにもっと気軽に意見を言う場や、勉強できる方法があれば良い(それにはもっと一般住民も関心を持つことが必要)。(常陸太田市、40代、女性)
- 一般の人が原子力とエネルギーに対する認識がなく、原子力は危険であると思いがちなので、小・中・高等の授業にもっと出て行って、PRした方が良い。(金砂郷町、60代、男性)
- 子供への(小・中・高等)原子力教材を多くすること。特に茨城の場合、早くからエネルギー教育を行うこと。(那珂町、60代、男性)
- 小・中・高等学校等社会見学などで時間をとり訪問すると良い。(茨城町、50代、女性)
- 一般的にはサイクル機構について興味、関心が持ちにくい。小学校の校外学習等へのPRや、地元のみでなく、遠隔地へのPRも必要。(笠間市、40代、女性)

《広報内容に関する意見》

- 事故等があった時だけ「サイクル機構」の名前を聞くが、各市町村での場合は祭事があったときに参加する等、普段から「このような研究をしてい

- る事業所です」といったPRも必要。(内原町、40代、女性)
- サイクル機構の名称をもっと広く知ってもらわなければならない。(銚田町、30代、女性)
 - モニターだけでなく、一般の人にもサイクル機構が行っていることの大切さをもっと理解できる説明が欲しい。(水戸市、60代、男性)
 - サイクル機構がどういうところかもっとわかりやすくPRした方がよい。(美野里町、60代、女性)
 - サイクル機構が地味。もっと前面に出したPRが必要。(十王町、50代、男性)
 - パンフレットはその場だけで、後で見る機会が無い。ビデオ等で見たほうが分かりやすく、後々まで印象に残る。(常北町、40代、女性)
 - 地域住民を巻き込み(いつも同じ人だけでなく、色んな団体、地域、年齢層の人)、話し合う場を設け、ざっくばらんに話し合えるようにするとより理解度が高まる。(東海村、60代、女性)
 - 原子力、放射線、放射能に関するより分かりやすい(比較法的)PRが欲しい。特に人体等(生物)との関係(NHKがよくまとめて放送しているが、更に必要)。(大洗、60代、男性)
 - 一般の人でも気軽に見学できることを宣伝するとよい。(茨城町、50代、女性)
 - 研究内容が難しいので理解しやすい広報を行うべきであるが、要は将来のエネルギー確保の点で、一般国民に如何に必要で身近な研究であるかを分からせ、決して住民生活とかけ離れた分野ではないことを強調すべきである。(岩間町、60代、男性)
 - エネルギーの重要性、仕事内容をもっとPRすること。(友部町、40代、男性)
 - エネルギーとしての原子力の有効性をコスト、資源、環境面から説明すること。また、原子力は危険であるが、取り扱いによっては安全が確保できることを説明すること。(日立市、60代、男性)
 - 一般の人への安全性のPRをすること。(日立市、60代、男性)

《地域交流に関する意見》

- サイクル機構に対する住民への興味がどのくらいあり、どれだけ努力をしているか(多少はイベント等で行っているのは理解している)。JCOの問題から遠くなってきたので、イベント等なおのこと分かりやすく行っていくべきである。(水府村、40代、男性)
- オープンであり、なおかつ地域に密着した施設であってほしい。(友部、

40代、男性)

○もっと色々な地域での交流活動を望む。(鉾田町、30代、女性)

《情報公開に関する意見》

○透明性を更に持たせること。(日立市、60代、男性)

○実際火事等の事故が起きたときの地域へのいち早い連絡。近隣の住民への不安を取り除く努力。(鉾田町、30代、女性)

《その他意見》

○サイクル機構を沢山の人たちに知って欲しい。(美野里町、50代、女性)

○今後とも地域等の皆さまによく理解していただくこと。(瓜連町、60代、男性)

○地位住民の理解を得ること。(那珂町、60代、男性)

○広大な敷地の一部を公園化等にし、一般の人の理解と安全性を強調する(安全性のPR)。(日立市、60代、男性)

○施設が雑然としていて、どこに何の施設があるのかわかりにくい。(内原町、60代、男性)

○サイクル機構は研究施設であって、原子力発電所ではないことが一般住民には分からない。(不明)

○高レベル廃棄物の処理についてはまだ不安が残る。(茨城町、50代、女性)

○パンフレットは上質の紙を使用する必要は無い。(友部町、40代、男性)

○出来るだけ多くの方に施設を見に来て頂けるように努力すること。(瓜連町、60代、男性)

○もっと施設の良さを活用した方が良い。(大洗町、50代、女性)

2. サイクル機構の良い点

《サイクル機構職員の印象等に関する意見》

○社内、社外へ改善しようと努力している点。(内原町、40代、女性)

○きさくに話しかけてくれたこと。(鉾田町、30代、女性)

○「もんじゅ」や「東海アスファルト固化施設」の事故で失った信用を回復するために辛抱強い努力を続けていること。その努力は少しずつ実ってくると思う。(水戸市、60代、男性)

○特に女性の方の親切な行動に頭が下がった。(美野里町、60代、女性)

○係の方皆とても親切で友好的。(美野里町、50代、女性；ひたちなか市、40代、女性；瓜連町、60代、男性)

○再開にむけての意気込みも感じられた。(ひたちなか市、40代、女性)

- 「動燃時代」より職員の方々の表情が良い。特に女性職員の男に劣らぬ仕事振り、行動力に好感。(日立市、60代、男性)
- 女性、子供でも分かるように説明していただいた。遠い存在と思っていた職員と気軽に話が出来た。(水府村、40代、男性)
- いつも笑顔で接する職員に気持ちが和む。分からないところはすぐ聞いて、何でも話せてよかった。(東海村、60代、女性)
- 高度な技術研究に従事しているのに、職員の好感度が良い。(岩間町、60代、男性)
- 職員が仕事の内容の重みを感じている姿勢がうかがえる。(友部町、40代、男性)
- 職員のまじめな仕事への取組みが感じられる。(日立市、60代、男性)
- すばらしい環境のもとで皆努力している。(大洗町、50代、女性)
- 「常陽」メンテナンス建屋が火事になった時、対応が早かった。(銚田町、30代、女性)
- これまでに生活必需品について細かに放射線測定をしていただいた点。(東海村、70代、女性)
- 建物、そこで働く人たちに清潔感があって良かった。今後モニターを継続する中で、人に与える印象は大事。窓口になる人々は身だしなみ等がとても大切である。(常北町、40代、女性)
- 日本の原子力の様々な分野に対しての研究がなされていることに対して敬意を表したい。(笠間市、40代、女性)

《サイクル機構モニターいばらきに関する意見》

- 施設見学で、ナトリウムの反応を実際に見ることが出来てよかった。(旭村、60代、男性)
- モニター会合での説明が理解しやすく、知識を深めることができた。(内原町、60代、男性)
- モニター制度を開設し、地域住民との交流を図る等の試みは大変良い。(金砂郷町、60代、男性)
- モニターに対しての対応が良かった。(友部町、40代、男性)
- モニターとして活動して、知らないもの同士で交流できて良かった。(十王町、60代、男性)
- モニター制度は継続して欲しい。(瓜連町、60代、男性；那珂町、60代、男性；大洗町、60代、男性)
- モニター制度はとてもよく、モニターに対してはとても丁寧な説明がされている。(常北町、40代、女性)

《サイクル機構の施設設備等環境に関する意見》

- IT 技術を駆使している点。(大洗町、60 代、男性)
- 構内の整備や施設の管理は整っていて見学者として感じが良い。(大洗町、60 代、男性)
- 開放的になってきた。(笠間市、40 代、男性)
- 設備が充実している点。(日立市、60 代、男性)
- 十分開かれたサイクル機構であり、設備安全面でも良くやっていると思う。(金砂郷町、60 代、男性)
- 日本は少資源国であり、使用済み核燃料を再処理したり核廃棄物の処理等は大変良い研究である。(金砂郷町、60 代、男性)
- 知的環境が良い。(東海村、70 代、男性)
- 時代の先端技術が多い点。(内原町、60 代、男性)
- リスクコミュニケーション研究班での取組みは良い。(美野里町、60 代、女性)
- 設備が充実しており、優秀な人材がそろっていると思う。(常北町、40 代、女性)
- サイクル機構は大変明るく、学術的なことでも開放的に感じた。(大洗町、50 代、女性)
- 最新の設備等がすばらしく、多くの女性が活躍しているのも予想外であった。(大洗町、50 代、女性)
- 東海、大洗各事業所とも研究技術開発がより進められている点。(桂村、60 代、女性)

《広報に関する意見》

- 女性や関係者の説明が分かりやすかった(茨城町、年齢不明、女性;岩間町、60 代、男性)
- 全体的に説明が分かりやすかった。(笠間市、40 代、男性)
- 施設見学案内が丁寧で分かりやすい。(鉾田町、30 代、女性)
- 説明資料は適切。(瓜連町、60 代、男性)
- 広報(広報誌、見学)に力を入れていることが伺われる。しかし読者、見学者からの反応、フィードバックがどうなっているか知りたい。(那珂町、60 代、男性)
- 一般住民の理解を深めようとしている点。(常陸太田市、40 代、女性)
- 他との比較はできないが、施設は明るく、説明も分かりやすかった。(常陸太田市、40 代、女性)

- 施設の説明等、分かりやすかった。(東海村、60代、男性)
- 重要施設を公開し、案内説明をしていただいたこと。(岩間町、60代、男性)
- 住民への知識の拡充を図る点は良い。(那珂町、60代、男性)
- 原子力の理解を得ようとする姿勢。(銚田町、30代、女性)
- 女性たちが地域との交流活動を頑張っている点。(銚田町、30代、女性)
- 地域等外部に向かって知らせる努力をしている点(アトムワールド、地域交流課)。(ひたちなか市、50代、女性)
- 分かりやすい説明が出来ている点。色々な人や会社、海外等沢山のかわりを持ち、協力し、知ってもらおうと努力している点。(常陸太田市、40代、女性)
- 知識がゼロの人へ専門的なことを理解してもらうのは大変と思うが、努力が見える。(茨城町、50代、女性)

《その他意見》

- 地域になじんできた。今後も努力して欲しい。(東海村、60代、男性)
- 世界環境、エネルギーについて、今後も話をして欲しい。(瓜連町、60代、男性)
- これからの電力に必要な開発なのでこれからも頑張ってもらいたい。(茨城町、50代、女性)
- エネルギーの必要性を十分に感じているので、研究はもっと進めて欲しい。(茨城町、50代、女性)

(付録 4)

【JCO 事故に関するアンケート結果】

平成 11 年 9 月 30 日に発生した、株式会社ジェー・シー・オーの東海事業所内ウラン加工施設で発生した臨界事故に関して、事故発生後すぐに郵送によるアンケートを実施した。アンケート回答者数は、モニター32 名中 30 名であった。以下に各設問に対して寄せられた意見を記す。

〔設問 1〕 事故が起こったことを何で知りましたか。(重複回答有り)

- ①テレビ : 17 名
- ②ラジオ : 6 名
- ③市町村広報 : 3 名
- ④新聞 : 2 名
- ⑤電話 : 1 名
- ⑥その他 : 4 名

〔設問 2〕 臨界事故と聞いてどのような事故と考えましたか。

《事故の種類に関する意見》

- 小さな核爆発だと思った。(笠間市、40 代、男性)
- 爆発事故。(鉾田町、30 代、女性)
- また前回のような事故かと思った。(小川町、60 代、男性)
- 施設外部に放射能が漏れる事故なのか。(旭村、20 代、男性)
- 県外にいて、直ちに帰らなければと思い、爆発事故と放射能漏れを考えた。
(東海村、60 代、男性)
- 放射線の事故で、大変な事故だと考えた。(常陸太田市、50 代、女性)
- チェルノブイリの事故を思い浮かべた。サイクル機構でおきたのでは、と思った。(水府村、40 代、女性)
- 放射能に関する大変なことが起きてしまったと考えた。(十王町、40 代、女性)
- 大変な被ばくに関する事故が起きてしまった。屋内退避した。(瓜連町、60 代、男性)

《事故の規模に関する意見》

- ソ連のチェルノブイリ事故を連想した。大変なことになると思った。(岩間町、60 代、男性)

- 翌朝、学校休校の連絡があり、事故の重大さを感じた。(大洗町、60代、男性)
- 重大な事故。(大洗町、60代、男性)
- 一番大きな事故が起きてしまった。いくら十分安全な設備でも使うものが基本的なルールを無視するとどうしようもない。(日立市、60代、男性)

《『臨界事故』の意味に関する意見》

- すぐにはわからなかった。(茨城町、40代、女性)
- 放射能漏れの事故とは思ったが、「臨界」の意味が理解できなかった。原子力関係の主たる事故としてはチェルノブイリが浮かぶが、「爆発事故」とは考えなかった。(水戸市、60代、男性)
- 核分裂という言葉が頭に浮かんだが、「どの部分で爆発が起きたか」という感じで、よくわからなかった。(茨城町、40代、女性)
- 理解できなかった。(友部町、30代、男性)
- 臨界事故と聞いても理解できなかった。(大洗町、60代、男性)
- 臨界事故とは何かわからなかった。(那珂町、60代、男性)
- 言葉そのものが理解できなく、どのような事故なのかわからなかった。(常北町、40代、男性)
- どういう事故であるか、予想がつかなかった。(大宮町、40代、男性)

《事故発生場所に関する意見》

- 場所的に何も知らなかったのでびっくりした。(東海村、60代、男性)
- 場所的に、自分の住んでいるところから遠いというイメージがあった。また、爆発事故ではなく、外に漏れているとは思っても見なかった。(常陸太田市、30代、女性)
- 工場があったことを知らなかった。大変なことになって驚いた。(ひたちなか市、50代、女性)

《事故の重大性に関する意見》

- 世界的にも絶対に起こってはならない事故だと思った。(美野里町、60代、女性)
- 危険。(旭村、60代、男性)
- そんなばかな、という思いと、ウラン金属の火災の間違ひではないかと考えた。(ひたちなか市、60代、男性)
- 大変な事故が起きてしまった。(日立市、60代、男性)
- 大変なことになってしまった。桂村は大丈夫かと考えた。(桂村、50代、女)

性)

〔設問3〕事故発生を知って、初めに考えたことはどのようなことですか。

《安全に関する意見》

- 地域の安全は？これからの住民の安全策は？何故事故が発生したのか？ということを考えた。(水戸市、60代、男性)
- 危険性はどの範囲までかということを考えた。(旭村、60代、男性)
- 自分のいる場所は、大丈夫か？と思った。(笠間市、40代、男性)
- 自分たちの住んでいる所は安心なのかどうか、と考えた。(鉾田町、30代、女性)
- 勝田に住んでいる娘と、自衛隊に勤務している知人のことを心配した。(茨城町、40代、女性)
- 工場内はもちろん、地域の人たちの健康を心配した。(美野里町、60代、女性)

《放射線の影響に関する意見》

- 放射能の影響はどうか不安だった。(東海村、60代、男性)
- 放射線は眼に見えないだけに恐ろしく感じた。(常陸太田市、50代、女性)
- 臨界事故を知ったとき、放射能の強さはどのくらいなのか、また、汚染はどの程度かと心配した。(瓜連町、60代、男性)
- 交通が遮断されると聞いて、大変な事故と思い、人体に対する影響はどうかと考えた。(大洗町、60代、男性)
- 旭村の環境に影響があるのかどうか、と考えた。(旭村、20代、男性)
- 影響範囲内に、友部町が含まれるのか、どのような影響があるのか、と考えた。(友部町、30代、男性)
- 風向きはどうか？、これからどうなるのか？、誰にどうすればよいかを聞けばよいか？と考えた。(ひたちなか市、50代、女性)

《とるべき行動に関する意見》

- どのような行動をとったら良いかと考えた。(大洗町、60代、男性)
- 近隣住民の対応。(桂村、50代、女性)
- 住民への健康被害等についての連絡・通報や避難方法について考えた。(大宮町、40代、男性)

《事故発生場所に関する意見》

- まず、事故が発生した場所はどこかと考えた。(茨城町、40代、女性)

- 核燃料サイクル開発機構の事故ではないだろうか、と思った。(那珂町、60代、男性)
- 場所がどこなのかわからず、とりあえず、死の町と化したチェルノブイリが思い浮かんだ。(水府村、40代、女性)
- 他人事と考えていた。(大洗町、60代、男性)
- 事故が起きた場所はどのあたりか、事故の規模はどれくらいか、と考えた。(常陸太田市、30代、女性)

《事故の内容に関する意見》

- 起こることが無い臨界事故が何故起きたかを、初めは理解することが出来なかった。(日立市、60代、男性)
- ラジオでは放射能漏れ、というだけで詳しくは何もわからなかったのも、そのまま仕事をしていた。(常北町、40代、男性)

《事故の規模に関する意見》

- 臨界事故の規模はどのくらいか、と考えたことと、ウランを扱っている工場がそんな場所にあったとは、という驚きがあった。(日立市、60代、男性)
- 大変なことになると直感した。(岩間町、60代、男性)

《その他の意見》

- あまりにも管理面がずさんで、怒りを感じた。(小川町、60代、男性)
- 東海村がパニックになって大変だと思った。サイクル機構の再処理工場は、東海村の原子力施設に対して、今後どう取組んでいくのか、新たな対応が必要になった。(東海村、60代、男性)
- JCO 社長のテレビ発表で臨界の可能性についての報告があったが、そんなばかな、ウラン燃焼の間違いでは、と思った。(ひたちなか市、60代、男性)
- モニターになっており、那珂町役場に出向いたが、役場職員は対応が大変のようであった。サイクル機構職員が那珂町役場で説明していたので、大変良かった。(那珂町、60代、男性)
- サイクル機構が少しずつではあるが、地域の人々に認めてきてもらったのに、原発の恐ろしさが表面化したこと。(十王町、40代、女性)

〔設問4〕 事故発生を知って、どんな行動を一番にとりましたか。

《テレビに関する意見》

- 行動としては別にとらなかったが、テレビの情報に釘付けになった。(岩間町、60代、男性)

- テレビで様子を見ていた。(大洗町、60代、男性)
- テレビを見て、近くに出かけた人に知らせた。(茨城町、40代、女性)
- テレビ等で事故状況の把握をした。(旭村、20代、男性)
- 室内でテレビによる情報に聞き入っていた。広報がまわったのは、夜11時であった。(常陸太田市、50代、女性)
- 地元民は今さらじたばたしても、と思い、とりあえず帰って、NHKのテレビのスイッチを入れた。(水府村、40代、女性)
- 9月30日午前中庭仕事をしていて、昼食時にTVで事故を知り、着ていたものを全部洗濯し、手・顔を洗い、干していた布団を入れ、しっかり窓を閉め、テレビをじっくり見た。(ひたちなか市、50代、女性)

《特別な行動に関する意見》

- 平常心で仕事をしていた。(大洗町、60代、男性)
- 具体的な対応策を知らされず、事故の実態を認識できたのが20時頃であったため、特に何も行動はとらなかった。(水戸市、60代、男性)
- 遠いこともあって、特別なことはしなかった。(美野里町、60代、女性)
- 施設場所より距離が遠かったので特別なことは何もしなかった。(旭村、60代、男性)
- 特に特別な行動はとらなかった。10キロ圏内なので、30日午後11時頃町の広報車で、屋内退避を知った。(那珂町、60代、男性)

《問合せに関する意見》

- 茨城県へ問合せをした。(友部町、30代、男性)
- 会社より帰宅後、事の重大さを悟り、日立市防災課、消防署へ問い合わせたが何もわからなかった。結局テレビで情報を得るしかなかった。(日立市、60代、男性)

《情報収集に関する意見》

- 人から色々な情報を収集した。(鉾田町、30代、女性)
- 地図を出してJCOの場所を確認した。(茨城町、40代、女性)
- 民間の工場だとは思わなかったので、サイクル機構からもらった資料で事故が起きた場所を確認したが判らなかった。自分の家の方は大丈夫だと思い、普段どおりの生活をしていた。(常陸太田市、30代、女性)
- JCOという会社がどこにあるのか聞いた。どうして国道6号が閉鎖されているのかわからなかった。(十王町、40代、女性)
- 事故状況の内容の入手。(大宮町、40代、男性)

《屋内退避に関する意見》

- 窓を閉めて、家の中にいた。そして、テレビ、無線放送からの情報を待った。(東海村、60代、男性)
- とりあえず、屋内退避した。(瓜連町、60代、男性)
- 那珂町の放送を良く聞いた。テレビの放送を良く見た。家の中にいた。(那珂町、60代、男性)

《その他の意見》

- 親戚、知人等への電話連絡。(大洗町、60代、男性)
- できるだけ近づかないようにした。(笠間市、40代、男性)
- 第一に事故(臨界)は日本で初めての事で、これから先、もうだめだ、と思った。(小川町、60代、男性)
- 福山市に来ていたので、東海村へ帰ることを考え、10月1日、朝2番の新幹線で帰路についた。(東海村、60代、男性)
- 丁度事故時に東海南道路を走行中で、帰宅後、日立の娘に電話して家族全員に海藻(ワカメ等)を食べるように指示し、昆布茶を夫婦で飲んだ。(ひたちなか市、60代、男性)
- 日立市から、山形県米沢市に行っていたため、私たちの地域の担当者に現状報告を受け、それに従い、地域の防災担当者として、各種の指示を出した。自宅は一番後になった。(日立市、60代、男性)
- 臨界事故だと夕方のテレビで知った。その時は4、5日は止まらないであろうから、店には客が来なくなるだろうと思い、店の改造と掃除を始めた。(常北町、40代、男性)

〔設問5〕事故時に不足していた情報は何ですか。

《とるべき行動に関する意見》

- 第1報が遅い。情報が混乱している。特に住民に対する行動の情報が不足。(岩間町、60代、男性)
- 住民の取るべき対応策。生命にかかわる事故とすれば、その最小限の取るべき策が必要。常日頃からそれについては訓練されていなかったようだ。(水戸市、60代、男性)
- 近くに住む人々が何をしたら、どう行動したら良いかということ。住民に対しての知らせが遅すぎる。(茨城町、40代、女性)
- 現状の情報とこれからの地域住民がとるべき行動の情報(何をすべきか)。情報連絡網を確立する必要がある。(日立市、60代、男性)

- 会社内では何の情報もない。自宅に帰ってテレビを見て知った。どうすればよいか、どう行動すればよいか、何もわからなかった。(日立市、60代、男性)

《情報の意味に関する意見》

- 全体的に、情報がわからない。(大洗町、60代、男性)
- そもそも臨界の意味がわからなかった。そして、現状の様子の記事がなかった。(東海村、60代、男性)
- 「臨界」という言葉の意味と、状態。(十王町、40代、女性)
- 臨界事故といっても、一般の人々には理解できず、もっとわかり良い用語で知らせることはできないのか。(大洗町、60代、男性)

《情報の遅れに関する意見》

- 近隣住民への避難通報があまりにも遅かった。(茨城町、40代、女性)
- 事故後の自治体への連絡。(大洗町、60代、男性)
- 村の通報。(旭村、60代、男性)
- ひたちなか市の広報塔から当日3時頃やっと、「東海で事故があったが、安全なので心配ない」と放送があった。私は家にいたが、小学生と高校生は雨に濡れながら帰宅した。とても怖いことではないかと心配になった。当日午後5時ごろ、市の広報車が「こちらはひたちなか市の広報・・・」これしか聞こえず走っていった。TVだけが情報源で、停電しなかったのが唯一の救いであった。(ひたちなか市、50代、女性)
- 東海村などは無線などで、常陸太田市に比べれば早く情報が伝わったと思うが、今回の事故現場は、那珂町、常陸太田市、日立市等にも近いにもかかわらず、情報が遅すぎた。(常陸太田市、30代、女性)
- 事故発生時の情報、対応の敏速性。(桂村、50代、女性)
- 9月30日は会社の仕事が大変忙しく、事故の知らせは帰りの(午後6時頃)車のラジオで知った。小雨の中、外に出ていた(常陸太田市)事を考えると、防災無線でもサイレンでも良いので、緊急事態をアピールするべきであった。何か変?と感じれば、問い合わせる等、何らかの行動が起こせばはず。(水府村、40代、女性)
- いち早く、自治体に一報が無かったこと。(小川町、60代、男性)
- 臨界事故の情報が大変遅れた点は、遺憾であった。またできる限り正確な臨界事故の情報が欲しかった。(瓜連町、60代、男性)

《すべての情報の不足に関する意見》

- すべてが足りない。(笠間市、40代、男性)
- 国、県でも情報がつかめていなかったのだと思うが、事故が起こったということ意外、すべての情報が不足していた。(旭村、20代、男性)
- すべて。(友部町、30代、男性)
- 自宅との電話連絡では、窓を閉めて、屋内退避しかわからなかった。爆発なのか、放射能漏れなのか、危険の大きさは、等、情報が不足していた。(東海村、60代、男性)
- 事故が起きてからの情報が遅い。全ての情報が不足していた。(那珂町、60代、男性)
- 事故の情報が全く入ってこなかった。(大宮町、40代、男性)

《その他の意見》

- 地域住民への安全対策。(美野里町、60代、女性)
- 周辺への影響。(鉾田町、30代、女性)
- テレビ報道後の臨界かどうかの情報と放射能と風向き情報等。(ひたちなか市、60代、男性)
- 国、自治体からの詳しい対応策。(常陸太田市、50代、女性)
- 東海村がさわがれ、那珂町には情報が流れなかったようである。このような時には行政区域を取り払う必要がある。(那珂町、60代、男性)
- JCOが何をやる会社か。何故、臨界までウランを濃縮したのか。(常北町、40代、男性)

【設問6】 事故に関連して、現在一番知りたいことは何ですか。

《放射線の影響に関する意見》

- 事故が何故起きたか。事故による人体や農作物等への今後の影響。(岩間町、60代、男性)
- 現場周辺の人たちは、先々病気などには心配はいらぬのか。(鉾田町、30代、女性)
- 臨界の被害にあった人たちの情報を常に流して欲しい。(小川町、60代、男性)
- テレビや新聞で毎日出ているが、最初の情報と違って次々と数値が変わるので、確かな数値と安全性が知りたい。(茨城町、40代、女性)
- 健康への影響。特に体に入った後の状況。(常陸太田市、50代、女性)
- 町の人々の健康は安全なのか。JCOはもちろん、国の方でももっと考えて欲しい。(那珂町、60代、男性)
- 放射能、放射線による被ばくの範囲と程度、その他(JCO以外)にこのよ

- うな工場はないのか、知りたい。(日立市、60代、男性)
- 事故で被ばくした人たちが今後どこまで回復できるのか。(十王町、40代、女性)
- 住民への健康被害について知りたい。(大宮町、40代、男性)

《原子力関連事業の所在に関する意見》

- JCOのような施設があることを知らなかった。原子力関連事業所の所在、業務内容等を知らせるべきである。(大洗町、60代、男性)
- 県内の原子力事業所の事業内容。今回の事故が少々の状況の違いでさらに重大な事故に発展する必要があったのか、なかったのかについて知りたい。(旭村、20代、男性)
- 被ばくが増えていると報道されているが、程度はどのくらいなのか。また核燃料を扱っている工場などは、全国でどのくらいあり、場所はどこになるのか。(常陸太田市、30代、女性)
- 一歩間違えれば放射能汚染に繋がる施設はどれほどあるのか。JCOも今回初めて知った。(水府村、40代、女性)

《今後の方策に関する意見》

- これからの原子力の動きと安全。(大洗町、60代、男性)
- 今後の事故防止策と発生後の対応策はどうなっているのか。(水戸市、60代、男性)
- 安全でも方法によっては凶器になる。この凶器にならない策を講じ、守らせる策も知りたい。(水戸市、60代、男性)
- 今後の安全対策。情報連絡網の体制を整備して欲しい。(旭村、60代、男性)
- 事故時の対処とこれからの処置について知りたい。(日立市、60代、男性)

《安全性に関する意見》

- 保健所で身体サーベイをしてもらったが、そのサーベイの丸い筒の先にプラスチック(ビニール)がカバーしてあったが、それでも関係ないのか。知人曰く、「そんなチェックも血液検査もやってもわからない」。この点は今でも不安。(ひたちなか市、50代、女性)
- 茨城の農畜水産物は安全であると発表されたが、他県からは敬遠されがちである。したがって、ただ安全というだけでなく、住民に納得のいくデータを報道してもらいたい。(瓜連町、60代、男性)
- 農畜水産物の安全性の確認。(桂村、50代、女性)

《その他の意見》

- あってはならない事故だが、また事故があった場合の防災訓練等を行って欲しい。(茨城町、40代、女性)
- 続々出てくる不安な情報に対し、住民の取らなければならない態度、行動に対する指導的な報道。(美野里町、60代、女性)
- 事故に対しての認識。(笠間市、40代、男性)
- 原子力安全委員会の仕事は何なのか。事故が起きたときより、起こさないための安全委員会ではないのか。(東海村、60代、男性)
- 監査機関である政府の対応の不備。(東海村、60代、男性)
- 原子力施設の人たちが基本的なウラン、プルトニウムの臨界等を知っているのか。その重大さの認識とその対処(通報、処理)ができるのか。(ひたちなか市、60代、男性)
- ウランを加工する工場に対し、国も県も村も何の立ち入り検査も、事故の連絡訓練もしていなかったことが、不思議で信じられない。(常北町、40代、男性)

〔設問7〕モニターをしていて、何か役に立ったことはありますか。

《用語等の理解に関する意見》

- 臨界に対する説明を聞いていたので、役に立った。(岩間町、60代、男性)
- 放射線による被ばく、放射性物質による汚染との違い。(大洗町、60代、男性)
- 核分裂について少しは勉強していたので、家族にもどういふことか話すことができた。サイクルポケットブックや他のものを見せた。(茨城町、40代、女性)
- 原子力に関する知識が多少得られていた気がする。(旭村、20代、男性)
- 専門用語も理解でき、テレビ、新聞も少しは以前の私より納得できた。母にも電話で外出しないように、雨に当たらないように指示できた。(ひたちなか市、50代、女性)
- ニュースの情報を資料を見て理解できたこと。ウラン加工の仕方等、ニュースと資料とあわせて理解した。(常陸太田市、30代、女性)
- 手持ちの資料により、臨界等わかった。(日立市、60代、男性)
- ニュース等で使われている言葉や原料の名前がわかった。(十王町、40代、女性)
- 人が年間に浴びる放射線のレベルや基本的なことはモニターの中で知っていたので、ニュース等が少しでも理解できた。(水府村、40代、女性)
- 自分が色々な角度で勉強になった。(大洗町、60代、男性)

- 那珂町木崎地区での放射線測定値が 0.5 ミリシーベルトと情報が入ったので、瓜連町は木崎地区より事故現場が遠いため安全ではないかと自己判断し、他人の言動にあまり左右されなかった。(瓜連町、60代、男性)
- 爆発しなければ室外にいても大丈夫と確信して仕事ができる。(常北町、40代、男性)

《役にたったことはない、との意見》

- 別になし。(大洗町、60代、男性)
- 知識は多少なりともあったつもりだが、役に立つことはない。(茨城町、40代、女性)
- 特にないが、以前より関心が深くなった。(美野里町、60代、女性)
- 特になかったが、恐ろしさは十分わかった。(銚田町、30代、女性)
- 特になかった。(友部町、30代、男性)

《不安に感じたことに関する意見》

- 一般の人より、怖い気持ちが強いと思う。(笠間市、40代、男性)
- 前回のモニター会合で、放射能と放射線の違いについて話したばかりだったので、恐ろしさを実感した。(常陸太田市、50代、女性)
- 二重、三重の安全策があるのが常識のはずなのに、安全という言葉が、今は空虚な言葉にしか聞こえない。(東海村、60代、男性)
- 二重、三重の安全策をとっている原子力施設では事故が起こらないと思っていたが、事故は起こりうる、と考え方が変わった。(那珂町、60代、男性)
- 原子力関連事業者も一般の電気機械事業者とレベルの違いがなく、疑ってかかるべき、と思った。(ひたちなか市、60代、男性)

《その他の意見》

- 前回のモニター会合で、通信回路による情報伝達を見学したが、今回の事故は他事業所であるとはいえ、地域ぐるみのモニターがあったならば、防止できたと思う。科学技術庁は責任回避に終始し、腹が立った。(水戸市、60代、男性)
- 米国では軍が管理しているとのこと。日本では何故民間なのか。サイクル機構での、又は国の指導はどこまでだったのか。基本的に重大な事実が欠けていると思う。(那珂町、60代、男性)
- サイクル機構の皆が土のう積みや主要な場所で苦勞したことを感謝する。(日立市、60代、男性)

〔設問 8〕 原子力事業者に望むことは何ですか。

《安全に関する意見》

- 安全と原子力で働く人のモラルの問題。(大洗町、60代、男性)
- 自分たちの大切な家族が「近くに住んでいる」と思い、本当の安全を考えているのか。安心して子供を産める自然環境を作っていただきたい。(茨城町、40代、女性)
- もちろん、安全対策。利益よりも安全を考えて欲しい。もっと危機感を持って仕事に当たって欲しい。7年も前から行われていた作業とは……。事故がなければいつまで続けるつもりだったのか。もっと仕事を大切にしてもらいたい。(美野里町、60代、女性)
- 無事故。(旭村、60代、男性)
- とにかく安全を優先して欲しい。何かあったときには正確な情報を出す。被害を受けた人、物に対しては、最高の補償をしてもらいたい。(笠間市、40代、男性)
- 安全管理について、もう一度原点に戻って考え直して欲しい。(鉾田町、30代、女性)
- 安全管理面を再認識し、事業に取り組んでいただきたい。(旭村、20代、男性)
- 安全対策と危機管理。早急な連絡と公表。(友部町、30代、男性)
- 安全と情報の提供。(東海村、60代、男性)
- 安全性に対する過信、ルール無視、情報隠しの体質をなくし、作業員に対する安全な教育の徹底を行って欲しい。(常陸太田市、50代、女性)
- 安全対策。自分たちが知っている安全ではなく、原子力に携わる人、地域住民等すべての人がわかって、最悪の場合の動き方を考える。(十王町、40代、女性)
- 原子力事業への安全性への再確認。(大宮町、40代、男性)

《教育に関する意見》

- 取り扱いについて、社員全員に安全教育をして欲しい。危険なものを扱っているという意識をもって欲しい。国民全体が原子力について正しい知識が持てるよう、もっとPRして、風評等で二次災害が出ないように、努力して欲しい。社員一人一人が自分の仕事に責任をもって欲しい。(茨城町、40代、女性)
- 危険物を扱う作業員に対し、技術と知識を教育する責任が経営者に課せられていることを忘れないで欲しい。(常北町、40代、男性)
- 今回の事故は、作業の初歩的ミスによるもので、今後はさらに安全教育の徹底とチェック機能を充実して欲しい。(那珂町、60代、男性)

《原子力の危険性の認識に関する意見》

- 原子力は必要。だからといってプラス面が誇張され、マイナス面はゼロ、といった認識にしたくない。マイナスを以下に抑えるかは人間の術と再認識して欲しい。今回の事故で一番に思うことは、当事者（行政も含めて）が他人事のように考えている面が見られたこと。消防職員を初め、後処理に携わったかたがたの『決死の思い』を心に永久に刻んで欲しい。（水戸市、60代、男性）
- 民間事業者を含め、原子力に関連する全てのものがこの重大性を再認識し、基本から出直すべきである。（大洗町、60代、男性）
- 住民の信頼感に甘えて、原子力施設の当事者が「危険なものを扱っている」との認識を薄れさせてしまっているのではないか。謙虚な気持ちになって欲しい。（東海村、60代、男性）
- 事業経営も重要だろうが、原子力は危険性も伴うことを常に認識して欲しい。事故が発生してしまったら、すぐに自治体に知らせ住民の安全を考えて欲しい。JCOでこんな危険な作業をしていたとは全く知らなかったと村民も言っている。原子力は沿岸と思い、そちらの道路をわざわざ避けて国道6号を走る車も多かったと聞く。東京以西の知識人等も茨城全部が被ばくしたように感じている。40年も大事故もなく過ごせたのは幸いだったと思う。安全第一に作業をして欲しい。（ひたちなか市、50代、女性）
- 原子力関係の事故は人的ミスが原因で起きているものが多い。したがって、原子力事業者は事故の恐ろしさを知り、初心に戻って基本に忠実に作業を進めていただきたい。（瓜連町、60代、男性）
- 仕事の慣れの怖さを知って欲しい。（大洗町、60代、男性）

《信頼回復に関する意見》

- 事故原因が明らかになるにつれて、あきれて物も言えない。責任者の能力を疑う。原子力に対する国民の信頼の回復に努めること。（岩間町、60代、男性）
- いくら皆が苦勞しても、一部の人たちが問題を起こすと原子力関連産業全体が同一視されてしまう。（日立市、60代、男性）

《作業員の知識に関する意見》

- 所員一人ひとりが原子力事業という高度な業務に携わっているという誇りと同時に知識と知恵を高め、一般人からの疑問質問に答えられる教養を望む。（ひたちなか市、60代、男性）

- 専門的な知識はもちろん、基本的な危険性への恐れはどうか、自覚を持って欲しい。資格、経験、責任感すべてが幼児並で恐ろしくなった。年に何度か研修するなり、プロ意識を喚起して欲しい。あまりの常識の無さにあきれた。(水府村、40代、女性)

《その他の意見》

- 今回、半径10kmの屋内退避勧告が出たが、東海村の人たちには無線があり早く情報を得られたと思う。常陸太田にも一軒一軒とは言わないが、無線のようなものが欲しい。(常陸太田市、30代、女性)
- 二度と事故は起こさないこと。(那珂町、60代、男性)
- 情報を皆に知らせ、隠さないこと。(日立市、60代、男性)
- 適切な作業。(桂村、50代、女性)

〔設問9〕 その他、ご自由にお書きください。

《安全に関する意》

- これから先、二度と事故が無いよう、一層の安全確保に力を入れて欲しい。(小川町、60代、男性)
- わが国の原子力平和利用に向けて、村をあげて努力してきたのに、水を差す結果となってしまった。今回の事故をきっかけに原子力施設の関係者が21世紀のエネルギー政策の再認識と安全対策及び情報公開に対する更なる努力をお願いしたい。(東海村、60代、男性)
- 現在の電力の事情においては原子力が必要なことはわかる。但し、今回のような事故発生はJCOの責任ばかりでなく、監督機関のチェックが無責任であったと思う。今後は再開する場合には今回の事故を教訓として安全体制に十分気をつけてお願いしたい。(東海村、60代、男性)

《作業工程に関する意見》

- 第3回モニター会合にて発言したとおり、上層部と実際に働く人たちとの意識の落差が大きすぎる。それが今回の事故のようにただ生産のみを追及するため、マニュアルまで改ざんし作業させることは許せない。また作業者にも自分の作業の内容を理解しようとする態度が見られない。もう少し自分の作業を理解していれば事故は防げたかも。設備面でも溶液が2.4キロ以下にすべきところを何故16キロも入れることが出来る容器が使用されていたのか。設備産業は決められた時間に決められた数のペレットしかできないのに、それ以上の数ができたことに対して、誰も不思議に思わずに喜んでいたとのことで、中間チェックの機能がないのか。企業として社会に

対するモラルを疑う。(日立市、60代、男性)

- ①工場(JCO)も管理がルーズであり、ウランを扱っていること、またウランがどんな物かの認識がないのか、作業者に徹底していたのか。②JCOの仕事が発注していた発注者は、どんな管理をしていたのか。JCOと違い、知識の豊富な人がいるのにどんな管理をしていたのか。発注者の責任も大きいと思う。③私たちの会社で仕事を外注する場合、外注審査(組織、作業管理、安全管理、品質管理等)をして外注している。更に2年に1回の更新審査をしている。このように機械外注、組立外注について管理しているのに、ウランを扱っている工場に何も審査していなかったのか。発注者もルーズである。④近隣の市町村では防災を危険に考えていないのではないか。防災訓練にしても意味のないことにこだわり新しいことをしていない。予算がない、の一言で片付けている。(日立市、60代、男性)
- ①現場付近の住民の人たちは、JCOの存在を知っていたのか。②今まで手順の誤りを見つけられなかったが、国のチェックはどのくらいの割合なのか(抜き打ちチェックもあってよかったのではないか)。③近所の人も言っていたが、何故、被ばく者を国立病院まで運んだのだろうか。どうして東海村にないのだろうか。また、千葉の病院が専門病院なのに、東京の病院に移ったのか。千葉では何故治療ができないのか。(常陸太田市、30代、女性)
- 職員の一人ひとりが認識をもって、県、国全体が安心した生活が出来るよう、これからしっかりとした作業工程で、いい加減さはなくしていただきたいと思う。(桂村、50代、女性)
- どの工程におきても慎重に行動していただきたい。(旭村、60代、男性)
- 「考えられないところで臨界事故が起こった」とニュース等で何回か聞いたが、この「考えられないところ」が他にもあるのではないかという疑問が残り、少々不安である。(旭村、20代、男性)

《様々な対応に関する意見について》

- 今回の事故で会社、社員は原子力の関係の仕事を何と考えているのか。国の事故に対する対応のまずさを感じた。(岩間町、60代、男性)
- あまりにも対応が遅すぎる。はっきり言って、みんな“マヒ”している。(鉾田町、30代、女性)
- 毎度事故が起こると通報の遅れが指摘される。「ただちに」の言葉(特に法令用語で)のことを知っているのか疑問に感じる。前に貴所に手紙を書いたが、どの程度の人達まで見てくれたか。私が危惧していたことが現実起きた。馬鹿というより程度の低い無知としか言いようがない。30数年原子力に関係して、まあまあ的人生と自負していたが、いまだにこんな会社がある

とは考えてもみなかったし、電力会社を始め燃料関連会社との繋がりもあったが指摘してきた身としてははずかしくて義憤を感じる。裸の原子炉でむしろこの程度で済んだのが不思議に思う。市や県の対応も数時間の原子力教育しか受けていない素人集団に住民は期待しない。原子力関係に身を置くものは専門家としての知識を高めてもらいたい。(ひたちなか市、60代、男性)

- 大変なことをやってくれた、という思いである。核燃料再処理施設の再開が9月24日に東海村議会で「運転再開を容認する」、そして村でも認める方向でいた矢先であったので、何ともやりきれない気持ちである。この事故により、原子力政策が後退しないことを願う。またJCOでは4年前から違法な行為をしていたといわれている。このような危険物を扱っている施設に7～8年間も立ち入り検査をしていないという科学技術庁の責任は思い。(那珂町、60代、男性)

《作業員の知識に関する意見》

- 火災発生時にガソリンで消火作業をすることより下の下。(大洗町、60代、男性)
- 中性子を遮断するには砂で十分なのに、コンクリート塀を設置させた行政の無知と技術者に対する世論の不信感が今後の原子力発電の遅れに繋がらなければ良いが、と思う。(常北町、40代、男性)
- 今回の事故から考えれば、動燃の事故など可愛いものだった、というのが周囲の意見である。全国にある施設全部が今回のように泥んこ遊びのような感覚で核をこねまわしているとは思わないが(モニターで見学した限りでは二度と起こすまい、という気概が感じられ、また取組み方そのものも連絡網を含めしっかりしている感じをうけた)。専門分野に携わる以上、それなりの資格を持った人にやって欲しいと思う。JCOの場合、殆ど町工場のレベルの低さである(しっかり取組んでいる町工場の方々には不適切な表現であるが)。原子の火は県民の一人としてとても誇りであった。東海村の人達の死活問題の報道を見るたびに気の毒でならない。(水府村、40代、女性)

《原子力に対する不安に関する意見》

- 現在の仕事、事故が世界の人々に与えた不安は許せない。(大洗町、60代、男性)
- 今まで色々と教えていただいたが、信じられない。あきれた。私たちがさえ知っていること。仕事に携わっている人の『無知』が信じられない。何か狂っているのではないか。何も信じられなくなった。住民へのうらぎり

だ。(茨城町、40代、女性)

- 今回の事故にはびっくりした。国道沿い、それも民家があるすぐそばにJCOのような会社があったことはモニターになり始めて知った。茨城町に住んでいるが、大洗も近くもしもということを見ると不安になる。消費電力が供給より多いので原発ということになっているのなら、国民一人一人がもう一度今の生活を見直し、家族で一度話してみることも良いのでは、と思う。便利さだけを追求した結果なのではないか。近くで事故が起きたとき、私達は自分で放射線を防ぐことはできないのか。方法があれば、教えて欲しい。(茨城町、40代、女性)
- 今回の事故で沢山の方たちが原子力に関心を持ち知識を得、エネルギー問題も真剣に考え話し合いが行われたと思う。原子力は危険性が高いが全部やめるわけにはいかないのだから、事故を起こさない努力を日々重ね、それでも事故が発生したらすぐに住民、県民に知らせて欲しい、と大部分の住民が思っている。事故後「防災シェルター普及促進連絡会」が新聞にチラシを入れた。電話して相談しようか、それとも東海村や原子力施設のあるところから離れたところへ移住しようか、と考えた。子供たちもすぐに東京に来るように言っている。でも地価はまた下落したと思うので処分するのも考えもの。これから成人する子供たちへの不安も拭いきれない。もうすぐ乾燥芋のシーズンだが、例年通り親類に送るかどうかが思案している。これから結婚しようとする若い人の話に影響はないか。白血病や癌で死亡する人が多くなるのではないか。また違った事故が起こるのではないか、と悪いことばかり考えてしまう毎日である。消防隊員の方、ゴルフ場で作業をしていた方など、気の毒である。(ひたちなか市、50代、女性)

《JCO 事故に対するサイクル機構の取り組みに関する意見》

- ①JCO ウラン燃料加工工場における臨界事故について、今回の核燃料サイクル機構より送付されてきた、「臨界について」、「(株)JCO ウラン燃料加工工場における臨界事故とサイクル機構の取組み」、「ニュースレターJCO ウラン加工工場での臨界事故について」は端的に良くまとまっており、大変参考になった。②JCO ウラン燃料加工工場臨界事故直後、地域住民は不安に陥っており、10月2日、身体サーベイを実施してもらい、「異常なし」と言われて安心した様子であった。しかし近所では居住やまわりの環境についての安心が話題になっていたのだから、放射線計測協会より「はかるくん」を借用し放射線を測定し、近所の人々の放射線に対する不安を取り除くことができた。従って、このような器具をもっと早くから借り出してはどうかと思った。(瓜連町、60代、男性)

《風評被害に関する意見》

○お歳暮の季節となり、干し芋が心配。毎年親戚に送っていたが、今年は別のものにする。事故のニュースで他県の親戚から多くの電話をもらった。そこに干し芋をもらっても嫌がられる気がする。ということは、生産者の方々はどんな思いでいるのか。直接的に体に影響がなくても、私にもこんな被害があったということ。モニターをしている間に、何故このような大きな事故が発生してしまったのか。10倍くらいに関心が膨らむ。ソビエトのチェルノブイリの事故もいまだに完全に健康になりきれずに日本にきている子供たちがいる。友人の姪も東海で妊娠中で、心配している。資源がない日本なので原子力は不可欠であることは頭ではわかっているが、体が前には進まない感じである。先日新聞で医療管理学専門の岩崎栄氏が「科学的根拠ではなく、勘と経験で治療方法を決めてきた日本の臨床レベルは世界的には低いと見られる」と指摘する、とあったが、原子力関係にもそんなことがあるのではないか。(十王町、40代、女性)

《その他の意見》

- 東海村を初め、県内に原子力関係のある事業所(企業)がどのくらい存在するのか知らなかった(知らせてもいなかった?)。放送で、(株)JCOの事故と知らせがあっても、ピンとこなかった。先日のモニター会合で病院について質問したが、偶然とは思えなかった。事故対対応策のマニュアル化と訓練を地域内企業体合同(住民を交えた)で行うべきと考えられる。原研、サイクル機構、行政が中心となって是非実施して欲しい。(水戸市、60代、男性)
- 核燃料サイクル機構「常陽」で使用する燃料を加工する過程と聞き、一瞬サイクル機構の一施設かと思った。官民一体の管理体制の確立は急務である。(大洗町、60代、男性)
- 再度このような事故があれば、原子力行政そのものを考え直すべきである。(笠間市、40代、男性)
- 年内のモニター会合開催を望む。(那珂町、60代、男性)

〔設問 4〕 「サイクル機構」は地域へ溶けこんでいると思いますか。
その理由もあわせてお聞かせください。

そう思う どちらかといえばそう思う どちらとも言えない
そう思わない わからない

《理由》

〔設問 5〕 原子力発電は必要だと思いますか。
その理由もあわせてお聞かせください。

必要 どちらかと言えば必要 どちらとも言えない
どちらかと言えば必要ない 必要でない わからない その他

《理由》

〔設問 6-1〕 原子力発電に不安を感じますか。

感じる 少し感じる あまり感じない 感じない

〔設問 6-2〕 原子力発電に不安を感じる理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をお付けください。

- ①発電技術はまだ完成していないから
- ②運転員の操作ミスの可能性があるから
- ③被ばくの可能性があるから
- ④事故時の通報連絡が遅れるから
- ⑤老朽化による施設破損の可能性があるから
- ⑥地震による施設破損の可能性があるから
- ⑦冷却材が漏れる可能性があるから
- ⑧放射性廃棄物の処理・処分方法がまだ確立していないから
- ⑨JCO のような臨界事故の可能性があるから
- ⑩その他（

)

〔設問7〕 今後期待するエネルギーは何ですか。
その理由もあわせてお聞かせください。

石油 石炭 天然ガス 風力発電 太陽光 原子力発電
核融合エネルギー 水力発電 その他

《理由》

〔設問8〕 ご意見、ご感想等、ご自由にお書きください。

以上



(付録 6)

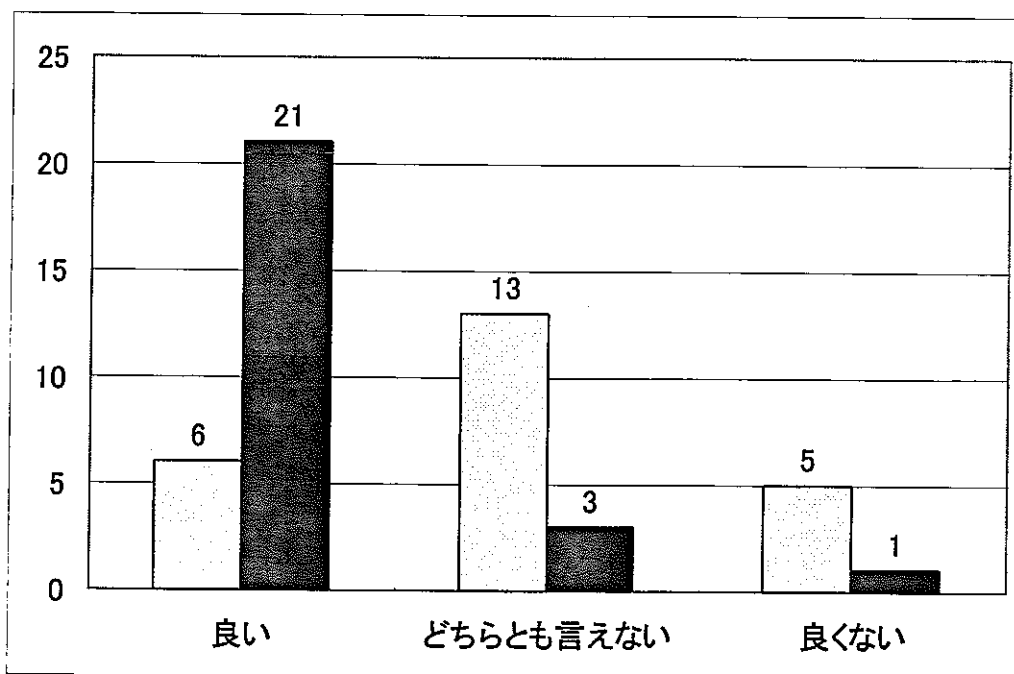
【第 1 期アンケート結果】

モニター経験前後の意識調査のため、同一内容のアンケートを初回（第 1 回：平成 11 年 3 月 23 日）及び最終回（第 4 回：平成 12 年 2 月 29 日）の会合にて実施した。以下にそれらのアンケート結果について、比較を含めて示す。

なお、以下に示す記述の意見は最終回のみであり、初回は記述がないか、あるいはサイクル機構等に対する知識不足から記述不可である旨が記載されていた。

《回答者数》

アンケート回答者数は、初回 29 名、最終回 22 名であった。設問 1～7 の図中  は初回結果、 は最終回結果を示す。

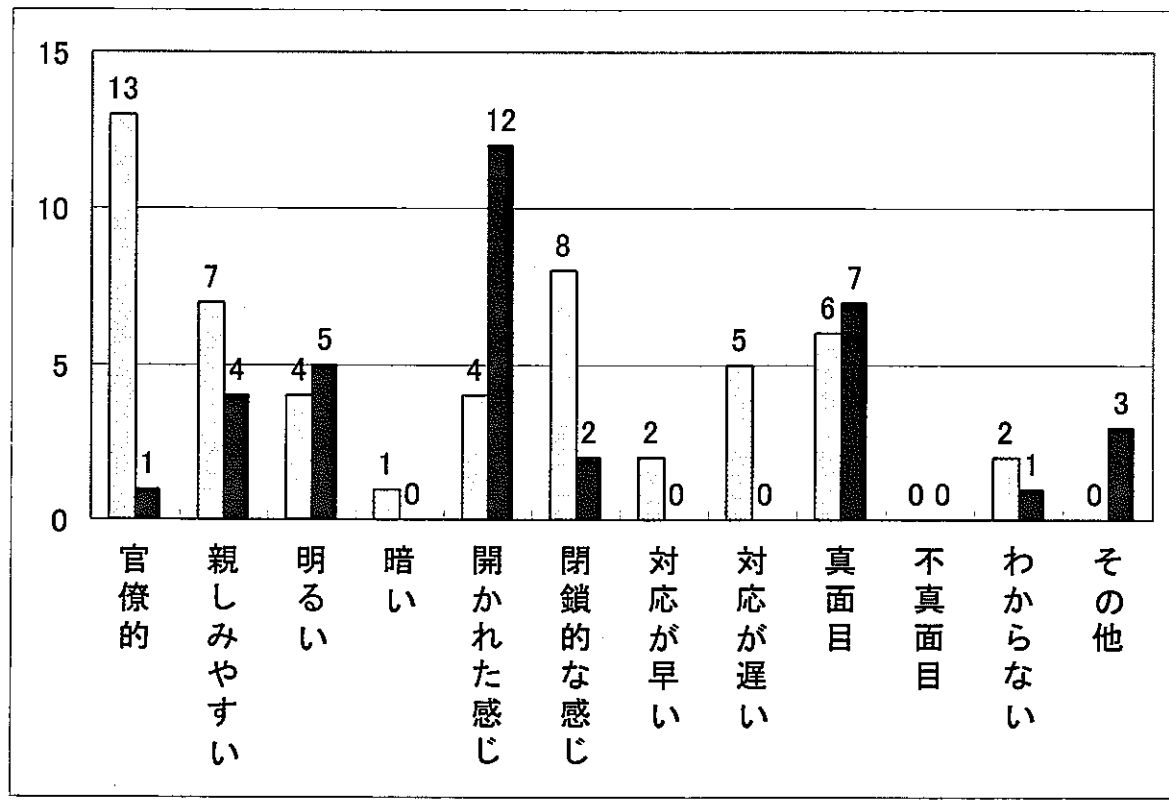
【設問 1】「核燃料サイクル開発機構」の印象は 1 年前と現在とで変わりましたか。**【良くなった理由】**

- 多少でも内容を知ることができたから（笠間市、40 代、男性）
- 原子力の勉強をして少し不安がのぞけたのと、サイクル機構の皆様の熱意を感じた（ひたちなか市、50 代、女性）
- 何回かお会いしているうちに気心が判って来たせいかも（日立市、60 代、男性）

- 職員の方々のやさしい解説と、言葉が理解できないまでも親しめるようになった（美野里町、60代、女性）
- 施設等見学をしながら少しずつ原子力について自分なりに理解することが出来た（常陸太田市、50代、女性）
- 職員のみなさんが身近に感じるようになった（東海村、60代、男性）
- 内容が多少理解できた（岩間町、60代、男性）
- サイクル機構モニターになってからは原子力関係に非常に興味を持つようになり、テレビ、新聞等に特に気配りをして見るようになった。友人達の話にも進んで参加するようになった（瓜連町、60代、男性）
- 組織（原子力事業）を理解してもらうことに対して努力している（友部町、30代、男性）
- 全く無関心な事業所だったので、モニターをやって多少理解してきた（常陸太田市、30代、女性）
- 職員の方々が一生懸命努力しているので（那珂町、60代、男性）
- 職員の方々の対応がとても感じが良い。新聞等で地域住民の方々との話し合いがもたれているとのこと。参加が無い様ですが（十王町、40代、女性）
- 機構内の説明、見学をして内容が判ったため（日立市、60代、男性）
- サイクル機構の職員の対応の熱心さ（鉾田町、30代、女性）
- JNCで何を研究しているのか分かった分、身近に感じるようになった（常北町、40代、男性）
- 地域に溶け込もうとする努力が見られた。交流課の方々がとても気さくな方ばかりだったので良い印象が残っている（茨城町、40代、女性）

〔設問2〕 現在のサイクル機構のイメージにもっとも近い言葉はどれでしょうか。

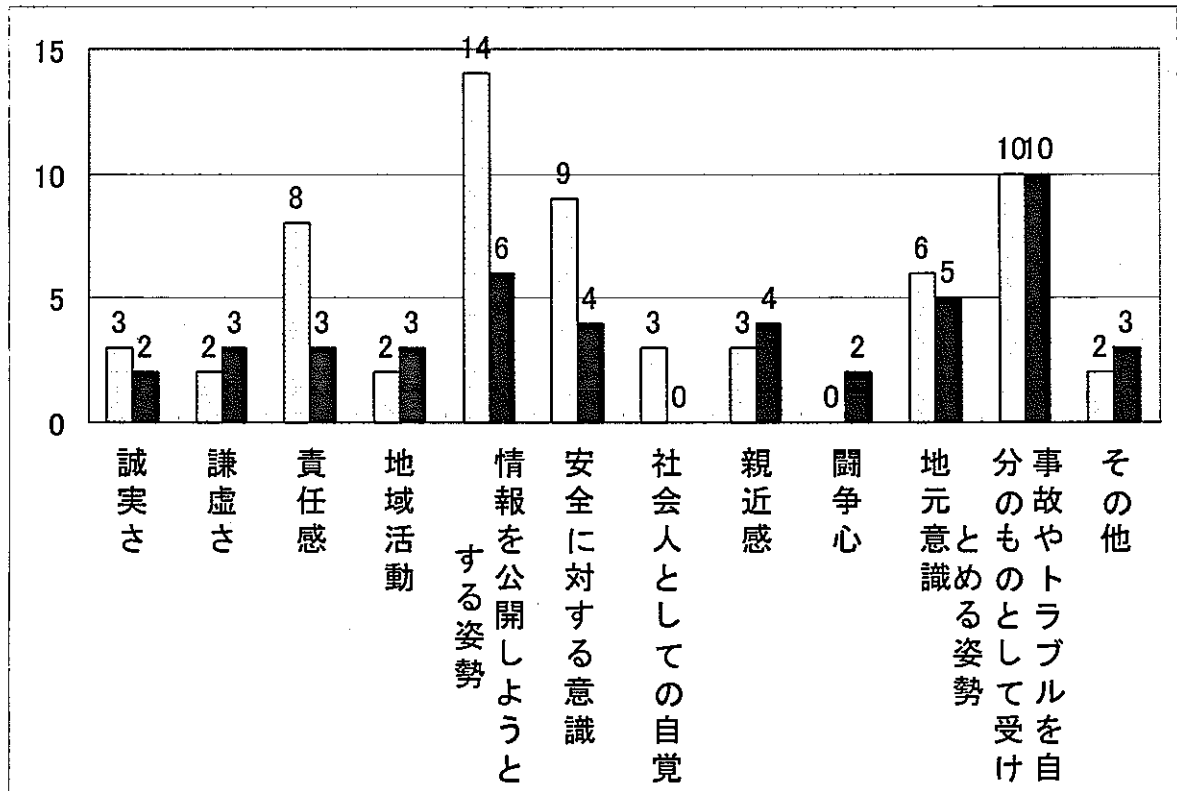
(複数回答)



【その他】

- 真面目すぎるくらい。もう少し良い意味で柔らかさが欲しい（日立市、60代、男性）
- JCO 事故の時は目に見えない仲間だという態度で協力していただき、住民として感謝している（東海村、60代、男性）
- 住民との交流を多く（岩間町、60代、男性）

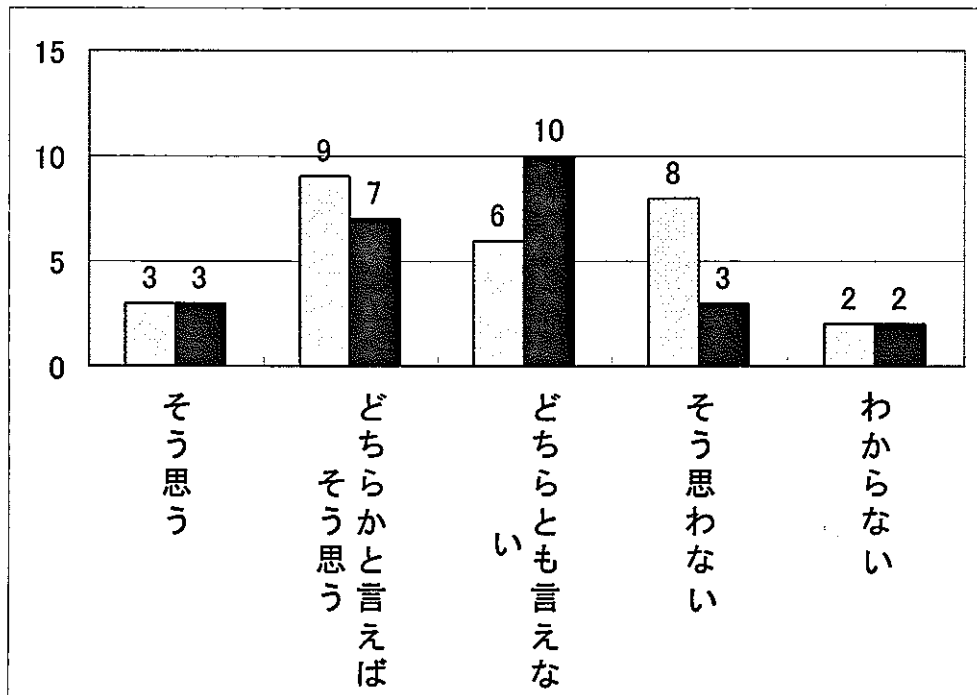
【設問3】 サイクル機構の職員には何が欠けていると思いますか。(複数回答)



【その他】

- 情報を公開しようとする姿勢を大事にして欲しい (東海村、60代、男性)
- 事故をおこさないこと (東海村、60代、男性)
- 失敗は許されないと言うプロ意識 (茨城町、40代、女性)

【設問4】 現在、サイクル機構は地域に溶け込んでいると思いますか。



【どちらかと言えばそう思う】

- 子供会や小学校に働きかけて、見学などを多くしたら理解が深まると思う（美野里町、60代、女性）
- 見学等のことをもっとPRして多くの方に施設を見学していただくように願う（日立市、60代、男性）
- 理解を得る為に努力している（友部町、40代、男性）

【どちらとも言えない理由】

- 全体的な事柄が判らないため（日立市、60代、男性）
- 閉鎖的（岩間町、60代、男性）
- 東海村などはそうかもしれないが、常陸太田などはあまり感じられないため（常陸太田市、30代、女性）
- 私達の住んでいる町（鉾田）にはあまりかかわりが無い為（鉾田町、30代、女性）
- 近くに住んでいる人達は情報も入るので親しみ方が違うと思うが茨城町あたりになると意識も知識も低いのが現状（茨城町、40代、女性）

【そう思わない理由】

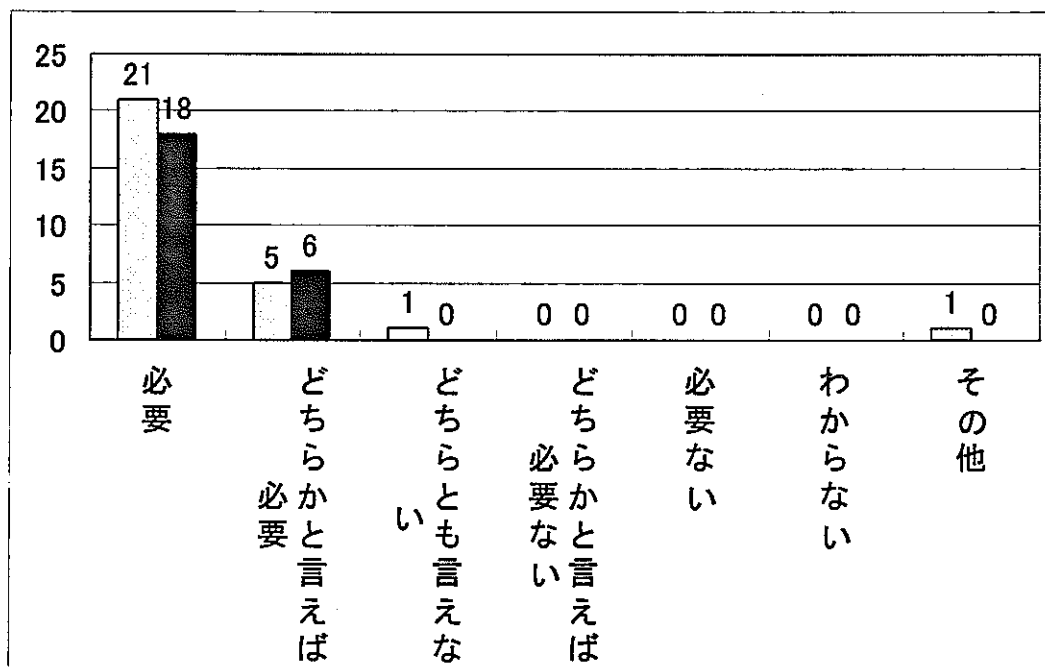
- まだまだ何をしているか周知していないと思うから（笠間市、40代、男性）

- これからの住民に対するPRを分りやすくしていただきたい(常陸太田市、50代、女性)
- 名前そのものが理解に苦しむ(那珂町、60代、男性)

【わからない理由】

- 私達の住んでいる町(鉾田)にはあまりかかわりが無い為(鉾田町、30代、女性)
- モニター以外の見学者が見られない(水戸市、60代、男性)

〔設問5〕 原子力発電は必要だと思いますか。



【必要な理由】

- 今の生活からバックは出来ない(笠間市、40代、男性)
- 40%近くの発電量の中で原子力発電を抜いた生活は考えられない(日立市、60代、男性)
- 資源が限られているから(美野里町、60代、女性)
- 必要では有るが、これからは原子力以外のエネルギーの開発をお願いしたい(常陸太田市、50代、女性)
- 時代の流れ(岩間町、60代、男性)
- 現在の資源の少ない日本国では原子力発電なくしては考えられない。とにかく安

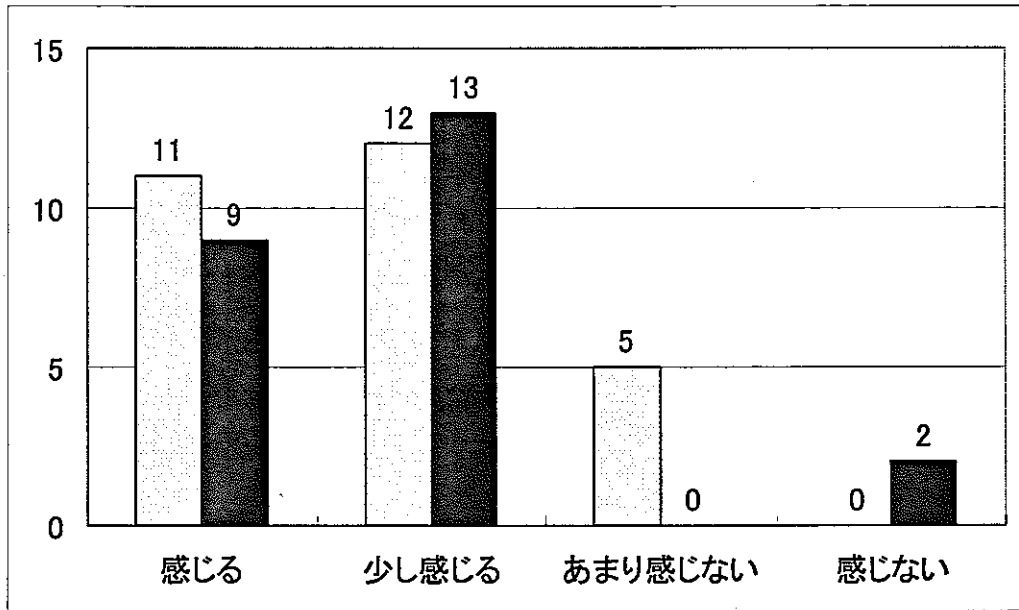
全を確保して実施して欲しい（瓜連町、60代、男性）

- 日本の限り有る資源を考えれば原子力は当然必要（友部町、40代、男性）
- エネルギー総量の34%を占めているので（那珂町、60代、男性）
- 現在の電力事情から見て、なくすことは出来ないと思う（日立市、60代、男性）
- 今の所は原子力意外に効率の良いものが無いと思うから（鉾田町、30代、女性）
- 限り有る資源の代替えエネルギーとしては不可欠（水戸市、60代、男性）
- 現在の生活水準を落とさずに、原子力にかわるエネルギーが見当たらないため（大宮町、40代、男性）
- 石油に依存し過ぎた場合、国際的に不利になる。原子力以外にも、太陽光発電などのエネルギーを増やすべきだと思う（常北町、40代、男性）

【どちらかと言えば必要な理由】

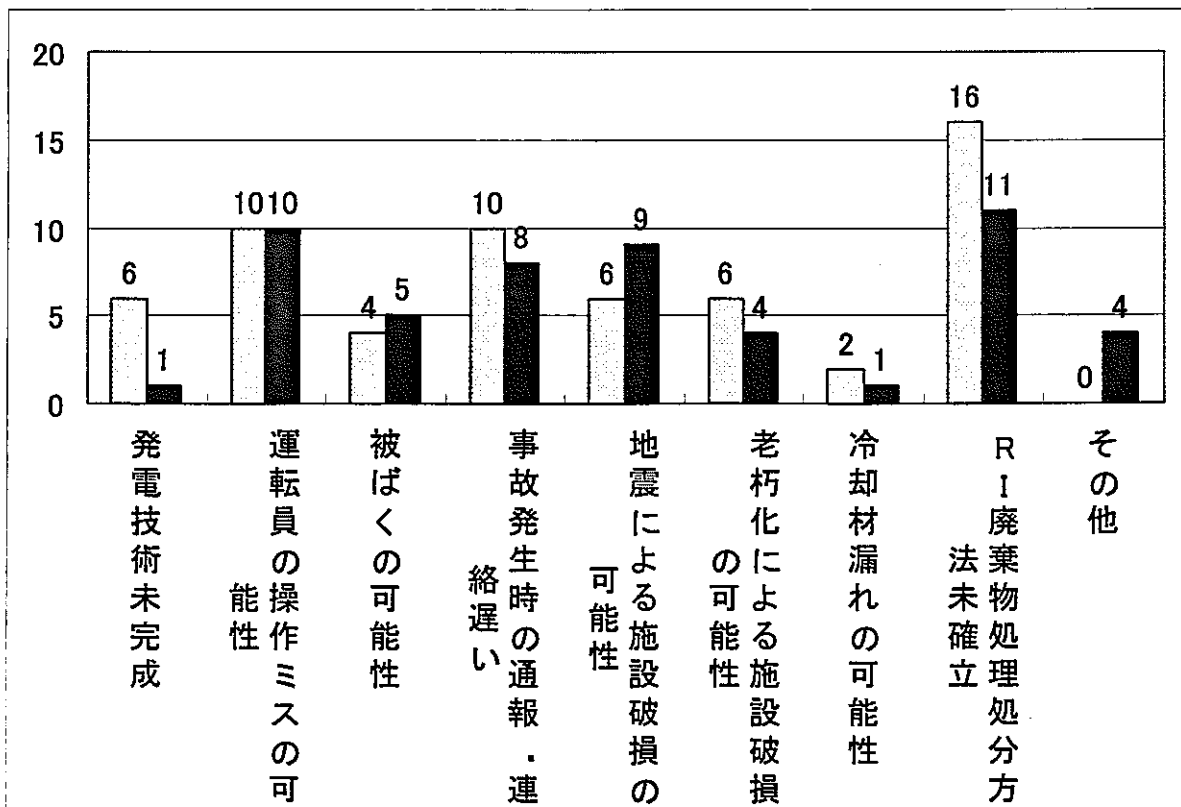
- 全く依存しないわけにはいかないから（ひたちなか市、50代、女性）
- このようなことは全くわからないが、他の資源はあまりないのではないか？（常陸太田市、30代、女性）
- 資源が少ない日本と言うことはわかるのですが、これ以上のものが無いならば安全をしっかり守り頑張りたい（十王町、40代、女性）
- 原子力に変わる、安全で人にも環境にもやさしいものができるとう良いのですが、安定供給と言うことを考えると今は頼らざるを得ないと思う（茨城町、40代、女性）

【設問 6-1】 原子力発電に不安を感じますか。



【特記】 ○臨界事故により「感じない」から「少し感じる」に変わった（那珂町、60代、男性）

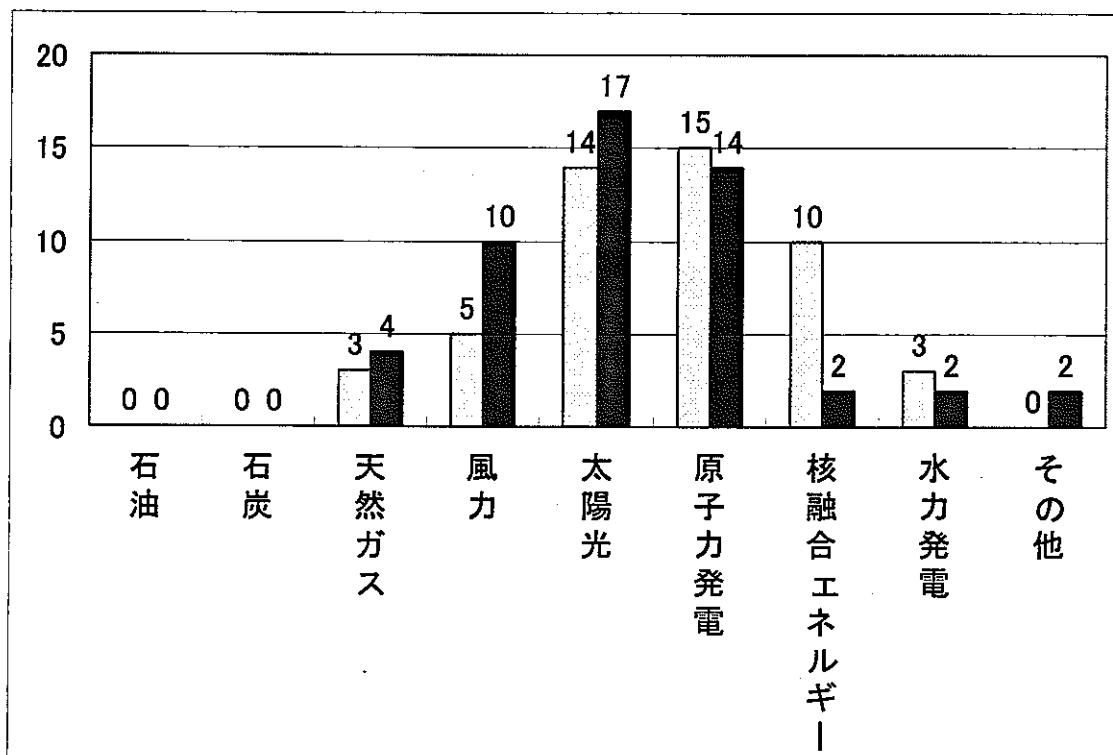
【設問 6-2】 その理由は何ですか。



【その他】

- 社員等の責任感（岩間町、60代、男性）
- 慣れが一番恐ろしい（瓜連町、60代、男性）
- 技術を支える技能者のレベルの低下が不安（常北町、40代、男性）
- 選択し全てを考えれば、不安になる（茨城町、40代、女性）

【設問7】 今後のエネルギーとしてどのようなエネルギーに期待しますか。



【特記】

- 赤道で太陽光により水素を作り、燃料となる（ひたちなか市、60代、男性）
- 各エネルギー共一長一短があり、大容量の発電には原子力に頼らざるををえないのではないか（日立市、60代、男性）

【その他】

- 今までにないエネルギー（大宮町、40代、男性）

〔設問8〕 ご自由にお書きください。

- とにかく安全に作業をして欲しい。安全は最高のPR。モニターをして良かったと思わせて欲しい（笠間市、40代、男性）
- 40年原子力は安全で、関係者にまかせておけば安全と信じていたが、モニターになったらJCO事故があったりで何と日常にも問題の多い日本の原子力かと思った。それでも無知の私がモニターになって原子力に関心が行くようになったことを感謝している。少し頭の血の流れが良くなった（ひたちなか市、50代、女性）
- 御苦労さまでした。頑張ってください（ひたちなか市、60代、男性）
- 職員の方々の懸命な取り組みに感心した。このような中で何故事故が起こってしまうのか、理解しがたい。何よりも安全を第一に今後も原子力の発展に力をつくされますように。お世話になりました（美野里町、60代、女性）
- 1年間お世話になりました。ありがとうございました。東海施設見学、話し合い等わかりやすく、勉強になった。大洗施設見学が出来なかったことが残念。機会があれば是非見学したい（常陸太田市、50代、女性）
- サイクル機構の内容がわかり、良い勉強になった（東海村、60代、男性）
- PRは事故を起こさないこと。その為の責任感、知識を持つこと（岩間町、60代、男性）
- 今回一回だけの参加となったが、お世話になりました（友部町、40代、男性）
- JCO事故後の処理に専門知識を持ったサイクル機構の方々が行動されたことは立派だと思った。その点でプロ意識の高さを評価したい。今後も初心を忘れず頑張りたい（水府村、40代、女性）
- 原子力など全く関心も無かったのが、モニターを1年間やり、自分なりに興味を持ち、色んなものを読んだり聞いたりすることが出来た。今まで回覧などで配られるものなども読んでいなかったが、進んで読むようになった。1年間ありがとうございました（常陸太田市、30代、女性）
- 1日も早い信頼回復に努力して欲しい。そして原子力の安全管理に職員一人一人が頑張ってください（那珂町、60代、男性）
- お世話になりました。モニターになって興味を持つことができた。今回の臨界事故等、最初モニターになっていながら「臨界」というものを人に説明してあげられなかったことが少し悲しかったが・・・。貴社の刊行物や新聞などで読んで大変なことがよくわかった。どんな小さな見出しでもすぐに読みたくなる。これから世の中の風当たりが強いのと思うが、皆様が力をあわせて頑張りたい（十王町、40代、女

性)

- とても良い体験をさせていただいた。これからもどんどん活動して、知名度を高めて行って欲しい。いろいろありがとうございました（鉾田町、30代、女性）
- JCOを教訓としてほしい。／地域と連携して安全視察を行って欲しい。／ten9, tel01の重さを認識して欲しい。／業務遂行は自信を持って！（水戸市、60代、男性）
- 大洗町に住んでいて、サイクル機構、原研と共存しているから、安全、安心、豊かさを実感し、お互いに溶け込んでいると思っていたが、今年のJCOの事故後、「危険」を最大に感じるようになった。JCOの事故は作業員の無知を強く感じた。作業工程指導力の強化を前面に出し、安全に努力することを要望する（大洗町、60代、男性）
- 1年間お世話になりました。原子力発電について、多少の知識を持つことができ、色々勉強でき、ためになりました。今後、このような集まりがあれば、是非参加したいです（常北町、40代、男性）
- 原子力について少しでもすることが出来て、本当に良かったと思います。年4回と回数は少ないのですが、毎回多くの資料等を準備して頂き、有意義な時間を過ごすことが出来ました。これからも一人でも多くの方々にモニターになって頂き「サイクル機構」について知ってもらい活発な意見の交換をして頂きたいと思います（茨城町、40代、女性）

(付録 7)

【第 2 期アンケート結果】

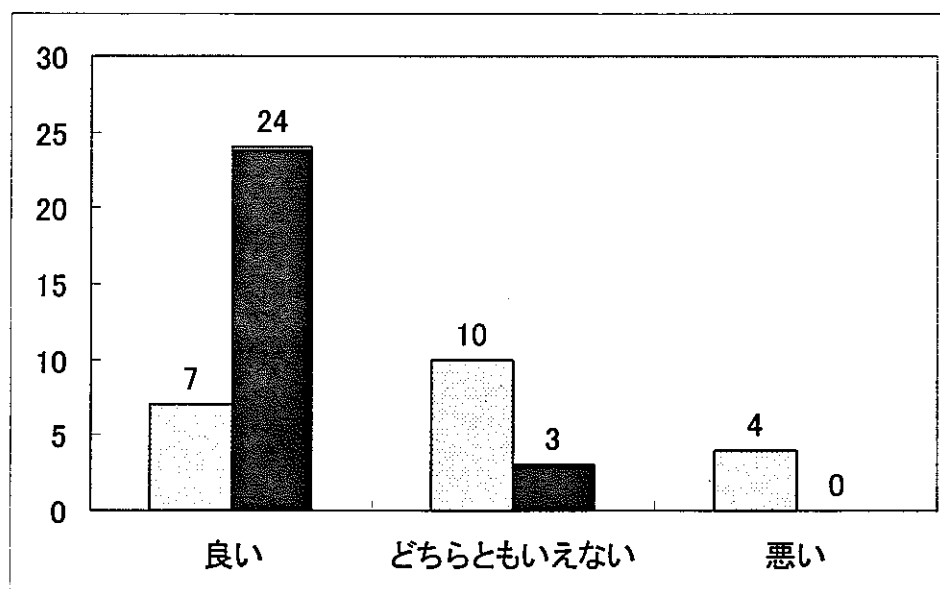
モニター経験前後の意識調査のため、同一内容のアンケートを初回（第 1 回：平成 12 年 5 月 22 日）及び最終回（第 4 回：平成 13 年 2 月 26 日）の会合にて実施した。以下にそれらのアンケート結果について、比較を含めて示す。

なお、以下に示す記述の意見は最終回のみであり、初回は記述がないか、あるいはサイクル機構等に対する知識不足から記述不可である旨が記されていた。

《回答者数》

アンケート回答者数は、初回が 30 名、最終回会合が 27 名であった。設問 1～7 の図中 □ は初回結果、■ は最終回結果を示す。

【設問 1】 現在の「サイクル機構」に対する印象はどうか。



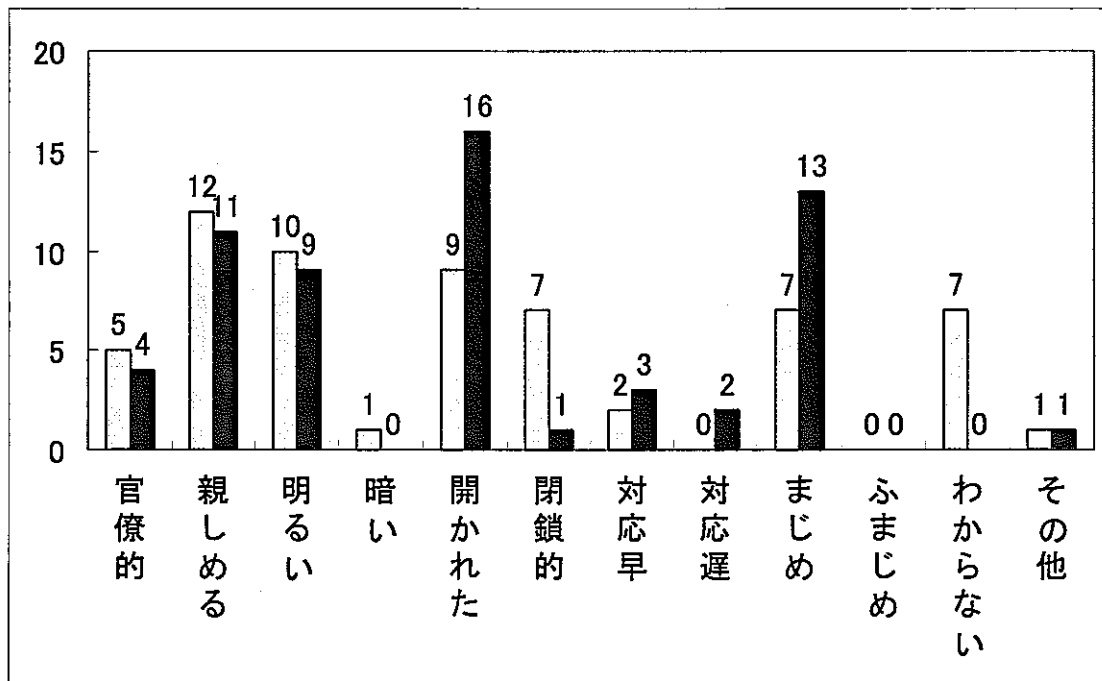
※初回データは、現在の「サイクル機構」の印象に回答に対するもの、最終回データは、「サイクル機構」の印象の 1 年前との変化、に対するものである。

【良くなった理由】

- モニター制度等（施設の公開等）情報公開をしようとする意識が感じられる。
- 安全のため、いろいろなことを行っている（銚田町、30 代、女性）

- 構内に入ったの雰囲気はすごく明るく、生き生きと働いている職員の方々の姿が強く印象に残った（日立市、60代、男性）
- モニターになる前は官僚的、閉鎖的なイメージだった。
- 明るく開放的。
- 職員一人ひとりが今度事故を起こしたら、という気構えが見える（岩間町、60代、男性）
- モニターになる前は別世界のように感じていた。見学したり、話を聞いたりして、知らなかったことを見て知ることが出来た（銚田町、30代、女性）
- 親しみやすくなった。
- 安全に対して力を入れていることが見学会により良く分かった。
- 名称変更（動燃⇒サイクル機構）にも有る様に、官から民に変わりつつあるように思う。
- 何でもオープンに話してくれるので。
- 原子力についての意義を本当に持つことが出来た。
- 印象と言われても、初めから未知の社会であって原子力発電、核燃料サイクル機構の存在に興味を持てたのが成果。
- 失った信用回復のために辛抱強く努力を続けているのが良く感じ取れた。
- 誠実さを感じた。
- 安全管理、危機管理の追求がわかり、有りがたかった。
- 最初のかたいイメージだったので緊張したが、回を重ねて話をするとに和やかな雰囲気で親しみやすくなった。（美野里町、60代、女性）
- 職業に対する使命感のようなものを感じることが出来たので。（大洗町、60代、男性）

〔設問 2〕 「サイクル機構」のイメージに最も近い言葉をお聞かせ下さい。
(複数回答)



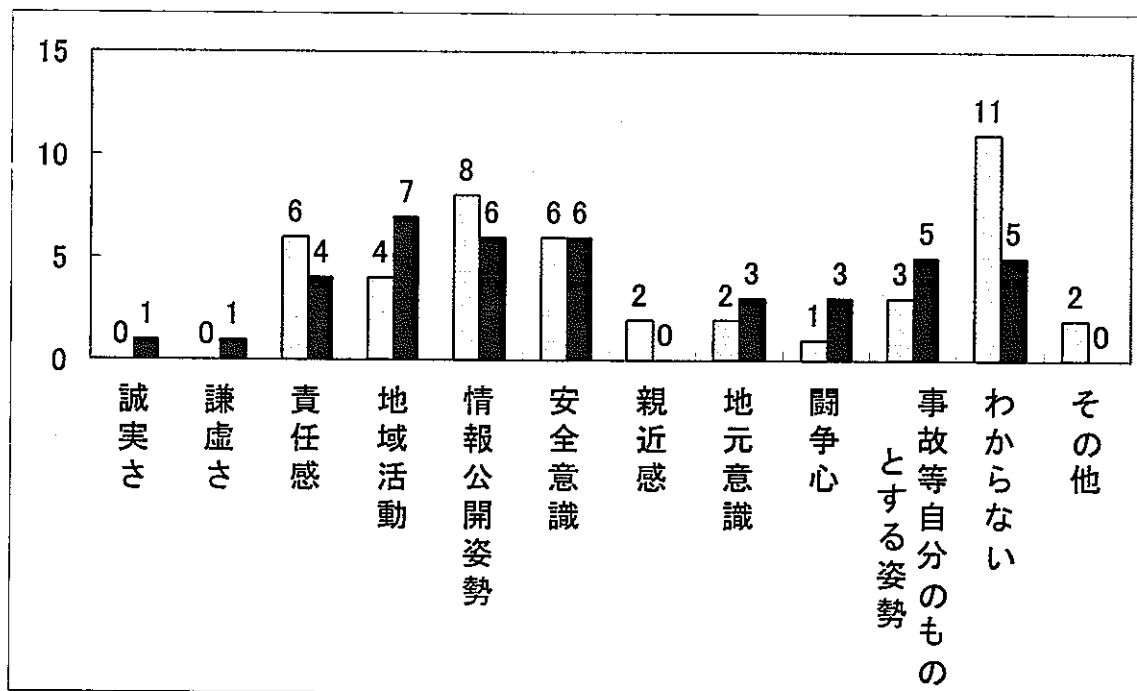
【その他の理由】

○モニターとして見学した施設は明るく開かれた感じで対応の職員も親切だったが、個人的に見学に行ける、行きたくなるという雰囲気ではない。

【意見】

○一生懸命さ、熱意が伝わってくる (日立市、60代、男性)

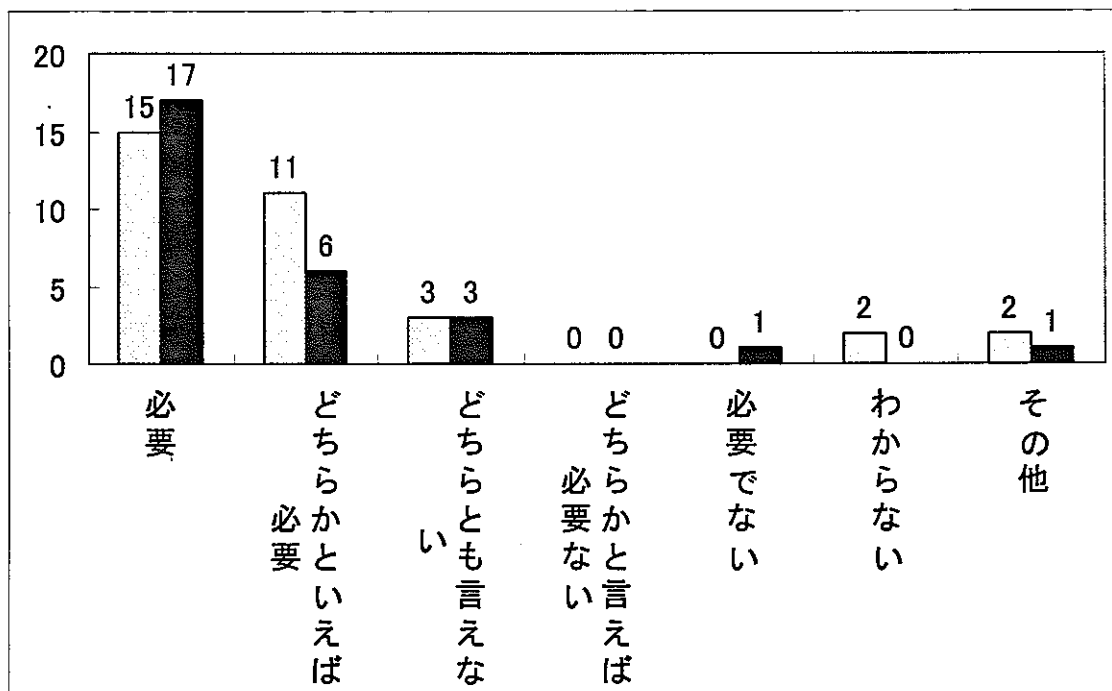
【設問3】 サイクル機構職員に欠けるものは何ですか。
(複数回答)



【意見】

○特に欠けているものはない。

〔設問4〕 原子力発電は必要だと思いますか。



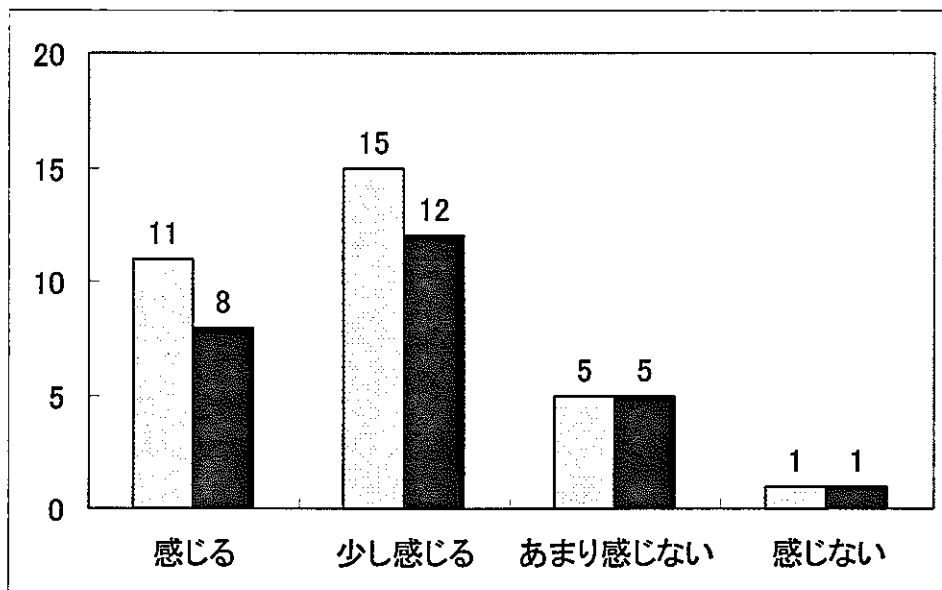
【どちらかと言えば必要だと思う理由】

- これ以上原子力発電所を増やして欲しくない。他のエネルギー利用の開発を進めて欲しい。
- 現状以上に増やして欲しくない。
- 発電の種類をバランスよく。色々な事故に対応できて影響を少なくして行きたい（発電、出力、水力、その他）

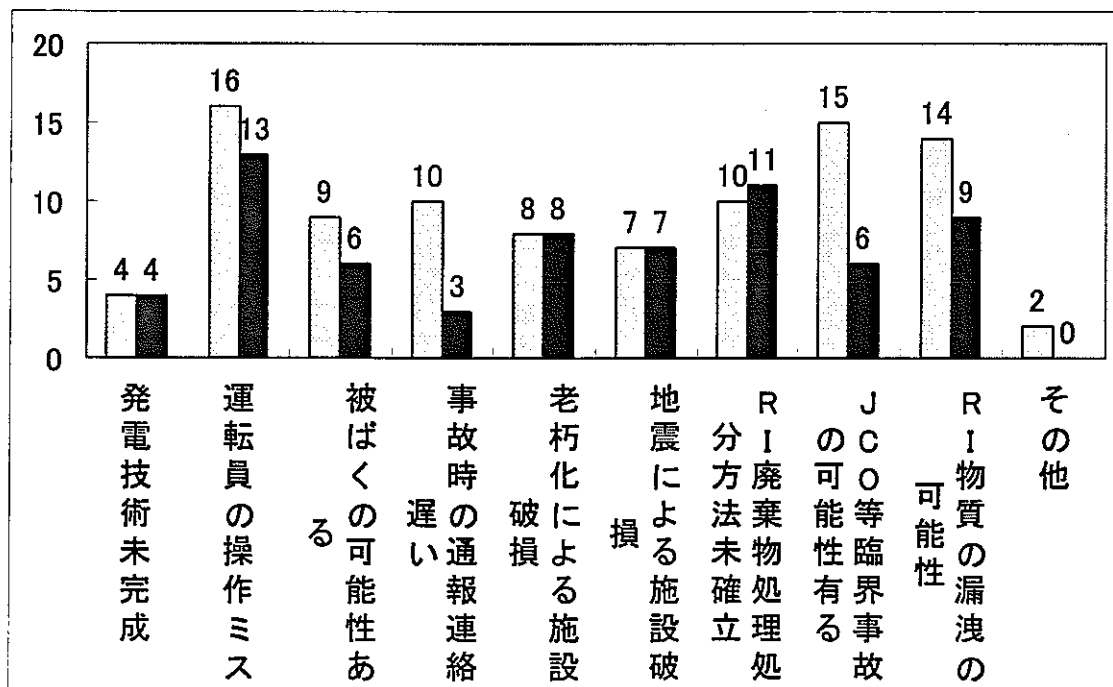
【その他の理由】

- 代替エネルギーの開発とその産業的整備を見届けてからその時点で優劣を決めることになると思う。

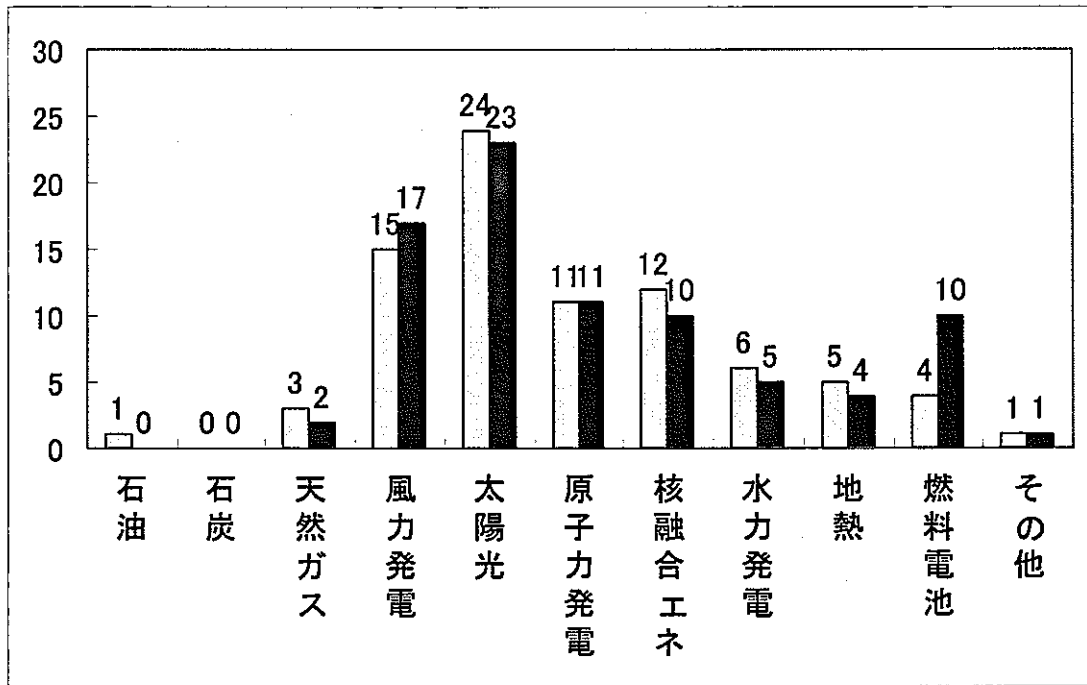
〔設問5〕 原子力発電に不安を感じますか。



〔設問6〕 原子力発電に不安を感じる理由は何ですか。



【設問 7】 今後期待するエネルギーは何ですか。(複数回答)



【設問 8】 ご自由にお書きください。

- 使命感を持って各人の仕事に従事することを期待する (大洗町、60代、男性)
- 原子力発電所は本当に安全か、放射線は怖くないのか、どうなっているのか知りたかった。モニターになって見学でき、嬉しい。原子力発電はウラン等の燃料を核分裂させ、その時に出る熱を利用していることがわかったが、有害な放射性物質も出ることが分かった。放射性物質が出ないよう、何十もの仕組みがある等、安全管理は十分気を使われていることがわかった。モニターになる前の原子力に対する不安は小さくなり、気持ちが楽になった。今後も安全管理を徹底して欲しい。(美野里町、60代、女性)
- モニター制度の考え方を聞いたが、大洗工学センター所長の「サイクル機構を知ってもらえたらよい」との考えは評価できない。モニターに何を求めるのかを一番に考えるべき。サイクル機構のPR だけならモニターでなくても良い。市民の声を本当に聞きたいと考えるならモニター制度がどうあるべきかわかるのでは無いか。
- 原子力への関心が深くなった。地元住民としては安全が第一。定められた手順を遵守し、作業を行っていれば事故は起こらないはず。現場作業員はノーミスに徹すると共に万が一事故が発生した場合に処置を完璧に行うよう、教

育を徹底して欲しい。

- 核燃料サイクルの意味も少し理解できるようになった。原子力＝危険と思っていたが、安全管理を徹底することで不安も少しはなくなることがわかった。今後も時間があれば参加したい。(銚田町、30代、女性)
- モニターとなり、動燃時代の認識を払拭しニューサイクル機構「開かれたサイクル機構」に認識を新たにした。安全最優先を貫徹し、地域との強制をベースに国家事業であるエネルギーの開発に邁進願う。(日立市、60代、男性)
- モニターとなり、原子力や核エネルギーの記事を以前より気にして読むようになり勉強になった。近隣に核を扱う施設が多くあり、安全面は気になる。事故時のみでなく常に安全に留意し、事故等には迅速な対応、正確な情報提供を望む。
- サイクル機構職員の真摯な態度が良く伝わった。特に女性職員の活躍が同姓として嬉しく思われた。そのような姿勢が底辺まで届くことを期待する。
- 色々な面から見ても絶対安全でなければならない。少しの不安もあってはならない。(美野里町、50代、女性)
- モニター会合は4回では少ない。何も知らなかったが、関心を持つことができた。グループディスカッションでは現場で働く職員の話が聴けるとよい。また防災訓練の様子、事故等が起きたときの対応の仕方等も今後のモニター制度に取り入れると良い。沢山の方が見て知ることが出来ると良い。(銚田町、30代、女性)
- 原子力関連施設の事故は絶対あってはならず、将来とも無事故を第一として、地域との融和を図り推進して欲しい。
- 安全検査手順を足元より見直し、安全な操業を続けることを願う。
- 事故防止に努力し、開発して欲しい。
- 電気を何も考えずに利用していたが、モニター体験で電気にとっての原子力の必要性を切に感じた。
- 大洗工学センター、福島第一発電所等見学できて良かった。
- 事故の無い、国民に信頼されるサイクル機構になって欲しい。
- モニターは気持ちよく過ごせた。これからも誠実な対応続けて欲しい。エネルギー問題は今後も大きな課題。原子力は必要なエネルギー。これからも安全第一に研究を進めて欲しい。
- より一層わかりやすい言葉で一般人の知識レベルに目線を落としての対応を期待する。



(付録 8)

【第 3 期アンケート結果】

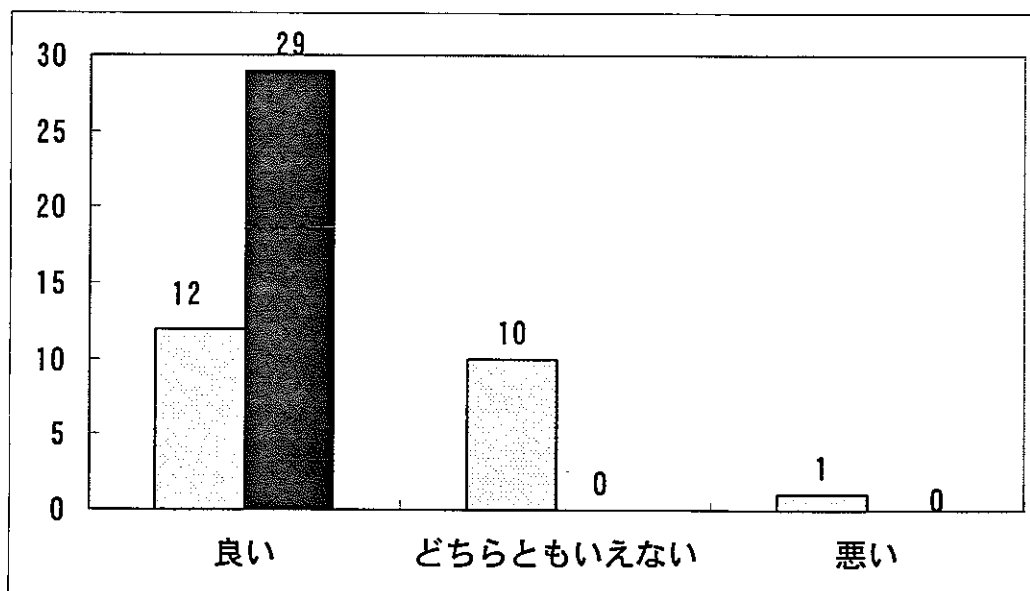
モニター経験前後の意識調査のため、同一内容のアンケートを初回（第 1 回：平成 13 年 6 月 13 日）及び最終回（第 6 回：平成 14 年 2 月 27 日）の会合にて実施した。以下にそれらのアンケート結果について、比較を含めて示す。

なお、以下に示す意見は最終回のみであり、初回は記述がないか、あるいは、サイクル機構等に対する知識不足から記述不可である旨が記されていた。

《回答者数》

アンケート回答者数は、初回 34 名、最終回は 29 名であった。設問 1～7 の図中  は初回結果、 は最終回結果を示す。

【設問 1】現在の「サイクル機構」に対する印象はどうか。



【印象が良くなった理由】

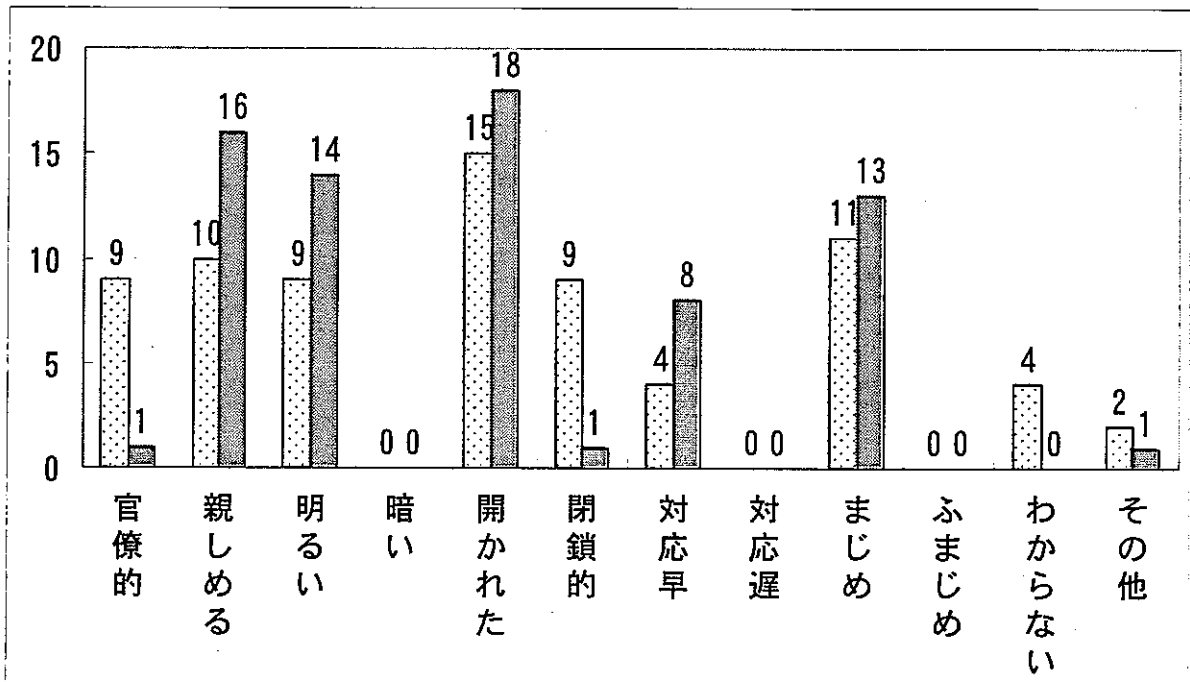
- モニター会合を 6 回/年度開催し、情報交換がかなりスムーズになったこと、更にモニターの要望もよく聴いてくれていることで、住民に安心感を与えているように思える。(大洗町、60 代、男性)
- 実際に見学し、研究所としてのテーマ等に一部ではあるが触れることができた。(大洗町、50 代、女性)
- 日常生活で触れる機会がなかったが、モニターになっていろいろ勉強することができた。(茨城町、50 代、女性)
- 不安感がなくなった。(茨城町、50 代、女性)

- 見たり聴いたりする中で、少しずつでも原子力について知識が得られたこと。
(銚田町、30代、女性)
- サイクル機構の仕事内容を少しだが理解できたから。(銚田町、30代、女性)
- 原子力に対する安全性を感じた。(内原町、60代、男性)
- 知識がなかったのがモニターになって、少し知ることができた。(美野里町、60代、女性)
- 働いている職員を身近に感じるようになった。(美野里町、60代、女性)
- 1年前は「核燃料サイクル機構」そのものがどのようなものであるのかも分からなかった。「良くなった」というより、「わかった」に近い。(笠間市、40代、女性)
- 見学等により、内部の様子がだいぶ分かってきた。(日立市、60代、男性)
- 1年前までは全くどのような所かわからなかったが、6回の会合で少しはどんな仕事をしているところかわかった。(常北町、40代、女性)
- 前向きの姿勢。(常陸太田市、40代、女性)
- 内情(今までは知らなかった)がわかってきたので理解できるようになった。
(常陸太田市、不明、女性)
- 仕事内容が分かった。(ひたちなか市、40代、女性)
- サイクル機構の業務を理解した。(ひたちなか市、50代、女性)
- サイクル機構の内容が理解できて良くなった。(瓜連町、60代、男性)
- 危ないものからエネルギー源への理解が出来た。(那珂町、60代、男性)
- 警備体制強化されたことは良い。(東海村、70代、男性)
- 各事業所の内容がはじめ分からなかったが、説明を受け、より理解することが出来た。(桂村、60代、女性)

【1年前と比較して印象が変わらない理由】

- 1年前のことは詳しくは知らない。1年前から印象は良かった。(水戸市、70代、男性)
- 今日の見学により、世界との交流、企画室等、前進の色が見える。(東海村、70代、男性)

【設問2】「サイクル機構」のイメージに最も近い言葉をお聞かせ下さい。(複数回答)



【1年前と比較して多くの方が感じるようになったイメージ】

親しみやすい、明るい、開かれた、対応が早い、まじめ、と感じる方がそれぞれ増加した。その理由は以下のとおり。

《理由》

- 火事の際、すぐにお手紙をいただいた。(茨城町、50代、女性)
- この1年間でも色々な件が報告されたが、国民に対する対応が良かったと思う。(茨城町、50代、女性)
- 最初は閉鎖的なイメージがあったが、モニター会合を重ねる毎に親しみを持ち、明るいイメージになっていった。(鉾田町、30代、女性)
- 名前から暗いイメージがあったが消えた。(内原町、60代、男性)
- 幹部の方は皆、明るい人達。(美野里町、60代、女性)
- モニター会合や施設見学をする中での印象として「なるべく多く知ってもらおう」という姿勢が感じられた。(笠間市、40代、女性)
- 職員の努力が大きい。(日立市、60代、男性)
- モニターとして職員の皆さまに接するようになり、そう思うようになった。(常陸太田市、不明、女性)
- モニターとして参加し、見学等で説明を受けたので。(ひたちなか市、40代、女性)
- 官僚的な感じをなくす努力がされていると思われる。(瓜連町、60代、男性)
- 対応の感じが良い。(那珂町、60代、男性)

○職員の方々が研究、技術、開発のために取り組んでいる姿が見られた。(桂村、60代、女性)

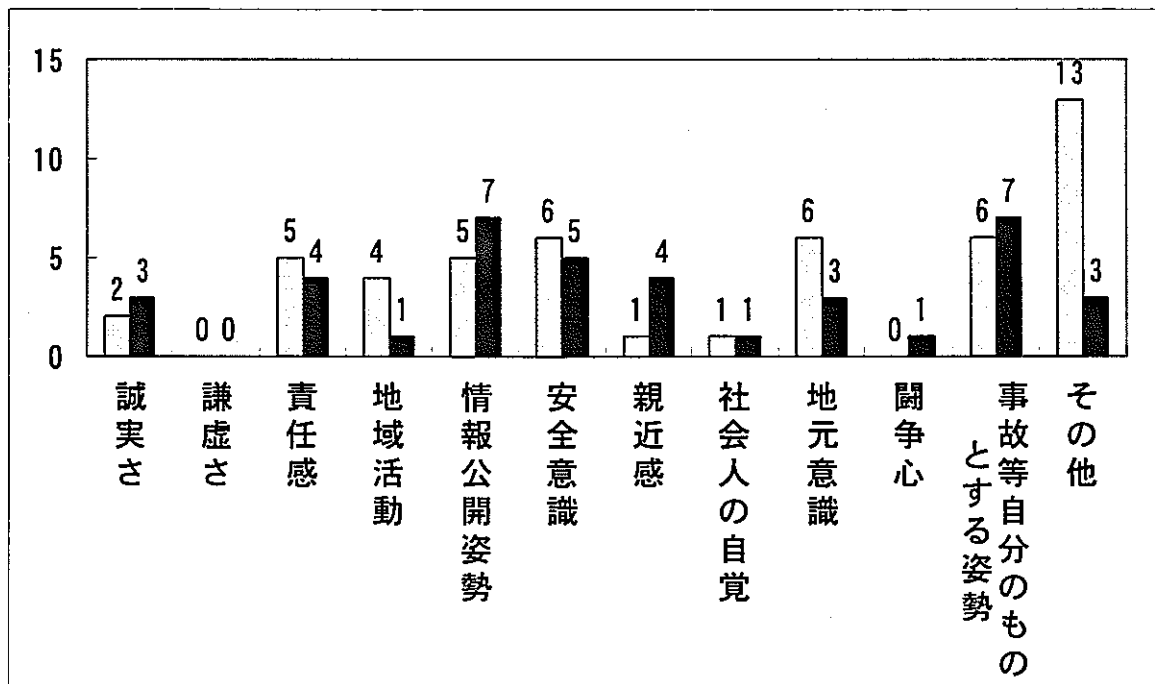
【その他のイメージ】

官僚的、閉鎖的と感じる方がそれぞれ1名ずつ第6回アンケート回答者の中にいた。その理由は以下の通り。

《理由》

○モニターとしては「サイクル機構」を身近に感じるが、第三者的にはまだまだ近寄りがたい。(常北町、40代、女性)

〔設問3〕サイクル機構職員に欠けているものは何ですか。(複数回答)



【1年前と比較して多くの方が感じた欠けているもの】

①誠実さ、②情報を公開しようとする姿勢、③親近感、④事故等を自分のものとして受けとめる姿勢、がサイクル機構職員に欠けている、と感じる方が多くなった。また、①責任感、②安全意識、は1年前と変わらず、ほぼ同数の方がサイクル機構職員に欠けていると感じる、という結果になった。その理由は以下の通り。

《理由》

- サイクル機構はその取り扱いを総合的に考慮して①原子炉に使用される燃料、②原子炉の稼働条件、③使用後の燃料処理等、併せ考えて研究を進める必要があるように思う。また安全面から医学的問題も含めて職員の勉強が必要と思う。(大洗町、60代、男性)
- 事故を自分のものとして受けとめる姿勢について、欠けているとは思わないが、持ち続けてほしい。(茨城町、50代、女性)
- 他のどんな仕事でも同じだと思うが、一人ひとりが自分の仕事に自覚と責任をもって取り組んでほしい。安全面だけを強調するのではなく、リスク面も明らかにしてそれに対する対応も公にしてほしい。(常北町、40代、女性)

【「その他」回答理由】

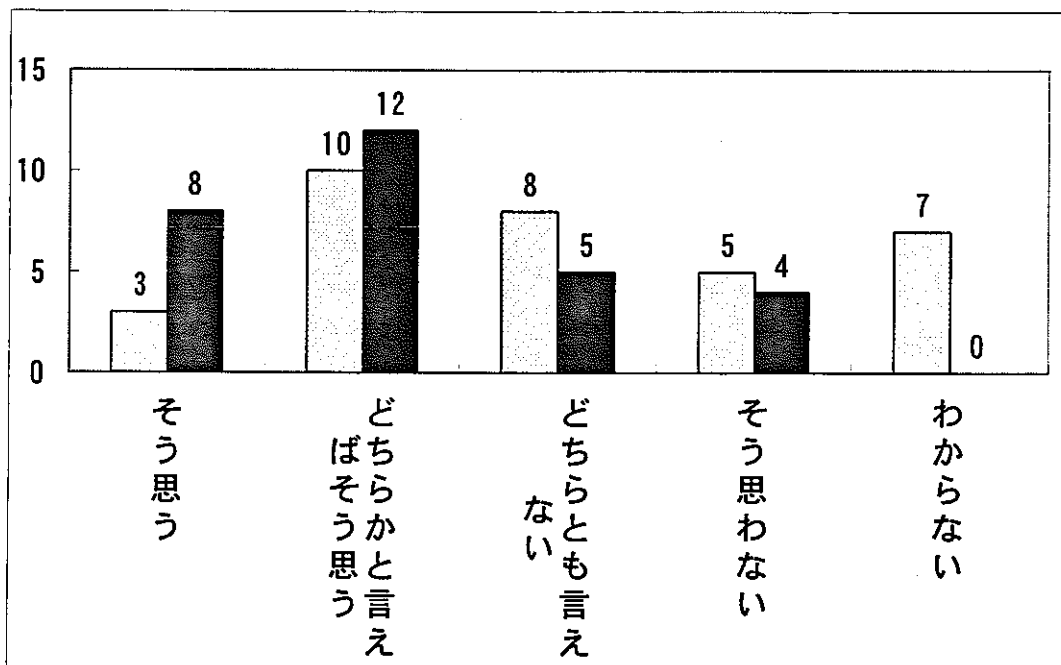
- 年に数回の会合で職員を判断するのは大変難しいが、トラブルがあったときに新聞報道などでいろいろと批判記事を眼にしたとき、「そう思わせてしまう何かがあったのかな」と思った。(具体的にどうこうということはないが・・・)。

(笠間市、40代、女性)

【意見】

- 少なくとも接した職員の方々は誠実に責任感を持って親しみやすく、謙虚に職務を果たしていたと思う。(大洗町、50代、女性)
- モニターで接した職員はみなまじめで熱心に仕事をしていると感じた。(茨城町、50代、女性)
- 接した職員はとても前向き、テキパキとした対応でとても好感。(ひたちなか市、60代、女性)
- 職員の誠実な対応に感銘(良い点)。(那珂町、60代、男性)
- 受付もよく守ってやっている。テロ事故があっては大変。(東海村、70代、女性)

【設問4】サイクル機構は地域へ溶けこんでいると思いますか。



【溶けこんでいると思う理由】

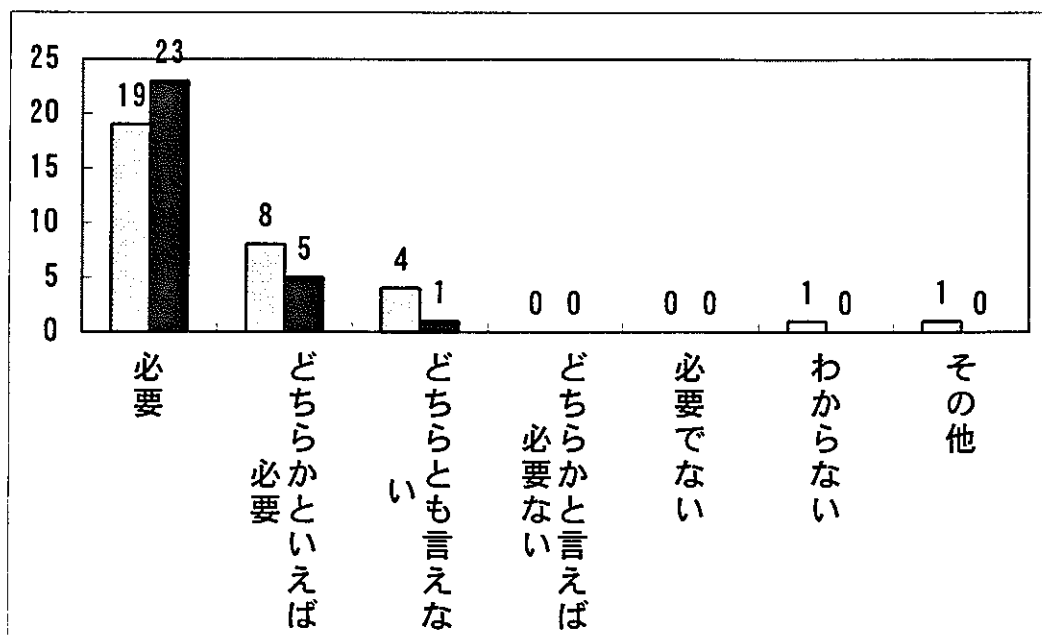
- モニター会合を開催することで、かなり親しみやすくなった。サイクル機構のみでなく、原子力研究関係を併せてモニター化する方向に進めてもらいたい。更に放射能と医学関係も含めていく必要があるように思う。(大洗町、60代、男性)
- わくわく科学館ができてこれからはもっと身近になりそうで、期待している。(大洗町、50代、女性)

- 少しづつでも近隣の市町村に出向いている点。(茨城町、50代、女性)
- 努力しているのを感じる。(茨城町、50代、女性)
- 広報事業を広く取り入れていると思った。(美野里町、60代、女性)
- ①JCO 事故以来、非常に住民の関心が高まっているため。②PR に努めているため。(日立市、60代、男性)
- サイクル機構で努力していることは認めたい。(常北町、40代、女性)
- 各地域にでかけてのPR 活動など、又展示館などでの交流がある。(常陸太田市、不明、女性)
- モニター会議においては地域に顔を向けていると思う。(ひたちなか市、60代、女性)
- サイクル機構モニターいばらきを開催していること、住民の見学会を開催していること等。(東海村、70代、男性)
- 私的にもサイクル機構と話す機会が多くあり、その中で真剣な話をしている。住民に心を向けている。(東海村、70代、女性)

【溶けこんでいないと思う理由】

- 実際私の町には来てもらっていないので、これからに期待したい。(銚田町、30代、女性)
- 美野里町は知識が薄いと思う。(美野里町、60代、女性)
- 身近で知っている方が少ない。(ひたちなか市、40代、女性)
- 住民側から見れば、十分とは思わない。(那珂町、60代、男性)

【設問5】原子力発電は必要だと思いますか。



【必要と考える理由】

- 日本の現在のエネルギー必要量が原子力発電なくしてまかないきれない状態にあるから（より安全な原子力発電へ）。（大洗町、60代、男性）
- 省エネ等では限界があることが良くわかった。（大洗町、50代、女性）
- 現代社会の中では必要と感じた。色々な話を聞いてそう感じた。（鉾田町、30代、女性）
- 今使っているエネルギーが何年か先にはなくなってしまう。それを補ってくれるのが原子力だと思う。（鉾田町、30代、女性）
- 現在の生活にはなくてはならないこと。勉強の上で。（美野里町、60代、女性）
- 安全である。サイクルできる（経済的）。原子力発電に変わるものが無い。（美野里町、60代、女性）
- 原子力以外のエネルギーと比べ、危険ということを除けばコストの面では最有力と考える。（日立市、60代、男性）
- 私たちの現在の生活は電気を切り離しては考えられない生活になってしまったから。（常北町、40代、女性）
- 日本は資源のない国であるので、クリーンエネルギーである原子力はぜひ必要ではないか。（金砂郷町、60代、男性）
- 資源に限りがあり、自然エネルギーとあわせて電力をまかなっていく必要がある。（ひたちなか市、40代、女性）
- ①環境に優しい、②エネルギー対策で、原子燃料サイクルによって長く使用できる。（瓜連町、60代、男性）
- これからのエネルギー源。住民に心配の無い（安全）ことが何にも優先を。（那珂町、60代、男性）
- 小資源国であり、化石燃料はいつかなくなり、沢山使用すれば、大気汚染、地球温暖化につながり、原発はクリーンエネルギーであり、必要と思います。但し、絶対に人為的なミスは起こさないこと、過去の教訓と初心が大切。（東海村、70代、男性）
- 資源の少ない日本には何としても原子力に頼る。（東海村、70代、女性）
- 資源が少ない我が国では必要であると思う。（不明）

【どちらかと言えば必要な理由】

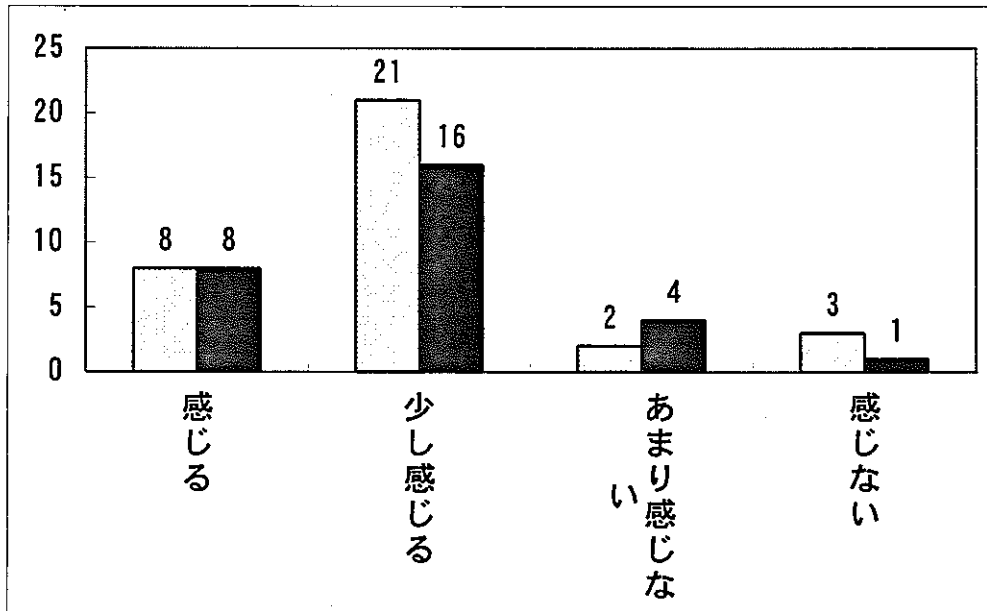
- 現在の社会生活に電力は欠かせないし、効率的だと思うが併せて太陽発電なども研究してほしい。（茨城町、50代、女性）
- 石油、石炭、天然ガス等の残りを考えると必要かと思う。（内原町、60代、男性）
- 色々なエネルギーを組み合わせ、利用していくことが良い、と思う。（笠間市、40代、女性）
- リスクはあるが、他の発電だけでは必要量がまかないきれない。（常陸太田市、

不明、女性)

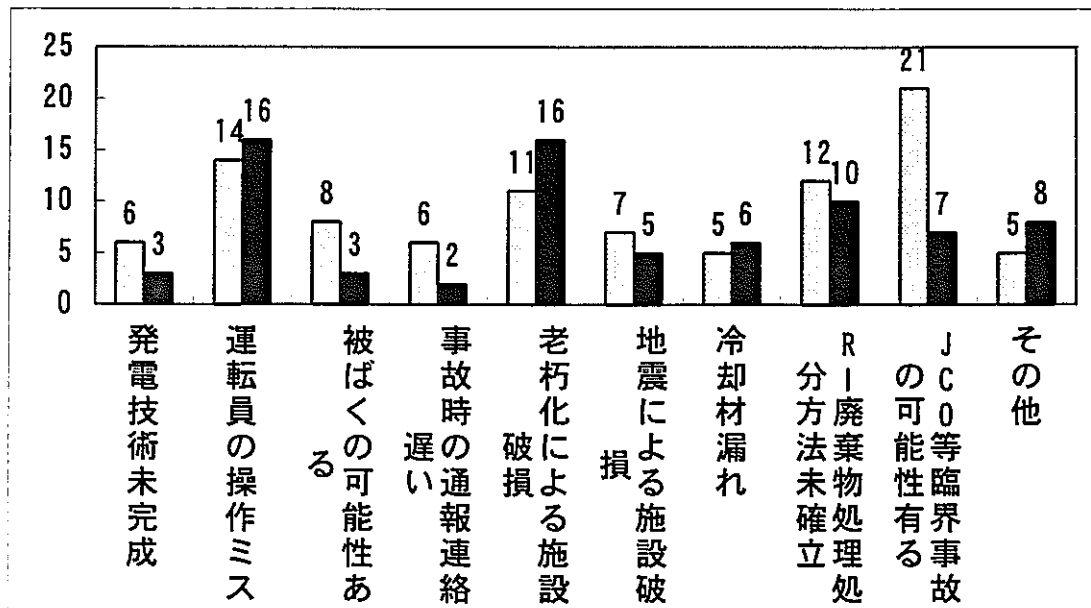
【どちらとも言えない理由】

○目前の利便さだけを追及することなく、本当の豊かさとは何かを考えると生活の仕方も変わると思う。(ひたちなか市、50代、女性)

〔設問 6-1〕原子力発電に不安を感じますか。



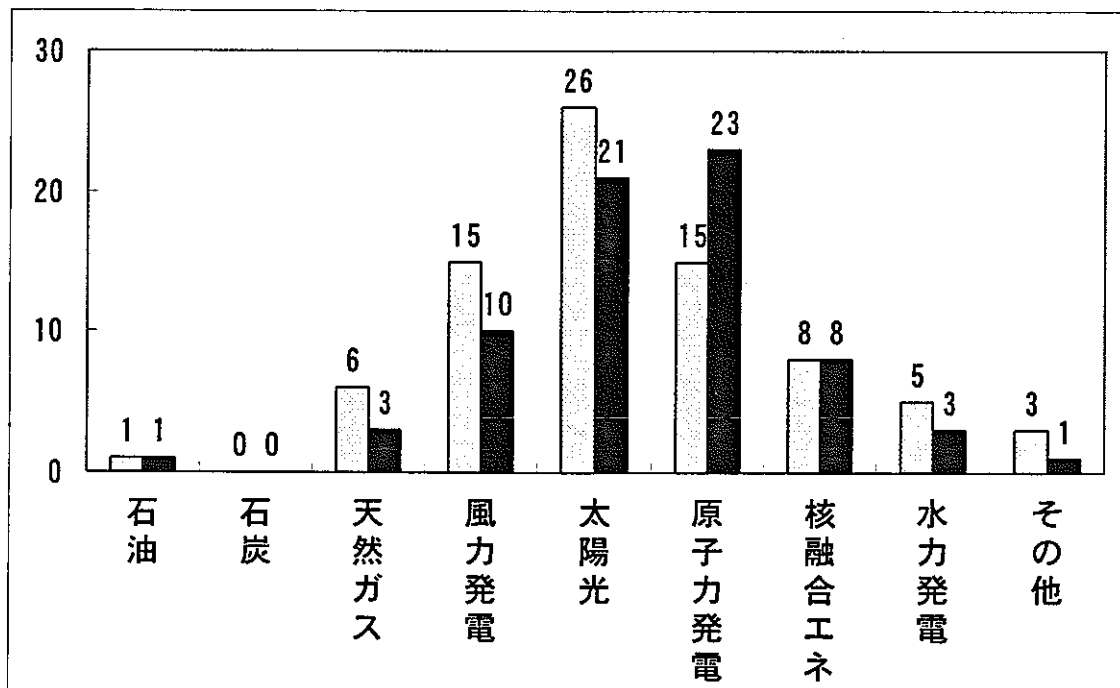
〔質問 6-2〕原子力発電に不安を感じる理由は何ですか。(複数回答)



【感じる理由—その他—】

- プルトニウムを含む核燃使用と、ナトリウム冷却材使用の”もんじゅ”。設備、材質に不安がある。(大洗町、60代、男性)
- ゲリラ的になるかもしれない。(茨城町、50代、女性)
- 危険ではあると思い、不安。業者の下請けなど。(美野里町、60代、女性)
- 不安材料は一つではなく、「大丈夫」と100%信じる事が出来ないのが本心。(笠間市、40代、女性)
- 事故が大きく報道される。(日立市、60代、男性)

【設問7】今後期待するエネルギーは何ですか。



【原子力発電に期待する理由】

- 勉強した上で知った。(美野里町、60代、女性)
- サイクルできること。量的、質的、経済的に原子力発電に変わるものは無いと思う。(美野里町、60代、女性)

【原子力発電、太陽光に期待する理由】

- 今すぐに使用できる原子力発電と共に将来的にはより安全な太陽光が実用化されればもっと良い。(茨城町、50代、女性)
- 先の長いことだが、私の子供たち、そして孫たちが幸せに暮らすためにこれからも研究をがんばって欲しいと思う。(銚田町、30代、女性)
- 色々なエネルギーを組み合わせるとよいところを取り出して利用していければと思

- う。(笠間市、40代、女性)
- 石油石炭など資源的に限界があると思われる。安全面では風力発電など一番良いと思う反面、安全面が確保されれば環境から見ても原子力発電と思う。(常北町、40代、女性)
 - 資源に限度がある(日本は特に)ので、少しでも多く期待出来るエネルギーだから。(常陸太田市、不明、女性)
 - 地球温暖化にならないようなエネルギーだから。(金砂郷町、60代、男性)
 - 自然エネルギーであること。(ひたちなか市、50代、女性)
 - 科学の先端! 次の時代のエネルギーを。更なる研究、開発を期待したい。(那珂町、60代、男性)
 - 現在は原子力に頼っている。太陽光についての研究も実施していると聞くが、いつの話になるかわからない。(東海村、70代、女性)

〔設問8〕ご自由にお書き下さい。

- 火災事故の際、使用していた紙のごみ入れは障害者の方が作っていたものと思う。金属製のものに変わるということで、仕事が減ってしまうと心配した(事故が起きなければ・・・)。(大洗町、50代、女性)
- 貴重な経験をさせていただいたことを感謝している。(茨城町、50代、女性)
- JCOの事故があり、国民の意識が高まったときをチャンスにしてもう少し底辺にまで浸透させられたら良いと思う。(茨城町、50代、女性)
- 1年間モニターをさせていただき、ありがとうございました。これからも地域の人たちを含め、PRに力を入れていただきたい。(鉾田町、30代、女性)
- モニターになって原子力の動きが必要であることが理解できるようになり、新聞等なども眼が向くようになった。美野里町役場を通して、1人でも多く勉強できるように・・・。(美野里町、60代、女性)
- 「原子力」というと、「東海村の原研」というイメージしかなく、JCOの事故があって、「色々な施設がある」と知った。「大洗工学センター」は初めて聞く名前であった。モニターになり、新聞等で原子力関係の記事が出ると、読むようになった。内容が少し理解できるようになった。今後はモニターで得たものを地域で広げていく。(笠間市、40代、女性)
- 安全面には特に力を入れてやって欲しい。一般の人への安全性のPR。(日立市、60代、男性)
- 本当にモニターに参加できて良かった。今まで原研もサイクル機構もJCOも区別が出来なかった。今では新聞なども眼を通すようになった(去年までは難しい話と頭からきめつけてしまい、原子力などの話は避けていたように思う)。(常北町、40代、女性)

- まじめに仕事に取り組み、地域の人々と関わろう、理解してもらおうと思っても、相手にもよるので、今の努力のままでいいのではないかと思う。専門の人と一般の人の知識が違って当たり前。大洗わくわく科学館やアトムワールドに来てもらって、子供たちに楽しんでもらうこと、大人が子供を連れていきながら、ミニチュアの模型や説明を眼にすることから入ってもらおうと良いと思う。私たち家族は（高1、小6祖父、祖母も含め）大洗わくわく科学館やアトムワールドなど好きでよく行く。（常陸太田市、40代、女性）
- 科学実験など、要望があれば出かけると言いますが、展示館のようなところで、実験教室の募集などしてみたいかがか（特に土曜など）。（常陸太田市、不明、女性）
- 原子力はすばらしいエネルギーであるが、諸外国が原子力発電をやめていつている。それは・・・。豊かな生活（今までの）は考え直すときでは無いか。（ひたちなか市、50代、女性）
- モニターでは、サイクル機構の内容理解が出来、よき勉強となった。（瓜連町、60代、男性）
- 今後も原子力について、勉強を続ける（地域住民と一体になっての発展を）。（那珂町、60代、男性）
- サイクル機構モニターいばらきの会合は良かった。今までにわからないところが、よくわかった。原子力によるエネルギー施設の安全管理等、その他、勉強になった。（東海村、70代、男性）
- 第6回に渡る研修会により、原子力の知識を深められた。東海村の住民は、土地や家を捨て、どこにも行けない。事故の無い安全で安心の村であることを願っている。東海村が経済的に豊かな村に立ち上ることを望んでおり、共存、共栄を望んでいる。益々の発展を願う。（東海村、70代、女性）
- 原子力に少なからず関心を持つことが出来、知識も得ることが出来た。（桂村、60代、女性）

(付録9)

「サイクル機構モニターいばらき」の概要

「サイクル機構モニターいばらき」は地域の皆さまの声を直接聴き、サイクル機構の業務運営に資することを目的に、平成11年3月に新たに設置した制度です。

モニターは、大洗町、東海村を中心に、隣接、隣々接市町村にご在住の方約30名に1年間を任期として委嘱しています。

モニターの方には、サイクル機構が開催する会合への参加と、アンケートへの協力、各種刊行物の一読等とその役割としてお願いしています。

「サイクル機構モニターいばらき」の内容は以下の通りです。

第1期（平成11年度）の概要

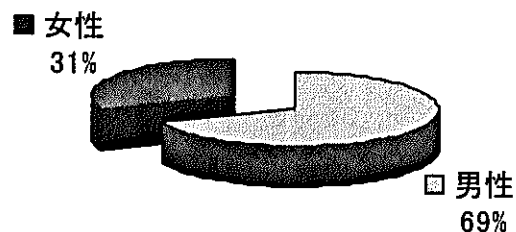
第2期（平成12年度）の概要

第3期（平成13年度）の概要

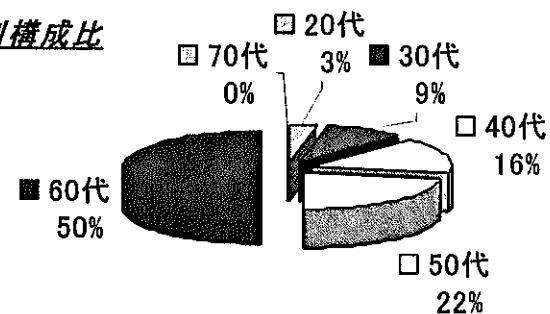
第一期 (平成11年度)

1. モニターの構成

男女構成比(男性22名、女性10名、合計32名)



年齢別構成比



2. 会合の主な内容 (会合は合計4回開催)

(1)第1回(平成11年3月23日) 東海事業所にて開催

○再処理工場見学/○JNC事業説明/○アンケート実施
【アンケート結果から】 JNC職員に欠けるもの

- ①情報を公開しようとする姿勢(官僚的、閉鎖的体質)
- ②安全に対する意識 /③地元意識

(2)第2回(平成11年6月25日) 大洗工学センターにて開催

○高速実験炉「常陽」見学/○センターの概況説明/
○東海再処理工場の安全への取組み状況説明

(3)第3回(平成11年9月28日) 東海事業所にて開催

○緊急時対策所、アスファルト固化処理施設見学/
○グループディスカッション

【主な意見】 ①PR不足/②社内全従業員の安全意識の共有化/
③自信をもって業務を遂行すること

(4)第4回(平成12年2月29日) 大洗工学センターにて開催

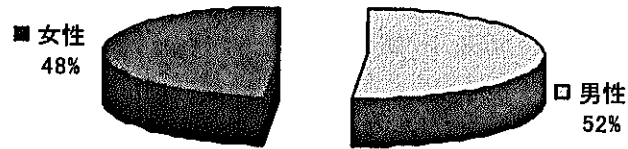
○グループディスカッション

【主な意見】 ①事故時には個人の身を守るための情報が必要/
②PRの第一は事故を起こさないこと/
③住民と話し合う機会を多く持つこと

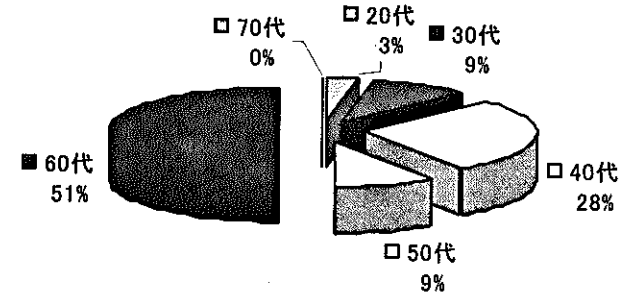
第二期 (平成12年度)

1. モニターの構成

男女構成比(男性17名、女性16名、合計33名)



年齢別構成比



2. 会合の主な内容(会合は4回開催)

(1)第1回(平成12年5月22日) 東海事業所にて開催

○再処理施設見学/○グループディスカッション

【主な意見】①安全第一で

②非常時の住民に対する迅速な対応を望む。

(2)第2回(平成12年9月13日) 大洗工学センターにて開催

○防災管理棟、安全管理棟、放射線管理棟、高速実験炉「常陽」見学/○グループディスカッション

【主な意見】①人材教育は重要。

②事故時の対応マニュアルは、家に貼れるものが良い。

③人間は間違い機械は故障する、の精神を持つ事が重要。

(3)第3回(平成12年11月29日)

東京電力福島第一原子力発電所、他

○原子力発電所、Jヴィレッジ、栽培漁業施設、エネルギー館見学

【主な意見】(事後のアンケートより)

①地元共存を主眼において設立されたJヴィレッジは良い。

②原子力発電所内の安全意識の高さを感じ取れ、好印象。

③エネルギー館は子どもが気軽に利用できる雰囲気が良い。

(4)第4回(平成13年2月26日) 大洗工学センターにて開催

○ナトリウム実験見学/○グループディスカッション

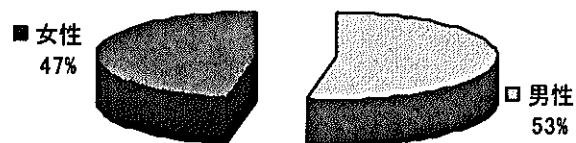
【主な意見】①現場の技術者と直接話せる場があれば良い。

②施設見学時のパネルは文字が多くわかりにくい。

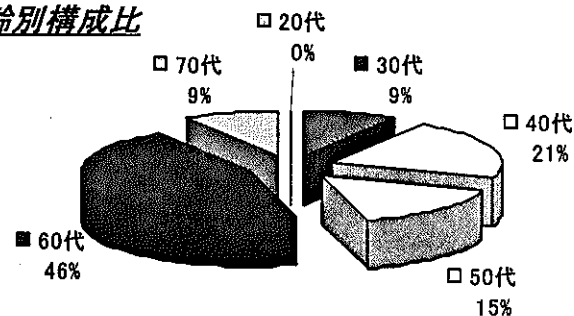
第三期 (平成13年度)

1. モニターの構成

男女構成比(男性18名、女性16名、合計34名)



年齢別構成比



2. 年間スケジュール(予定を含み、合計6回会合開催予定)

(1) 第1回会合(平成13年6月13日) 大洗工学センターにて開催

○大洗工学センターの概況説明/○高速実験炉「常陽」見学

(2) 第2回会合 平成13年7月31日 東海事業所にて開催

○東海事業所の概況説明/

○アトムワールド、プルトニウム燃料工場、防災管理棟見学

(3) 第3回会合 平成13年9月18日(大洗)、13日(東海)開催

○放射線管理棟、安全管理等見学/

○グループディスカッション(安全・放射線管理について)

【主な意見】①放射線は目に見えないから怖い。

②原子力が電気の4割をまかなっているというが、その実感がない。

③事故時の情報公開が重要(JCO事故から)。

(4) 第4回会合 平成13年11月12日 東京電力福島第二原子力発電所、他視察

○原子力発電所、Jヴィレッジ、エネルギー館見学

【主な意見】(事後のアンケートより)

①地域の活性化に繋がるJヴィレッジは良い。

②原子力発電所が地元小学校とタイアップした自然観察会は良い。

③エネルギー館は地域住民が見学しやすい場所だよい。

④東電が地域と一体となって環境整備に取り組んでいることがよく理解できた。

(5) 第5回会合(第1期～3期合同会合) 平成14年1月25日(金) 東海にて開催

○サイクル機構の近況報告/○講演会「地球環境とエネルギー」(元読売新聞論説

委員/中村政雄氏)/○アドバイスに対するサイクル機構の取組み報告/

○地層処分基盤研究施設見学

(6) 第6回会合 平成14年2月27日(水) 開催予定 大洗にて開催

○FBRサイクル国際研究開発センター見学/○サイクル機構へのアドバイス等